

PlayStation

GLOBAL FORCE

GAME MANUAL



お問い合わせ先

株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメント インフォメーションセンター Tel:03-3475-7444

※ゲームの内容、裏技等に関するご質問には、お答えできませんのであらかじめ、ご了承ください。

For Japan Only

プレイヤー 1~3人

メモリーカード 4ブロック

アナログコントローラ対応（振動のみ）

SCPS 10082



GLOBAL FORCE™

新・戦闘国家

The world is falling deeper and deeper into a chaotic state. And war is just waiting to break out everywhere. Now It's time for Global Force to go into action.

CONTENTS





STORY

いまや世界は、かつてのパワーバランスが崩れ、混迷が深まっている。平和維持の基盤となっていた国際社会システムは、完全にその機能を失い、混乱する国際情勢は、対立する3つの勢力を生み出した。

「自由連合勢力」世界の調和と均等を重んじる自由主義国家群。
「連邦勢力」旧式の経済システムから脱却できないかつての大国群。
「軍政連合勢力」武力を主要な外交手段とする軍事同盟群。

「軍政連合勢力」はこの混乱に乗じ、着々と軍事力を増強。その影響から、世界各地に紛争が勃発し、緊張が極度に高まっている。事態を憂慮した「自由連合勢力」は、紛争当事国の要請に応じて部隊を派遣し、紛争の早期解決を図る国際組織「国際紛争調停機構」を設立した。その実戦部隊こそ、世界最強の兵器を集結させた超国家的軍隊[グローバルフォース]なのだ。

「国際紛争調停機構」
International Peace Operation Committee

国際的な紛争の調停を目的として設立された組織。紛争当事国の要請に応じて[グローバルフォース]を派遣し、紛争の早期解決を図る。

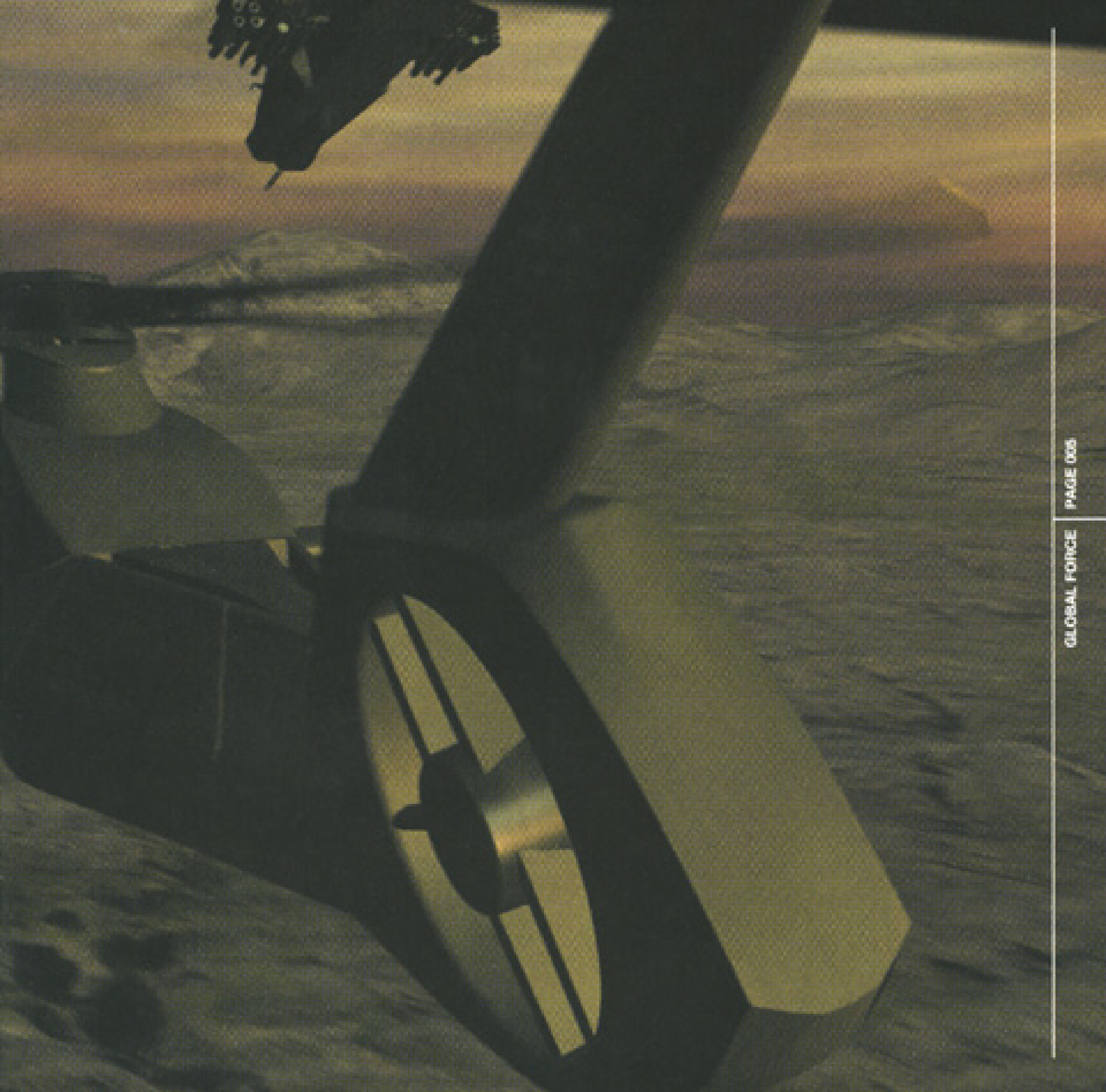
対立する世界の3勢力

「自由連合勢力」
各国が自由を尊重し、世界秩序を維持しようとする勢力。自由連合・共和国・北部王国・砂漠国・列島国の5カ国から成る。

「連邦勢力」
旧来型の社会システムを維持している、かつての大国勢力。中央連邦と東方連邦の2カ国から成る。

「軍政連合勢力」
国際問題の解決策として、軍事力の行使をためらわない勢力。軍政権国と大陸連合の2カ国から成る。





ゲーム進行の基本パターン

「GLOBAL FORCE 新・戦闘国家」は、230機種にも及ぶ現代兵器を、限られた条件の中で戦況に応じて生産・派遣し、様々な戦略性を要求されるマップ攻略に挑む戦略シミュレーションゲームです。それでは、基本的なゲーム進行パターンを紹介しましょう。

ゲームスタート

1：移動

部隊をクリックして進軍開始。周囲に気を配りつつ、行動力の範囲内で、好きな場所まで動かそう（P24「移動」参照）。行動力が残っていれば、攻撃や補給など、移動中にもいろいろな行動を指示することも可能だ（P26「行動」参照）。



2：戦闘

敵部隊を射程内に捉えたら攻撃開始（P30「攻撃」参照）。ただし、迎撃や反撃には気をつけろ（P32「迎撃」参照）。



3：補給・補充

強力な兵器も、弾や燃料がなくなればただのガラクタだ。基地や都市に戻るか補給車を展開させて、こまめに弾や燃料の補給を繰り返そう(P34「補給／補充／修理」参照)。また、マップ上に新しい基地を建設して、進軍体制や補給体制を整えることも可能だ(P46「基地の建設」参照)。



4：生産

自陣営の都市や基地で新しい部隊の生産・配備を行う(P36「生産」参照)。また、持ち越し部隊があれば、レベルアップした部隊を派遣することも可能だ(P38「派遣」参照)。



5：拡大

資源をもとに「拡大」を行い、都市や基地を整備する（P40「拡大」参照）。耐久力（都市耐久力アップ）、経済（資金収入アップ）、工業（生産力アップ）、空港（着陸可能部隊数アップ）、軍港（入港可能艦船数アップ）の５種類がある。



6：制圧・破壊

歩兵を使って敵の都市や基地、油田などを制圧したり、大型爆弾や弾道ミサイルなど強力な火器攻撃によって破壊してしまい、自軍の進軍路を確保して行く。（P48「制圧・破壊」参照）。拠点の制圧は、補給・収入の面から極めて重要な意味を持つのだ！



7：フェイズ終了

全ての部隊や都市での作業を終了させたら、「フェイズ終了」を選択し、自軍の行動を終了する。進軍権利は他に移り、今度は相手側の行動が始まる。このやり取りの繰り返しでゲームは進行する。



8：任務完了

最終的に、部隊を進軍させて、敵の司令都市を制圧または破壊するのだ！（P48「制圧・破壊」参照）。



次のゲームマップへ！

コントローラの使い方

L1ボタン：
マップ画面および
兵器画像の拡大。

L2ボタン：
マップ画面および
兵器画像の縮小。

方向キー：
カーソルの移動。
コマンドの選択・切り替え。

R1ボタン＋方向キー：
カーソルを固定させて
画面をスクロール。

R2ボタン＋方向キー：
マップ画面の傾き調整。

アナログコントローラ



△ボタン：
各種ヘルプの表示。

○ボタン：
コマンドの決定。
部隊・都市メニューの表示。

×ボタン：
コマンドのキャンセル。
システムメニューの表示。

SELECTボタン：
視界表示のオン・オフ。

左スティック：
使用しません。

LED：

STARTボタン：
簡易マップ表示のオン・オフ。

□ボタン＋方向キー左右：
未行動部隊へカーソルジャンプ。
□ボタン＋方向キー上下：
都市へカーソルジャンプ。

右スティック：
使用しません。

※振動のON／OFFは「機能」で設定できます。
※LED点灯、消灯時どちらでも振動します。

コントローラ



L1ボタン：
マップ画面および
兵器画像の拡大。

L2ボタン：
マップ画面および
兵器画像の縮小。

方向キー：
カーソルの移動。
コマンドの選択・切り替え。

SELECTボタン：
視界表示のオン・オフ。

STARTボタン：
簡易マップ表示のオン・オフ。

R1ボタン＋方向キー：
カーソルを固定させて
画面をスクロール。

R2ボタン＋方向キー：
マップ画面の傾き調整。

△ボタン：
各種ヘルプの表示。

○ボタン：
コマンドの決定。
部隊・都市メニューの表示。

×ボタン：
コマンドのキャンセル。
システムメニューの表示。

□ボタン＋方向キー左右：
未行動部隊へカーソルジャンプ。
□ボタン＋方向キー上下：
都市へカーソルジャンプ。

※そのほか、各モードにおけるコントローラの使い方は
画面最下段のバーに表示されますので確認してください。

ゲームの基本構成

■タイトル画面



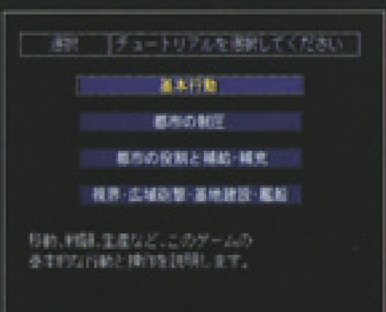
●NEW GAME

号砲一発、新たにゲームを開始します。

●CONTINUE

メモリーカードにセーブされたゲームの続きをプレイします。

●TUTORIAL



●TUTORIAL（チュートリアル）

・基本行動
・都市の制圧
・都市の役割と補給・補充
・視界・制圧砲撃・基地建設・艦船

各項目における基本的な操作方法や手順をやさしく解説します。
初心者の方はまず何よりこれをどうぞ。

■メインメニュー

●調停活動：「グローバルフォース 新・戦闘国家」の中心となる、シナリオモードを解き進めます。巻き起こる幾多の紛争を解決し、平和をもたらすことが目的となります。

●短期作戦：訓練や実戦といった、シナリオモード以外の単発でプレイできるマップが収められています。

●世界情勢：ゲームの進行に応じて刻々と変化する紛争の発生状況や各国のパワーバランスを表示します。

●戦歴：これまでクリアした各マップに関する戦歴データを表示します。クリアに要したターン数、消費資金、投入部隊数、その時使用した生産型などが記憶されています。

●OPTION

部隊リスト：持ち越している部隊のデータを表示します。

兵器構成：用意されている11タイプ以外の、ユーザー独自の生産タイプを編集します。

兵器資料：登場する兵器のあらゆるデータを表示します。

EXIT：タイトル画面に戻ります。セーブされていないデータは破棄されますので注意が必要です。

SAVE：ここまでのデータをメモリーカードのセーブします。ひとつのデータをセーブするのに4ブロック必要です。



ゲームの種類

このソフトは、ゲームの中心となる「シナリオモード」と、単発でプレイできるマップが集まった「短期作戦」の２つのモードで構成されています。

■シナリオモード

★１つのストーリーに沿った順番に従ってマップ攻略を進め、幾多の紛争を解決していくモードで、このゲームの中心となるものです。紛争当事国の要望に従い、[グローバルフォース]を現地に派遣することからゲームが始まります。
★視界、補充・補給、拡大といったあらゆる戦略要素が要求されます。
★部隊のレベルは最大の２０まで上げることが可能です。

■短期作戦

[訓練]

★訓練マップは、各テーマに沿って戦術を学ぶことを目的としたやさしいマップです。
★視界制限がなく、マップ上のすべてのユニットの動向を確認することができます。
★自陣営の都市で新しい部隊を生産したり、持ち越し部隊を派遣・配備することはできますが、都市機能を拡大していくことはできません。
★戦闘に使用される弾や燃料が減りませんので、

補給作業を行う必要がありません。
★部隊のレベルは最大10までしか上がりません。また、全滅した部隊はマップ上からは消えますが、持ち越し部隊リストには残り続けます。
★訓練マップは、全部で5種類用意されています。

【実戦】
★実戦マップは、本格的なマップを手軽に楽しむことを目的としたマップです。
★一部のマップをのぞき視界制限があり、視界外の敵の動向を見ることはできません。
★部隊のレベルは最大の20まで上げることが可能です。
★ターンが進むことによって、徐々に都市機能を拡大していくことができます。また、戦闘や移動により、部隊の弾や燃料がどんどん消費されていくので、逐一補給作業を行う必要があります。
★初期設定を変更することで、最大3人までの対戦プレイが可能です。
★実戦マップは、全部で7種類用意されています。

【紛争】
★シナリオモードでクリアしたマップは「紛争マップ」として短期作戦に追加され、再びプレイすることが可能です。
★その他の条件に関しては「実戦」と同じですが、対戦は不可能です。

マップ画面の説明

■通常画面

自陣営名、現在の自陣営名の資金、現在のターン数、ヘックス情報（カーソルのある場所名／地形効果→P55参照）、都市、空港、油田、部隊、部隊ゲージ（部隊の機数を長さで表示）をそれぞれ表示します。



ヘックス情報：カーソルのあるヘックスに、部隊または建造物がある場合に表示されます。

部隊の場合



建造物の場合



■視界

視界制限ありのモードでは、プレイヤーが見ることのできる範囲が視界内のみに限られています。視界は、プレイヤーの展開部隊、および自陣営の建物周辺にあり、航空視界、陸上視界、海上視界、水中視界の4つに分かれています。それぞれ、航空機、陸上部隊、水上艦、潜水艦に対して有効です。

視界



コマンド解説

このゲームでは、「部隊メニュー」[都市メニュー][システムメニュー]の３種のメニューによって命令を行います。ここでは、その全てのコマンドの意味を説明しますが、部隊の種類やマップ状況に応じ、表示されないコマンドもあります。

[部隊メニュー]
展開している部隊にカーソルを合わせて○ボタンを押すと移動範囲が表示され、そのあと再度○ボタンを押すと[部隊メニュー]が表示されます。

部隊メニュー

●攻撃：部隊に攻撃を指示します。ただし、攻撃できる状況にないときは表示されません。

●行動
「補給」：燃料や残弾を補給します。
「補充」：戦闘で失った部隊の機数を補充します。
「合流」：同一部隊を合流させて、機数の調整を行います。
「破棄」：部隊を破棄します。
「制圧」：拠点を制圧します。歩兵のみ可能です。
「着陸」：航空機を地上に着陸させます。
「離陸」：航空機を地上から離陸させます。
「着艦」：航空機を空母に着艦させます。
「離艦」：航空機を空母から離艦させます。
「兵装」：現在装備している兵器の変更を行います。
「修理」：被害を受けた艦船の修理を行います。
「建設」：新しい基地を建設します。基地部隊のみ可能です。

●搭載：搭載している部隊の展開・発進を行います。
●情報
「兵器」：各兵器の情報を表示します。
「視界」：部隊の視界を表示します。
「部隊」：各部隊の情報を表示します。
「名称」：部隊名を変更します。

●終了：部隊行動を終了させます。

[都市メニュー]
自陣営の建物にカーソルを合わせて○ボタンを押すと、[都市メニュー]が表示されます。

都市メニュー

●都市
「派遣」: 持ち越し部隊を派遣し配備します。
「拡大」: 都市の耐久力を拡大します。
「資源」: 資源を売却し、資金に変えます。
「視界」: 建造物の視界範囲を表示します。
「変更」: 都市機能拡大の自動・手動を切り替えます。

●経済
「拡大」: 都市の経済を拡大し、1ターンごとの資金収入を増やします。

●工場
「生産」: 部隊を新たに生産します。
「拡大」: 工場を拡大し、1ターンごとの生産力をアップします。

●空港
「発進」: 空港に着陸している部隊を発進します。
「拡大」: 空港規模を拡大し、格納できる部隊の数をアップします。

●軍港
「出港」: 軍港に停泊している部隊を出港します。
「拡大」: 軍港規模を拡大し、停泊できる部隊の数をアップします。

［システムメニュー］
マップ画面で×ボタンを押すと、［システムメニュー］が表示されます。

システムメニュー

●戦略情報
「陣営情報」：各陣営の設定と状態を表示します。
「ルール」：マップ名とルールを表示します。

●リスト
「部隊リスト」：展開部隊・持ち越し部隊一覧を表示します。
「拠点リスト」：保有拠点一覧を表示します。

●マップ
「分布」：部隊や拠点の分布を表示します。
「視界」：視界範囲の広がりを表示します。

●兵器資料
登録されている全兵器データを表示します。

●機能
「設定」：マップ上での各種設定の変更を行います（P56参照）。
「自動思考」：コンピュータに指揮を任せ、部隊が自動的に動きます。
「ゲーム中止」：ゲームを破棄し、タイトル画面に戻ります。

●データ
「クイックセーブ」：メモリー上にプレイ状況をクイックセーブします。
「クイックロード」：メモリー上のクイックデータをロードします。
「セーブ」：プレイ状況をメモリーカードにセーブします。
「ロード」：メモリーカードからデータをロードします。

●フェイズ終了
自軍の行動を終了し、相手に行動権を移します。

セーブ&ロード

ゲームデータのセーブ&ロードは、メモリーカードに記録する方法と、クイックセーブ&ロードを活用する2種類の方法があります。

■クイックセーブ&ロード

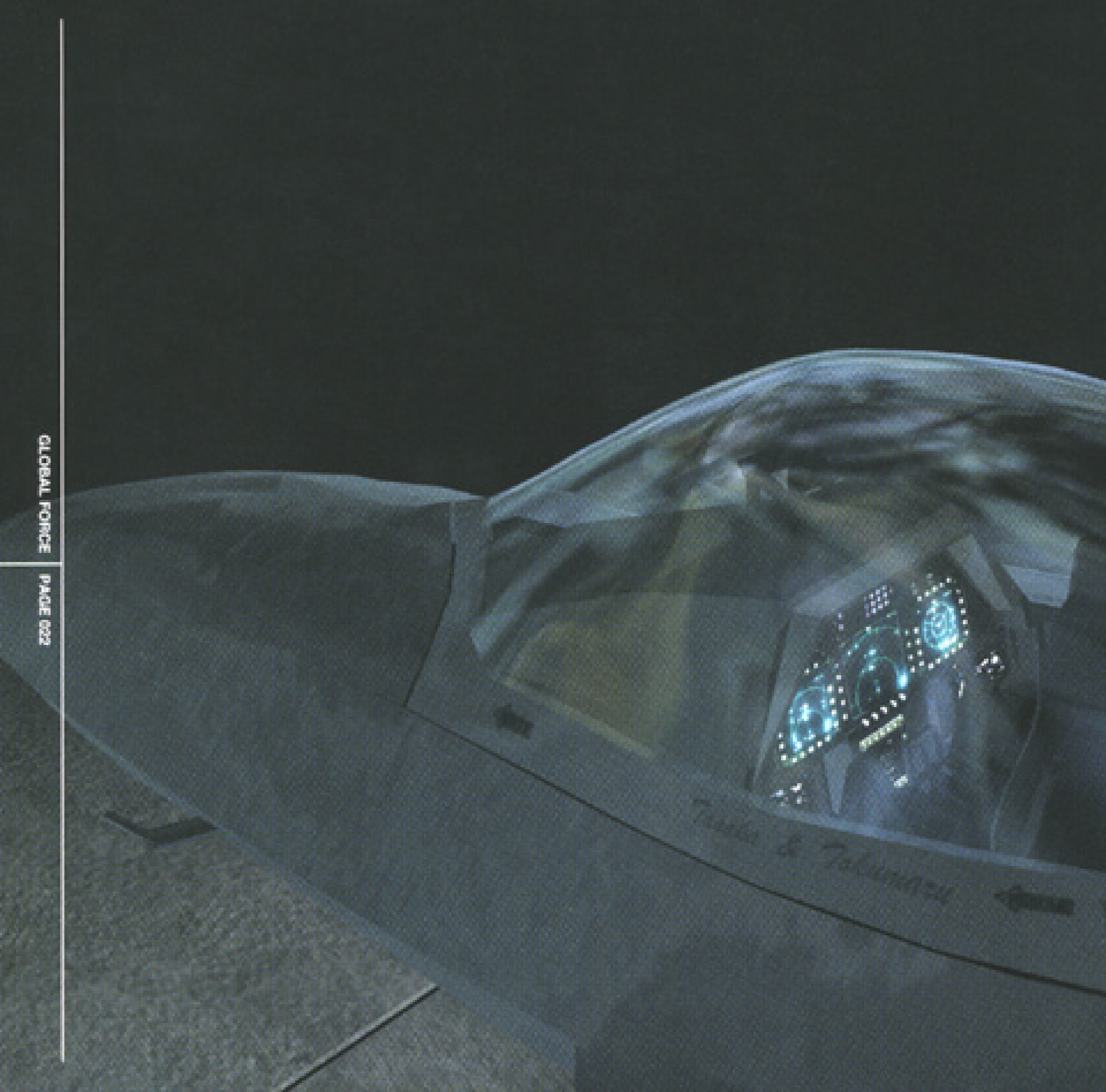
[システムメニュー]の「データ」の項目から、「クイックセーブ」または「クイックロード」を選択し、画面上部のメッセージから「実行」を指定します。これらは、メモリー上に記憶されたデータをもとに行われ、ゲームを一度中断するとデータが消えてしまうので、ゲーム中の補助的なセーブ&ロード法として活用してください。

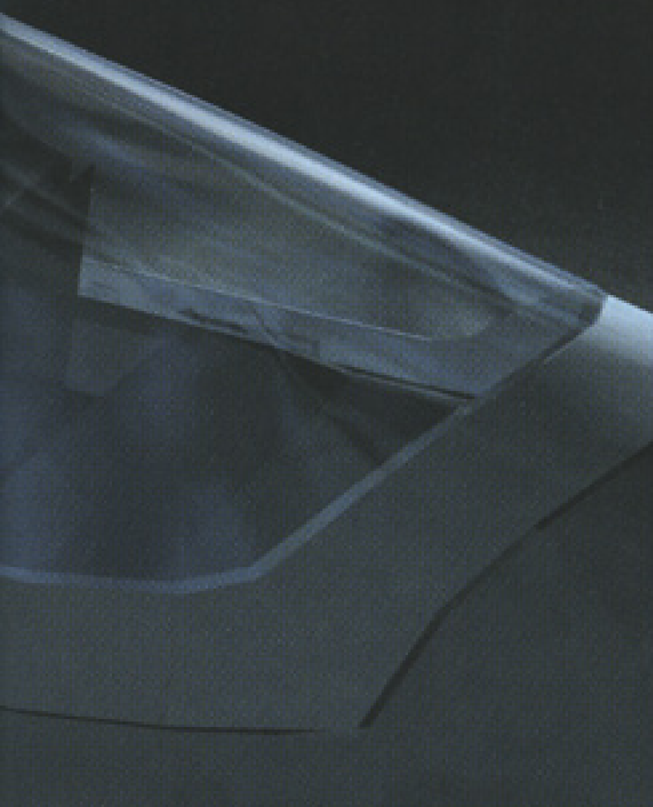
■メモリーカードによるセーブ&ロード

[システムメニュー]の「データ」の項目から「セーブ」を選択すると、メモリーカードにゲームデータをセーブすることができます。(メモリーカード差込口は1、2共に使用できます。)このとき、1データごとにメモリーカード4ブロックが使用されます。記録したデータのロードは、スタートメニューの「CONTINUE」か、[システムメニュー]の「ロード」で実行できます。また、メインメニューから「OPTION」を選択したあと表示される「SAVE」を活用すると、ユーザー生産型の編集を行った際、そのデータをセーブするのに便利です。









CASE & RULE

移動



未行動の部隊の上で○ボタンを押すと、移動可能範囲と部隊情報が表示される。



移動したい場所までカーソルを動かして、○ボタンを押すと移動が実行される。ヘックスに×印が付いていたら、そこは移動不可能な場所だ。



●明るい色の範囲は移動後の攻撃が可能、少し暗い部分は移動のみ可、その外は移動もできない場所だ。



赤い部分は敵の迎撃範囲だ。うかつに侵入するな！

■移動系ルールの解説

●このゲームには、航空部隊／陸上・海上部隊／潜水艦部隊という３つの高度があり、高度の違う部隊であれば、すでに部隊がいるヘックスへも重ねて移動することが可能です。

●部隊は、指示された移動目標に向かって、最も行動力の消費が少ない経路を自動的に選択します。その経路が、迎撃範囲を通過する場合でも同じです。

●同じ行動力を消費する経路が２つ以上ある場合には、迎撃範囲を通過しない経路を、自動的に選びます。

●視界制限なしの時は、1回の移動に限り、×ボタンで移動をキャンセルすることができます。ただし、迎撃を受けた場合や、停止後［部隊メニュー］を開いた場合は、移動をキャンセルすることはできません。

●視界制限ありの時は、移動のキャンセルはできません。

●陸上部隊は、中立の建造物を、通過はできますが停止することはできません。自陣営の建造物では、停止することができます。他陣営の建物は通過もできません。

●歩兵部隊は、どの陣営の建造物でも、停止することができます。

●艦船は、河川、湖には進入できません。また、海橋には停止できません。

●ヘリは山岳へは進入できません。

●部隊には燃料があり、燃料がなくなると移動できなくなります。

部隊情報の見方



行動



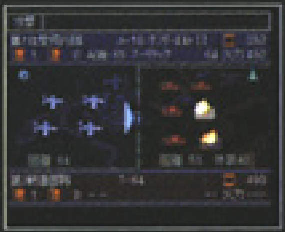
このゲームでは「行動力」の許す範囲で、様々なアクションを起こすことができる。



たとえば、着陸して･･･、



補給して･･･、



敵に攻撃を加えることもできるのだ！

■行動系ルールの解説

●「行動」には、行動力を消費する行動と、消費しない行動があります(下記リスト参照)。

●航空機や艦船が都市や基地に着陸・入港するには、空港や軍港がなければできません。ただし、敵陣営の拠点には着陸・入港することはできません。

●空港の規模と同じ数の航空機が着陸している場合には、それ以上の部隊は着陸できません。これは軍港も同じです。

●着陸した航空機や入港した艦船には、そのまま移動が指示できますが、その場合離陸または離艦の行動力が自動的に消費されます。

●VTOL機、ヘリコプターは、空港以外にも着陸することができます。着陸できない地形は、山地、山岳、森、海洋、湖、空港のない都市です(未部隊をクリックすると、部隊情報の右上に発着可能は「OK」、不可能は「NO」と表示されます)。橋以外の道路のある地形と、建造物外郭には、その下の地形がどんなものでも着陸することができます。

●飛行中の航空機は、次の行動フェイズ開始時に、滞空燃料として5の燃料がマイナスされます。この時点で燃料切れとなった航空機は、墜落・全滅してしまいます。

●燃料切れとなったVTOL機、ヘリコプターは、下が着陸可能な地形ならば不時着しますので全滅することはありません。ただし、拠点(空港も含む)の上で燃料が切れた場合、空港が空いていても建物に突っ込んだとみなし墜落してしまいます。

消費行動力表								
消費行動力0	補給	補充	兵装	合流	搭載	破棄	修理	制圧
消費行動力2	着陸	離陸	着艦	離艦(いずれもヘリコプター)				
消費行動力3	着陸	離陸	着艦	離艦(いずれも飛行機)				
※攻撃に必要な行動力は、兵器ごとに異なります。								

視界



ちょっと強引に単独で部隊を派遣してみた。誰もいないようだが･･･、



視界外から敵ユニットが突然現われた！なんてことが！



偵察部隊は広い視界を持っているので、まずこれらの部隊を展開して周りの様子をうかがおう。



空や海の監視には、当然、偵察機が打って付け。しかし、移動中に迎撃される恐れもあるから、1ヘックスごと慎重に動かしていくのがいいかも。

■視界系ルールの解説

●以下の説明は、視界制限ありのときのみ関係します。

●視界の種類は次の４種類です。飛行機とヘリコプターの視界は同じになっていますので注意してください。

★航空視界：飛行機、ヘリコプターに対する視界。
★陸上視界：陸上部隊に対する視界。
★海上視界：水上艦に対する視界。
★水中視界：潜水艦に対する視界。

●視界は、部隊と拠点を中心に広がっています。部隊のレベルや空港の規模が上がればその範囲は拡大されます。

●陸上視界の中に捉えていない敵建造物は、各種規模、空港内の敵の有無などその詳細を知ることはできません。

●部隊の高度が変化すると、視界で捉えることができなくなります。たとえば、航空機の着陸時、艦船の入港時などです。例えば着陸中の偵察機は、その航空視界が意味を成しません。

●水中視界は、マップ上に表示されません。水中視界の確認には、［システムメニュー］の「マップ」から「視界」を選択してください。

視界画面の見方

飛行機やヘリコプターに対する視界（航空視界）を表します。

陸上部隊、歩兵、建造物に対する視界（陸上視界）を表します。



艦船に対する視界（海上視界）を表します。

潜水艦に対する視界（水中視界）を表します。

※なお、各部隊の視界は、兵器情報画面でも確認できます（P52参照）。

攻撃



敵の近くに接近したら、さっそく攻撃開始。まず[部隊メニュー]から「攻撃」を選択しよう。



次に相手を攻撃する兵器を兵装の中から選択する。方向キーを上下することで兵装リストはスクロール。同時に射程もグリーンで表示される。



敵も攻撃能力がある場合、当然「反撃」をしてくるぞ。



どれだけ被害を与えられるかは、その目標に対する使用兵器の命中率と火力に準じている。また、残された行動力と残弾の範囲で、複数回攻撃も可能だ。

■攻撃系ルールの解説

●攻撃を行うには、現在の行動力が、「攻撃行動力」以上なくてはなりません。この攻撃行動力は、部隊によって異なります(P26参照)。

●各兵器に残弾がなくなると、部隊情報および兵装リストの兵器項目が赤字で表示されるようになります。

●例えば、8機いる部隊と3機しかいない部隊とでは当然総合力には差が出ます。

●視界にとらえていない敵部隊に対して攻撃を行うことはできません。

●広域包撃、拠点攻撃は、視界外の都市を攻撃することができます。

■反撃系ルールの解説

●反撃は、全て自動で行われます。

●反撃に使用できる兵装があれば、弾が尽きるまでフェイズ内に何回でも反撃を行います。

●基本的に、長距離射程の兵装は反撃に使用できません。ただし、中対空ミサイル、大型艦砲、防空ミサイルはこの限りではありません。兵装データの「反撃・可／不可」の覧で確認可能です。

●視界にとらえていない部隊から攻撃を受けた場合、反撃を行うことはできません。

兵装リストの見方



※「ー」は攻撃不可を表します。

迎撃



マップ上に表示される赤いエリアは、迎撃を喰らう場所だ。



進入すると、その敵が装備している最も有効な兵器で追撃や迎撃をしてくる。戦略的には、攻撃されるの心配のない部隊で、最初に敵を叩くのがベター。



逆に、敵部隊の進入を食い止めるためには、迎撃部隊を戦略的に展開し、防衛ラインをしっかり作ることが大切。



地上部隊にはロケット砲部隊、航空部隊にはミサイル砲部隊というように"天敵"を適所に配備して、有利に戦いを進めよう。

■迎撃系ルールの解説

●迎撃は、全て自動で行われます。

●目標部隊に対して攻撃力を持つ兵装は、原則的に迎撃が可能です。ただし、以下の例外があります。

★対空機関砲は、陸上部隊に対して迎撃を行えません。対地地機関砲は可能です。
★ヘリコプターは、固定翼機に対する迎撃を行えません。
★輸送ヘリコプターの機銃では、ヘリコプターに対する迎撃を行えません。
★自走対空砲以外の陸上部隊の小銃、機銃、機関砲は、ヘリコプターに対して迎撃を行えません。

●行動フェイズ側の行動中の部隊1つに対して、迎撃側の部隊は1回しか迎撃を行えません。

●フェイズ内で一度交戦した部隊は、攻撃をしかけた部隊が行動終了となるまで、以後迎撃することはできません。

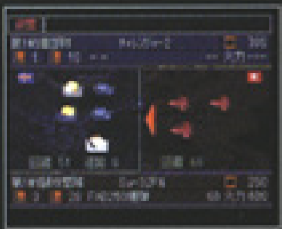
●輸送機、輸送ヘリ、輸送艦、輸送車、歩兵戦闘車、強襲揚陸艦から、「展開」によって迎撃範囲に入ってきた部隊に対しては、迎撃は行われません。

●視界外から迎撃を受けた場合、どのような部隊から迎撃が行われたかを知ることはできません。

●迎撃範囲に入った直後の部隊は、そこで停止すれば、迎撃より先に攻撃／補給／補充などを行うことができます。ただし、この攻撃が終了した後、攻撃目標とした部隊以外の敵部隊の迎撃範囲にいた場合は、その部隊からの迎撃を受けます。

●赤く表示された迎撃範囲に入っても、迎撃されない場合があります。これは、その迎撃側部隊が、行動中の部隊を視界に捉えていないためです。

補給／補充／修理



部隊がダメージを受けてボロボロになってしまった。弾ももうないし。



こういう時は自分の拠点に逃げ帰って･･･、



[部隊メニュー]の「補充」を実行すれば部隊が回復する！



ただしそれ相応の資金と生産力が必要です。

■補給、補充系ルールの解説

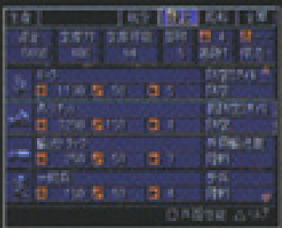
●補充は、都市・基地・都市内の空港・軍港、及びその外郭で行われます。
●都市・基地に隣接する河川や海、空中では補充・補給は行われません。
●「補充」は部隊数、「補給」は燃料・弾薬が回復します。
●部隊を補充するには、資金と生産力か補給物資が必要です。
●航空機を１機補充するには、その兵器を生産する時に必要な資金と生産力の１／４が必要になります。同様に、陸上部隊や艦船を補充するにはそれぞれが１／８必要になります。
●「補給物資」は、都市または基地でなければ補給できません。つまり、補給車から補給を受けた別の補給車は、燃料は補給されますが補給物資は補給されません。
●燃料の補給では、資金／補給物資は消費されません。
●弾薬は兵装ごとにそれぞれ価格が設定されていますので資金／補給物資が必要になります。
●部隊搭載中の輸送部隊が補充をうければ、搭載している部隊も補充判定されます。
●空港は生産力を持たないため補充はできません。
●油田は単なる収入源なので、補給はできません。

補給手段		
	補給車	地上部隊およびヘリコプター・VTOL機が着地して隣接している場合可能。
	空中給油機	飛行機が隣接している場合、燃料のみ補給可能。弾薬は補給されない。
	補給艦	艦船が隣接している場合可能。ただし、補給艦と同じヘックスに潜航している潜水艦には補給できない。
	空母	艦載機、ヘリコプターなどの部隊が着艦すると可能。
	都市／基地	陸上部隊は、都市／基地と同じヘックスにいるか、外郭にいる場合に可能。航空機部隊は、都市／基地に着陸すれば補給可能。また、ヘリコプターやVTOL機は都市に隣接したヘックスに着陸しても補給可能。艦船は、都市に入港すると補給可能。
	空港	航空機部隊は着陸すれば補給可能。また、ヘリコプターやVTOL機は空港に隣接したヘックスに着陸しても補給可能。

生産



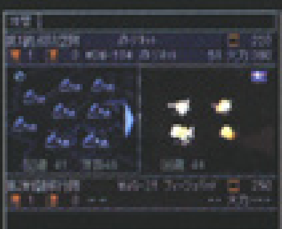
相手が大量の航空機を送り込んできた。こっちは対空兵器で対抗しよう。



［都市メニュー］で「生産」を選ぶと、生産可能な部隊リストが表示される。



パトリオットを生産して配備。資金と生産力が必要だ。



この通り！（実際は生産した次のターンまで行動できません）。

■生産系ルールの解説

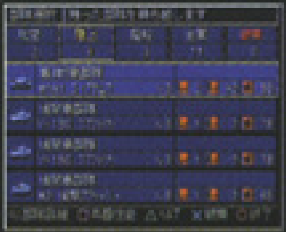
●生産は、都市と基地で行います。
●部隊の生産は、その都市や基地に生産力がないとできません。
●部隊を生産するには、それに応じた資金と生産力が必要です。
●生産した部隊は、陸上兵器は基地や都市周辺の地上に、航空機は都市や基地内の空港に、艦船は軍港に配備・格納されます。
●生産した部隊を配備・格納する場所がないときは、部隊を生産することはできません。
●空港や軍港に、空港(軍港)許容部隊数と同数の航空機(艦船)が着陸している場合も生産できません。

生産部隊リストの見方



※生産部隊リストは、方向キーの左右で、航空機→陸上部隊→艦船→全軍と切り替わります。
また、□ボタンで詳しい兵器性能、△ボタンでヘルプ画面が表示されます。

派遣



マップをクリアした時に残っていた部隊は「持ち越し部隊」として最大80部隊まで保存される。



次のマップの都市や基地で「派遣」をすると、



さっきの持ち越し部隊をまた使えるのだ。

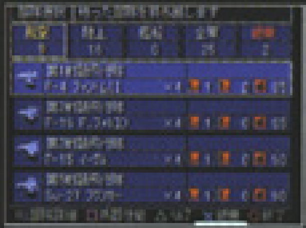


部隊は経験値を積ませればどんどんレベルがアップするから、持ち越し→「派遣」を繰り返して、最強の精鋭部隊に育てよう。

■派遣系ルールの解説

●派遣は都市と基地で行います。
●マップクリアで持ち越し登録した部隊は、「派遣」を行えば再び展開させることができます。
●部隊レベルの最高値は20です。
●「派遣」は、部隊を生産する時と同じだけの資金を消費しますが、生産力を必要としません。
●派遣した部隊を配備する場所が拠点周辺にないときは、部隊を派遣することはできません。
●派遣した部隊は、陸上兵器は基地や都市周辺の地上に、航空機は都市や基地内の空港に、艦船は軍港に配備・格納されます。
●空港や軍港に、空港（軍港）許容部隊数と同数の航空機（艦船）が着陸している場合も派遣できません。

■部隊の持ち越し



持ち越しできる部隊は80まで。不要な部隊は、×ボタンを押すことで削除することができる。



部隊の種別は、方向キーの左右で変更できる。持ち越し不要な部隊を選んだら、スタートボタンを押して、上部メッセージの「実行」を選択しよう。

拡大



都市耐久力、経済規模、工業規模、空港規模、軍港規模の５つの要素を成長させる。



「経済」を選択して経済規模を拡大すると、1ターンごとに得られる資金が100アップする。



「工業」を選択して工業規模を拡大すると、生産力が100アップし、より多くの部隊や強力な部隊を生産できるようになる。



「空港」や「軍港」を選択してその規模を拡大すると、そこに着陸・入港できる航空部隊や艦船の数がアップするのだ。

■都市機能拡大系ルールの解説

●都市機能の拡大には"資源"が必要です。

●拡大を行わなかった時は資源は蓄積されます。

●経済、工業、空港、軍港の拡大には、100の資源が必要です。

●都市の耐久性の拡大には、50の資源が必要です。ただし、爆弾等による被害を都市や基地が受けていない場合は、耐久性を上げる必要はありません。

●都市機能と各パラメータの関係は、以下の通りです。

司令都市／都市			
	開始時	制圧時	最高値
拠点規模	16	16	16
経済規模	3	1	16
工業規模	1	1	4
空港規模	1	1	4
軍港規模	1	1	4

基地				
	開始時	制圧時	建設時	最高値
拠点規模	16	16	16	16
経済規模	3	1	1	8
工業規模	1	1	1	4
空港規模	1	1	1	4
軍港規模	1	1	1	4

★経済規模：規模1につき、100の収入が得られます。

★工業規模：規模1につき、100の生産力が得られます。

★空港・軍港規模：規模1につき1部隊が着陸または停泊できます。また、上級モードでは都市の視界が広がります。

●基本的に生産力は各ターンの開始時に得られますが、工業を拡大した直後にも100の生産力が入ります。
●空港・軍港は、規模拡大が終了した時点ですぐ効果が現われます。
●都市や基地が攻撃され、耐久性が減少すると、その減少規模数だけ工業規模と空港・軍港規模が減少します。
●攻撃を受けて減少した都市や基地の耐久性は、「都市」→「拡大」で回復させることができます。都市規模がゼロになると、その都市や基地は、制圧もしくは破壊されたことになります。
●軍港を持つ都市および基地は、海洋に面しているものだけです。湖、浅瀬、岩礁にのみ面している都市には、軍港は作られません。

都市情報画面の見方



■資源

●1ターンに算出される資源は、その周辺のヘックスの状況により決まります。以下に示しますが、「都市」→「資源」から「採掘状況」で確認可能です。



都市自身	40
陸地・河川	10
海洋・岩礁・湖	0



●都市や基地に備蓄した資源は、必要に応じて売却して、資金に変えることができます。[都市メニュー]から「都市」→「資源」から「売却」を選択します。資源10につき、100の資金が得られます。

輸送と合流



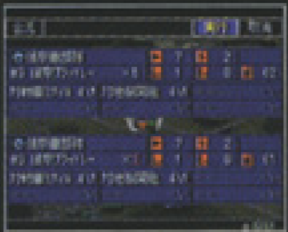
部隊を輸送する場合は、輸送したい部隊を輸送部隊の上まで移動させて、まず搭乗させよう。輸送部隊が空港や軍港にいる時は、都市中心部まで移動させる。



輸送部隊を、希望の場所まで動かしたら、[部隊メニュー]を表示させて「搭載」を選択する。



次に、展開したい部隊を選んで、近隣の配置場所を決めればOK。展開は地上でなければできないから、航空機は地上まで着陸しなくてはならない。



一方合流は、合流部隊と隣接するよう部隊を動かし、[部隊メニュー]から「行動」→「合流」を選んで、方向キーで機数調整を指定すれば完了。

■輸送系ルールの解説

・他の部隊を輸送できる部隊と、その搭載可能部隊数は以下の通りです。

輸送機	陸上部隊２部隊
輸送艦	陸上部隊４部隊
強襲揚陸艦	陸上部隊、ヘリ、VTOL4部隊
輸送ヘリ	歩兵戦闘車：歩兵１部隊
VTOL空母	ヘリコプター・VTOL4部隊
航空母艦	艦載機・ヘリコプター・VTOL4部隊

●機数が減少しているその他の輸送部隊は、その減少具合に比例して輸送できる部隊数も減少します。例えばダメージ４の強襲揚陸艦は２部隊の輸送しかできません。

●輸送機は、着陸状態でなければ部隊の搭載、展開はできません。

●入港中の航空母艦には、着艦はできません。

●「搭乗」行動を行った部隊は、そこで行動終了となります。

●搭載されている部隊は、攻撃行動をとることはできません。

●輸送部隊から展開された陸上部隊は、すでに行動終了の状態で展開されます。

●航空母艦に着艦している航空機は、航空母艦から、直接行動させることが可能です。ただし、航空母艦が行動中にはできません。これは、輸送艦等に比べて、空母の航行速度が速いことによるものです。

●部隊を搭載している部隊が攻撃を受け、機数が減少すると、搭載されている部隊も、同じダメージを受けます。例えば、歩兵８人を載せたヘリが攻撃を受けて１機になると、歩兵は残り２人になります。４部隊搭載した強襲揚陸艦等の場合、例えばダメージを受けて耐久度が２になると、３部隊が壊滅し、１部隊のみが残ります。

■合流系ルールの解説

●他の部隊を搭載している輸送部隊は合流できません。

●合流では、戦闘で失った部隊の機数調整が実行できます。なお、部隊の基本的な機数構成は以下の通りです。

主な航空機	４機
偵察機、早期警戒機など	１機
ヘリコプター	４機
車両	８両
歩兵	８人

●合流を行うと、合流元の部隊も、合流された部隊も、行動終了となります。

基地の建設



基地を建設するには、まず基地部隊を都市で生産しよう。[都市メニュー]を開き、「工業」→「生産」で基地部隊を指定する。



基地部隊の生産には、資金5000と生産力400が必要で、経済規模が8以上あることが条件です。生産が完了したら、周辺に配備しよう。



新しく基地を建設したい場所まで基地部隊を移動させよう。移動後に基地の建設はできないので、新基地建設は次のフェイズまで待とう。



[部隊メニュー]から「行動」→「建設」を選択。そのあと「実行」を指定すれば新基地の誕生。

■基地系ルールの解説

●基地部隊の生産は都市でのみ可能です。基地では生産できません。

●基地部隊を生産すると、その都市の経済規模が４減少します。

●基地部隊は、マップ上に１部隊しか存在できません。

●基地部隊は補充できませんが、1人でも残っていれば完全な基地を建設可能です。

●都市、基地、海橋に隣接したヘックスでは、基地の建設はできません。

●１陣営がマップ上に建設できる基地数は10までです。

●基地部隊は持ち越しできません。

●基地部隊は、どのような生産型を使っていても生産可能です。



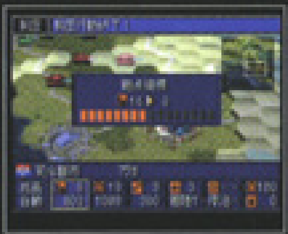
制圧・破壊



中立都市や敵の拠点などの占領は歩兵部隊によって行う。まず歩兵を、目的陣地の中心部に移動させよう。



[部隊メニュー]から、「行動」→「制圧」を選択。制圧には行動力が必要ないので、移動後の行動力ゼロの状態からでも「制圧」は可能。



「制圧」を実行すると、その部隊の部隊数とレベルに応じて、陣地の耐久性が減少していく。



一部兵器の攻撃で、拠点を「破壊」してしまうことも可能だ。

■制圧系ルール

●制圧は歩兵部隊のみ実行可能です。

●歩兵部隊には、歩兵、重歩兵、ミサイル兵の３種類がありますが、制圧能力に違いはありません。

●レベル１の歩兵が制圧行動を行うと、その歩兵部隊の人数と同じ数の都市耐久性、工業規模、空港、軍港規模が減少します。レベル20の歩兵の場合、1ターンで制圧を完了できます。

●制圧行動により、都市耐久性をゼロにすると、制圧となります。

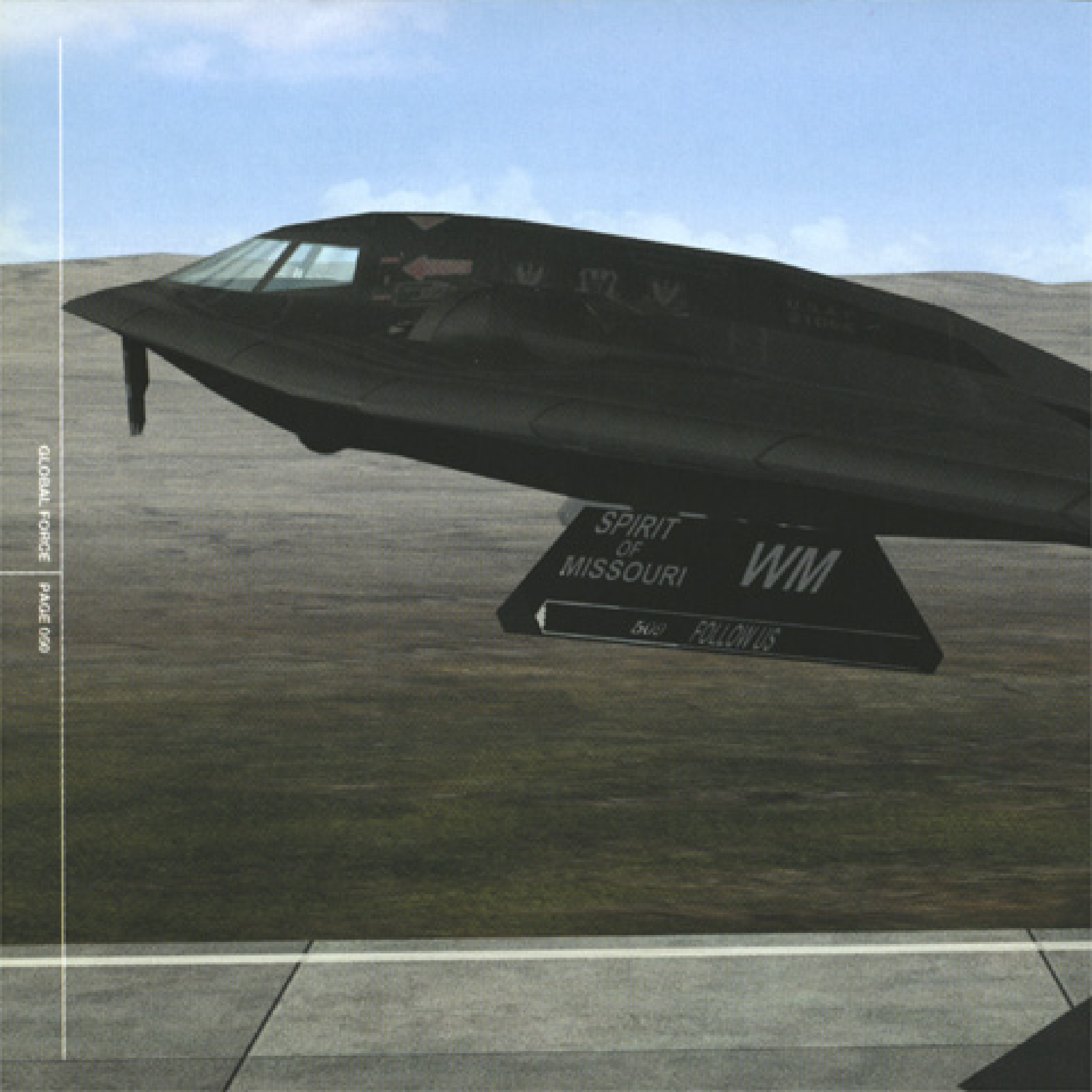
●占領した都市の規模は、都市：16、経済：3、工場：1、軍港：1の状態になります。

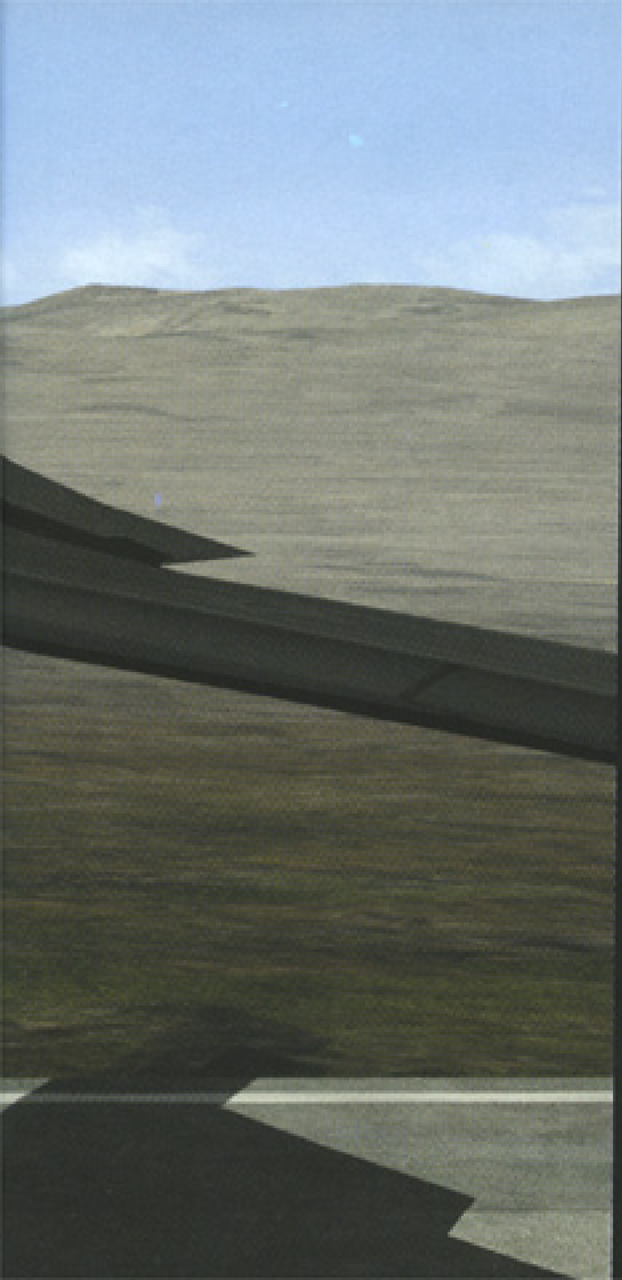
■破壊

歩兵部隊によって中立国や敵陣地を「制圧」するほかにも、爆撃機などによって拠点を攻撃し、拠点を壊滅させることが可能です。建造物を攻撃できる武器としては、大型爆弾・弾道ミサイル・巡航ミサイル・大型ロケット砲・大型艦砲があり、中には数発で都市を壊滅してしまう強力な兵器もあります。

壊滅された陣地は廃墟となってしまいますので、そこを制圧することはできません。




SPIRIT OF MISSOURI
WM
FOLLOW US



OTHERS

兵器情報

［都市メニュー］の「工業」→「生産」で表示される生産可能部隊リストで□ボタンを押すと（または、「OPITON」メニューの「兵器構成」や「兵器一覧」で表示される兵器リストで○ボタンを押すと）兵器性能の画面が現れます。ここでは、□ボタンで兵装データ、△ボタンで画像データ、○ボタンで写真画像をそれぞれ確認することができます。



兵器性能画面



兵装データ画面



画像データ画面



写真画像画面

価格：
「生産」に必要な資金

生産力：
「生産」で消費される
生産力

兵器名

マップ上のアイコン

各部隊からの
攻撃に対する回避率

各高度に対する視界

航空機
ヘリコプター
陸上兵器
歩兵
建造物
艦船
潜水艦



耐弾性：兵器の装甲性能

行動力：初期行動力

兵器種別名

攻撃消費：
攻撃に必要な行動力

離着陸消費：
離着陸に消費される
行動力

移動方法

兵器の種類

搭載が可能な部隊先

生産可能な陣営

燃料：
搭載できる最大燃料

ステルス性：
レーダー誘導兵器に
対する回避性能

■兵器性能画面の見方


兵装の正式名称
搭載可能な
弾数と破壊力
射程
兵装名
・各攻撃目標に対する命中率
（ーは攻撃不可）
発射弾の特徴
飛行機
ヘリコプター
地上兵器
歩兵
建造物
水上艦
潜水艦
反撃の可／不可

■兵装データ画面の見方

地形効果

部隊は、その移動方法により、移動しやすい地形と、移動しにくい地形があります。これは、自動的に判断され、移動範囲として表示されます。
部隊が「戦闘」を行う際にも、地形によって影響が生じます。このように地形から受ける影響のことを“地形効果”と呼び、その内容はそれぞれの場所によって異なります。
なお、マップ画面の何もないところで△ボタンを押すと、その地形における戦闘での影響率等が確認できるヘルプウィンドウが表示されます。ただし、飛行中の航空機にはこの地形効果は及びません。

■地形による戦闘の影響率（%がアップするほど命中率が低下）

道路	0%	都市	60%
平野	10%	橋	0%
湖・海洋	0%	砂漠	10%
森林	40%	山岳	50%
外郭	40%	山岳	30%

ユーザー生産型の編集

この「グローバルフォース」には、230種類以上の現代兵器が登場します。これらの兵器は生産国別に11の生産型に属しており(別冊の兵器図鑑をご覧ください)、ゲームを始める前に「設定」でその使用する生産型を変更することもできます。このとき、あらかじめ「生産型編集」のメニューで自分なりの生産型リストを編集をしておけば、好みに応じた兵器で戦術を展開することができます。

■ユーザー生産型編集の手順

1:「OPTION」メニューから「兵器構成」を選択。

スタートメニューで「NEW GAME」を指定したあと、「OPTION」を選択します。「OPTION」メニューから「兵器構成」を選択し、ユーザー生産型編集の作業を行います。編集可能な生産型ナンバーは、4まで用意されています。

2:好みのユーザーナンバーを選ぶ。

好みのユーザーナンバーを選択すると、登録可能な兵器の一覧が表示されます。兵器リストは方向キーの上下でスクロールします。また、□ボタンで兵器の詳しい情報を確認することができます。





3：登録したい兵器を選ぶ。

自分の使いたい兵器にカーソルを合わせ、○ボタンで決定していきます。登録は70まで可能で、その数が各種類別に上部のウィンドウに記入されていきます。また、方向キーの左右で「構成結果」を選択すると、その構成を確認することができます。



4：編集したデータをセーブする。

登録のキャンセルは、選択した兵器を再度指定することで行います。選択作業が終了したあと×ボタンを押して、「登録結果を残す」を「実行」します。ただしこの時、メモリーカードにはデータは記憶されていませんので、メインメニューの「OPTION」→「SAVE」でメモリーカードにセーブされることをお勧めします。

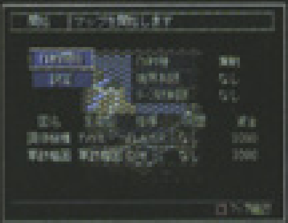


ゲーム設定の変更

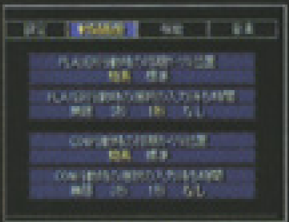
ゲーム設定の変更は、[システムメニュー]の「機能」→「戦闘設定」コマンドおよび、各マップが始まる前の開始画面の「設定」で行います。ここでゲーム設定を変えることで、プレイヤーの好みに応じた戦闘が展開できるようになります。

■戦闘設定画面の説明

戦闘設定には、戦闘画面、機能、音楽の３つの画面があり、方向キーの左右で切り替えができます。



PLAYER行動時の初期カーソル位置：「標準」に指定すると、プレイヤーの攻撃時に戦闘シーンが3Dグラフィックで再現されるようになります。
PLAYER行動時の選択の行動待ち時間：
（プレイヤーフェイズの戦闘突入時、簡易戦闘か標準戦闘かを入力する待ち時間を設定します。）
COM行動時の初期カーソル位置：「標準」に指定すると、コンピュータの攻撃時に戦闘シーンが3Dグラフィックで再現されるようになります。



COM行動時の選択の行動待ち時間：（COMフェイズの戦闘突入時、簡易戦闘か標準戦闘かを入力する待ち時間を設定します。）

フェイズ開始時の全補給・全補充：フェイズ開始時に行われる自動補給および自動補充の機能を、好みに応じて変更できます。

迎撃確認：（迎撃範囲に入ろうとした時、プレイヤーの意志を確認するかどうか設定します。）

ヘックスライン：「ON」にすると、マップ上にヘックスラインが表示されるようになります。

機数ゲージ：「OFF」にすると、部隊に表示される機数ゲージが表示されなくなります。

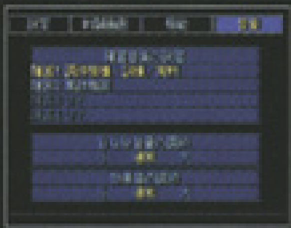
振動機能：振動機能付きコントローラを使用した際に行われる振動設定を、好みに応じて変更できます。



陣営音楽の設定：各陣営のフェイズ中に流れるBGMを、方向キーの左右で変更することができます。OFFにするとBGMは流れなくなります。

BGM音量の調整：BGMの音量を調整することができます。

効果音の調整：効果音の音量を調整することができます。



■開始設定画面の説明

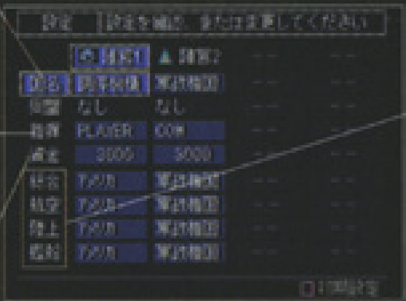
各マップ開始時の画面で「設定」を選択すると、次の設定が変更できますが、マップによっては変更できない項目もあります。各項目の設定変更は、○ボタンを押すことで行います。各生産型の変更では、ユーザ生産型をあらかじめ登録しておけば、プレイヤーの好みに応じた兵器で戦闘を展開できるようになります。



国名：
陣営が所属する国名を変更します。
国名を変更すると、生産型も
自動的に変更されます。

指揮：
各陣営の指揮を、
コンピュータが取るか
プレイヤーが
取るかを選択できます。

資金：
ゲーム開始時に持っている
資金の額を変更できます。



総合：
総合的な生産型を
変更できます。

航空：
航空部隊の生産型を
変更できます。

陸上：
陸上部隊の生産型を
変更できます。

艦船：
艦船の生産型を
変更できます。

前作からのルール変更

●拠点

・都市などの建造物は全て拠点と呼びます。

・拠点の収入は、「経済」規模によります。耐久力規模には左右されません。

・拠点が攻撃や制圧を受けると、耐久力規模のみ減少します。それ以外の被害は一切ありません。

・基地でも資金収入を得られ、部隊を生産することができます。

・拠点の各規模の拡大操作のデフォルトは「自動」です。

・規模拡大の「自動」は、フェイズ終了時に判定されます。

●建設

・移住部隊はありません。「基地部隊」により、基地のみを建設できます。

・基地部隊は、都市でのみ生産することができます。

・基地部隊の「建設」コマンドで基地を建設します。残り行動力がどのような状態でも実行できます。

●制圧

・歩兵による占領は、「制圧」と呼びます。

・「制圧」行動は、残り行動力がどのような状態でも実行できます。移動後の実行も可能です。

・「制圧」行動を行った歩兵は、無条件で行動終了となります。

●輸送

・輸送部隊に搭乗し、行動終了となった陸上部隊を、同ターンで展開することができます。

●攻撃

・MLRSや、BM9A52スメーチ、戦艦アイオワで、周囲7ヘックスにわたってダメージを与える「広域砲撃」が可能です。

・大型爆弾、巡航ミサイルに加え、艦船の「大型艦砲」、MLRSなどの「大型ロケット砲」により拠点攻撃が可能です。

・広域砲撃は、味方の部隊にもダメージを与えてしまいます。

●迎撃

・迎撃は、移動時(離着陸を含む)、制圧、基地建設、行動終了時に判定します。
迎撃範囲内でも、補給／補充などを行っただけでは、迎撃されません。

・パトリオット、SA10グランブル、SA－12グラデュエーターで巡航ミサイル、弾道ミサイルを迎撃することができます。

●補給／補充

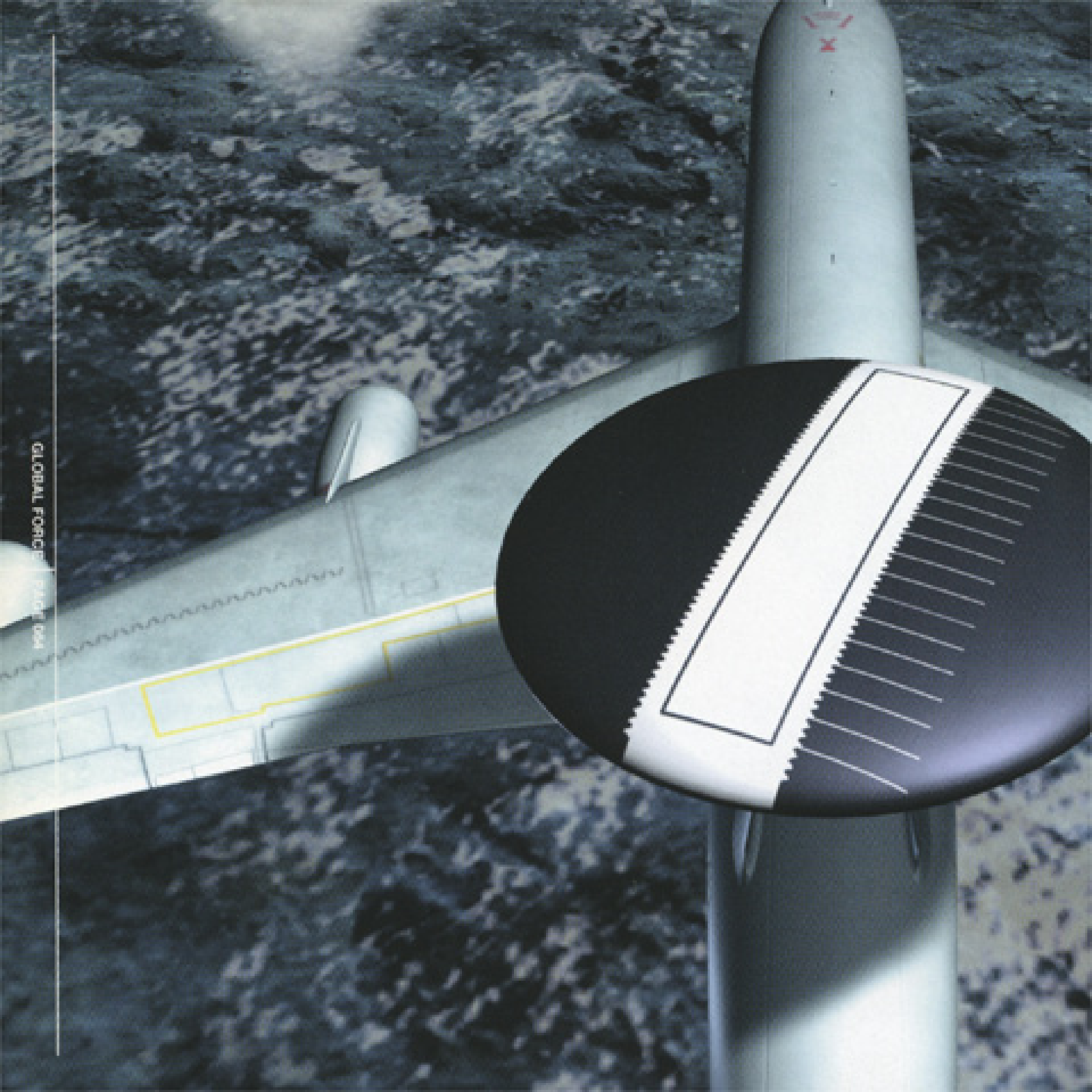
・輸送部隊が補充を受けると、搭載している部隊も補充されます。

・補充を行うと、補給も自動で判定されます。

・補給部隊から燃料のみの補給を受けた場合には、補給物資は消費されません。

・空母で補給物資を１消費し、補充が可能です。







HOW TO BATTLE

CHECK1：天敵部隊で敵を撃破しろ！
CHECK2：部隊の生産・派遣は、戦局を考えて行え！
CHECK3：防衛ラインは、長射程部隊を並べて守れ！
CHECK4：敵の進撃は、注意しつつ大胆に乗り切れ！
CHECK5：イザとなったら都市攻撃！
CHECK6：新しい基地の建造は、場所を考えて行え！

戦闘ノウハウ

部隊の「生産」「移動」そして「攻撃」、さらに都市の「制圧」、および都市機能の拡大を一通りマスターすれば、あなたも立派な司令官です。
そのほか、「新・戦闘国家」で重要になる基本的な６つの攻略ポイントをここでまとめておきます。よりパーフェクトな戦術展開の参考にしてください。

チェック1：天敵部隊で敵を撃破しろ！

各部隊には、それぞれ"天敵"とも呼べる兵器、兵装が必ずあります。攻撃を行う場合は、兵器と兵装の特性を把握して、なるべく有利な戦闘をしかけましょう。どれだけ有利な戦闘で敵を撃破できるかが、「新・戦闘国家」の最大の攻略法です。
基本的には、以下のような関係での攻撃が有利ですが、各部隊の兵装等により、若干の違いがあります。

●戦車は、攻撃ヘリコプターと攻撃機で空から攻撃！
●航空機は、対空ミサイル、防空ミサイル、対空自走砲などの対空車両で攻撃！
●対空車両は、もちろん戦車で撃破！
●艦船には、潜水艦と対艦ミサイルで攻撃！

チェック2：部隊の生産・派遣は、戦局を考えて行え！

どんな部隊を新たに生産していくのかは、戦略展開の重要なポイントです。たとえば、敵が戦闘機や攻撃機で攻撃してきたら、それを防ぐための防空部隊が必要です。しかし、防空部隊ばかり生産すると、敵の戦車部隊を防ぐことはできません。

このように、限られた資金や生産力の中で、いかにして有効な生産を行い、戦略を展開していくのかが、「新・戦闘国家」の醍醐味なのです。
また、都市や基地の生産力が充分でないときや、生産力がゼロでまだ何も生産できないときは、「派遣」部隊のみが頼りの綱です。クリアしたマップから持ち越せる派遣部隊の登録数の最大は80ですから、陸・海・空の部隊をいかにバランス良く登録しておくのかも、戦局を有利に展開させる重要なポイントです。
特に、大切に育てた精鋭部隊を、どの局面で投入するかは、司令官としての腕の見せどころです。

チェック3：防衛ラインは、長射程部隊を並べて守れ！

絶対に敵に突破されたくない防衛ラインは、長射程の兵装を持つ自走砲、自走ロケット砲、防空ミサイル、水上戦闘艦などで防御しましょう。こうすれば、迫る敵を効果的に迎撃でき、戦闘を有利に展開できます。

チェック4：敵の迎撃は、注意しつつ大胆に乗り切れ！

戦闘を伴わない単なる移動で、敵の迎撃範囲に入るのは、一般的にあまり得策ではありません。しかし、味方の部隊がそろったら、そんなことは気にせずに、大胆に攻勢に出ましょう。大量の部隊で一気に攻め入れば、固い防御ラインも突破できるはずです。

チェック5：イザとなったら都市攻撃！

相手の陣営が数多くの都市を持ち、強力になりすぎたら、都市や基地等への攻撃を行って陣営全体の弱体化を狙うのも1つの手です。こうした拠点を破壊されると、大きな国力ダウンとなります。建造物への攻撃は、

次の３種類の兵装で行えます。

●大型爆弾

大型爆弾を搭載した航空機による拠点攻撃です。
これを最も得意とするのはB-52ストラトフォートレス、Tu-22Mバックファイア等の戦略爆撃機ですが、攻撃機、戦闘爆撃機でも行えるものがあります。ただし、兵装の交換をしなければなりません。また、大型爆弾の射程はゼロですので、空爆目標の真上まで進入する必要があります。

●巡航ミサイル

巡洋艦バンカーヒル、アドミラル・ウシャコフ、戦略爆撃機などが装備しています。射程距離が長く、離れた場所から攻撃が行えます。

●弾道ミサイル

ミサイル潜水艦オハイオ、タイフーン、ル・トリオンファン等が装備しています。
射程が長い上に、視界制限ありのときは発見される危険性が小さく、敵拠点に不意打ちをかけることができます。

チェック6：新しい基地の建造は、場所を考えて行え！

せっかく新しい基地を作ったのに、アッと言う間に敵に占領されては元も子もありません。基地は、なるべく安全な場所に作るのがベターです。しかし一方、侵攻ルート上に基地を作れば、補給、補充、生産が行えて、戦局が非常に有利になります。
基地の建設は、その建設場所をよく考えて実行しましょう。特に、近くに他の都市があると資源の産出に影響しますので、それも考慮してください。

GLOBAL FORCE STAFF

Planning
Game Design : Yasuhiro Kawashima (SOLITON)
Staff : Akira Miyoshi (SOLITON),
Yoshihiko Ookubo (SOLITON)
Program : MARIONETTE
Kenichiro Kasahara, Hiroki Watanabe
Toshikazu Kimura, Akihiro Iwata, Takashi Yoshida
Graphic Design : MARIONETTE
Tetsuo Inoue, Toshihiko Suzuki
Kinuyo Yoshizawa, Kentaro Takahashi
Game SE : Takahashi Ono (MARIONETTE)
Develop Management : Yoshiaki Sakaguchi (MARIONETTE)
Assistant : MARIONETTE
Yoshiaki Hayashi, Satoshi Ohi , Shinichi Suzuki

CG Movie
Producer : Shuji Hiramatsu
Director/3D Designer : Masayuki Tanaka,
Hisato Tokumaru
Particle Designer : Hidehisa Onai
2D Designer : Kouji Miyata, Yasushi Okumura
Naomi Horikawa, Sayaka Nagano
Flame Editor : Yasuharu Yoshizawa
Assistant : Momoko Ikeda, Sachiko Terasaki
Movie Encoding Engineer : Satoru Fukui
Movie Encoder & Decoder Program :
Seiichi Ikiuo (Polyphony Digital Inc.)
Justsystem Staff : Tatsuo Anzai
Kazuhiko Yoshida, Hiroyuki Tanaka
Title Logo Mark : Yasushi Okumura, Takuya Seki
Some 3D Model Datas : View Point Datalabs,
REM Infografica

Sound
Producer : Takafumi Fujisawa
Co-ordinate : Akihiko Shimizu (SOYTZER MUSIC)
Music Compose : CMJK
Manipulate : Naoki Matsuya (STUDIO A.O)
MA : Masamichi Seki
Yukinori Takada, Shingo Okumura
Radio Voice : Shawn Layden, Takafumi Fujisawa

Quality Assuarance
QA Manager : Masayuki Mizuno
Test Play : Atsushi Sakai, Hajime Sasaki
Tomoaki Tsuruta, Toru Osanai
Yuki Sato, Eiichi Matsui
Hironobu Koshigoe (SOLITON), Mitsuaki Ishii (SOLITON)
Promotion : Masatsuka Saeki, Megumi Hosoya
Takahiro Sasaya, Kanji Suzuki (SOLITON)
Marketing : Takashi Asano

Software Manual
Creative Diriection : Hironori Komiyal, Eijiro Mori
Art Direction : Tadashi Shimada (Banana Studio)
Design & DTP : Norie Kadokura (Banana Studio),
Ayako Ohtani (Pong-Keng)
Writing : Akira Kasai
Co-ordination : Hiroe Suzuki (S.M.C)

Weapon Data & Tutorial Design :
Masatoshi Watanabe (SUPER SONIC)
Nobuyuki Saiki (SUPER SONIC)
Kouhei Moriwaki, Toru Mori, SUPERSONIC D.D.

Photo Copyright : Aviation Photo Libraly,
Ships of The World, Panzer Magazine
Japan Ground Self-Defense Force,
Japan Maritime Self-Defense Force,
Japan Air Self-Defense Force,
Nobuo Saiki, Team T.D.F.

Special Thanks : Akihiro Sueoka, Hisashi Murata

Director : Satoshi Tamaki
Producer : Yasuhide Kobayashi,
Kunihiko Kagawa (SOLITON)
Exective Producer : Akira Satoh
Toshiyuki Miyata, Koji Ichikawa (SOLITON)

Created by SOLITON SOFTWARE

Presented by Sony Computer Entertainment Inc.

GLOBAL FORCE

新・戦闘国家

The world is falling deeper and deeper into a chaotic state. And war is just waiting to break out everywhere. Now it's time for Global Force to go into action.

SCPS 10082

PlayStation



GLOBAL FORCE

WEAPONS MANUAL

1. 航空機の攻撃を主任務とする固定翼機

戦闘機／艦載戦闘機／VTOL戦闘機



MiG-21は旧共産圏諸国で最もポピュラーな戦闘機で、就役以来世界40カ国近くで運用されている。軽量、小型の機体に大出力のエンジンを搭載し、運動性、上昇力、超音速性能に優れた機体を実現している。しかし電子装備が貧弱でミサイル携行能力も低く、全天候能力を欠くのが欠点。また燃料搭載量が少なく、航続距離が短いのも運用上の難点だ。

戦闘機
MiG-21 フィッシュベッド
攻撃4
[illegible]

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
800	50	14	70	250	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
	45	50	44	44	44
兵装	短射空ミサイル／小型爆弾／航空機関砲				



原型機は大型戦闘機万能時代の、50年代に開発された異色の軽戦闘機。海外供与機として採用されたことで、自由主義陣営多数で使用。軽量で運動性が高く使いやすい機体として予想外の成功作となった。F-5Eは1972年から就役した改良型で、エンジン出力が増大し、燃料搭載量が増加している。レーダーも装備され限定的な全天候戦闘能力を獲得している。

戦闘機
F-5E タイガーII
攻撃4
小

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
900	50	13	75	250	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
	47	50	45	45	45
兵装	短射空ミサイル／小型爆弾／航空機関砲				



イスラエルが開発した小型戦闘機で、原型はフランスのミラージュ5。イスラエルはミラージュをコピーしてダガーとして生産、さらに改良したものがクフィルである。エンジンをパワーアップし、操縦系統にフライバイワイヤーを採用して運動性の向上を計り、原型より遥かに優れた機体に仕上がっている。アメリカ海軍と海兵隊がアグレッサー機としてリースしていた。

戦闘機
クフィル C.2
攻撃4
イ

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
1100	50	14	80	250	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
	53	53	46	46	46
兵装	短射空ミサイル／小型爆弾／航空機関砲				



50年代にアメリカ海軍空母機動部隊の防空戦闘機として設計された機体。多用途戦闘機として、アメリカ空軍、海兵隊、西側各国が装備するベストセラーとなった。スパロー運用のため大型レーダーを装備。航続力の必要から大型の機体に大出力エンジン2基を装備した特異な外形が特徴。超音速能力を持ち機動性も良好。爆弾搭載量も大きく、戦闘、地上攻撃両用できる万能機だ。

艦載戦闘機
F-4 ファントムII
攻撃4
米

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
1400	50	14	85	250	0

回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
	51	51	46	46	46

兵装：中対空ミサイル／短対空ミサイル／小型爆弾／航空機関砲



MiG-21戦闘機のレーダー性能、航続性能、搭載力の少なさなどを改良する目的で開発された、多目的戦闘機。特徴としては旧ソ連機で初めて本格的な可変後退翼を採用したことで、超音速性能と離着陸性能、格闘戦性能の調和を計っている。赤外線誘導ミサイルに加えてレーダー誘導ミサイルも搭載でき、爆弾搭載量、航続能力も西側の機体に匹敵する。

戦闘機
MiG-23 フロッガー
攻撃4
[illegible]

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
1000	50	14	80	250	0

回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
	49	50	45	45	45

兵装：中対空ミサイル／短対空ミサイル／小型爆弾／航空機関砲



F-4Eは昭和43年の空自の新戦闘機計画で採用以来20年以上が経過した。さすがに旧式化したことで現在防空任務からは次第に外されつつあるが、これを有効利用するため、レーダー、航法装置などを改良、HUDを取り付け、対艦ミサイル携行能力を持たせた近代化改修型が本機である。今後は主力戦闘機としてではなく、攻撃機として運用される見込みである。

戦闘機
F-4EJ改 ファントムII
攻撃4
日

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
1600	50	14	85	250	0

回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
	51	51	46	49	49

兵装：中対空ミサイル／短対空ミサイル／対艦ミサイル／小型爆弾／航空機関砲



MiG-21などと並ぶ60～70年代の傑作小型戦闘機で、フランスだけでなく第三世界を中心に多数の国に輸出されている。改良が重ねられ、現在でも第一線機として使用されている。速度と上昇力を追及するため、大胆な無尾翼デルタを採用し、そのスタイルは異彩を放っている。小型機にしては爆弾搭載量も大きく、地上攻撃機としても有用な機種である。

戦闘機
ミラージュIII
攻撃4
[illegible]

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
1200	50	14	80	250	0

回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
	49	50	45	45	45

兵装：中対空ミサイル／短対空ミサイル／小型爆弾／航空機関砲



ファントムは60～70年代に世界各国に採用されたが、イギリス海軍でも当時唯一保有していた空母アークロイヤルに搭載するため採用されたもの。イギリス軍が採用したのは、J型をもとに改設計されたもので、K型といわれる。イギリス製のロールスロイス・エンジンを搭載したのが特徴。しかしアークロイヤルの退役で機体は空軍に移管された。

艦載戦闘機 **ファントム FG.1** 攻撃4	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	1400	50	14	85	250	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対地上回避	対海上回避	対海中回避	
	51	51	46	46	46	
[illegible]	兵装	中対空ミサイル／短対空ミサイル／小型爆弾／航空機関砲				



北欧の武装中立国スウェーデンが産んだユニークな戦闘機。特に要求されたのは高いSTOL性能で、一方で山肌を縫いフィヨルドを突っ切る低空進行、中高度での空戦能力、超音速の要撃能力も必要とされた。こうした条件をクリアするために採用されたのが、ダブルデルタという形態であった。ビゲンには戦闘機型の他に派生型として攻撃型、練習型、偵察型なども製作されている。

戦闘機 **JA37 ビゲン** 攻撃4	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	1200	50	14	75	250	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対地上回避	対海上回避	対海中回避	
	50	50	46	46	46	
小	兵装	中対空ミサイル／短対空ミサイル／小型爆弾／航空機関砲				



アメリカ空軍が開発したXB-70バルキリー超音速爆撃機を迎撃するため開発された超音速迎撃戦闘機。70年代初めに部隊配備が開始されたが、バルキリーの開発中止のため、出現時には存在意義を失ってしまった。大出力のエンジンを搭載し、高速性能と高空性能を追及した機体で、対戦闘機格闘性能はもともと考慮されていない。ベレンコ中尉の日本亡命飛行に使われたので有名。

戦闘機 **MiG-25 フォックスバット** 攻撃4	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	1100	50	15	70	250	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対地上回避	対海上回避	対海中回避	
	48	50	45	45	45	
[illegible]	兵装	中対空ミサイル／短対空ミサイル				



F-5をベースに、F-16の代用輸出機として開発された軽量音速戦闘機。本来はF-5Gとしてデビューする予定であったが、空力設計の見直し、アビオニクスの換装、F／A-18と同じエンジンの搭載といった改良が加えられ、従来のF-5シリーズを大きく上回る性能獲得の結果、新たにナンバーが与えられた。F-16の輸出制限解除により、量産化は行われていない。

戦闘機 **F-20 タイガーシャーク** 攻撃4	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	1500	50	14	80	250	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対地上回避	対海上回避	対海中回避	
	59	59	51	51	51	
中	兵装	中対空ミサイル／短対空ミサイル／小型爆弾／対地機関砲／航空機関砲				



ミラージュシリーズは無尾翼デルタがトレードマークになっているが、唯一通常尾翼付きなのが本機。前線の草地滑走路での運用を考え、こうした設計となった。胴体形状はミラージュ譲り、肩翼配置の後退角付き主翼に低い位置の水平尾翼。レーダー性能、燃料搭載量が改良され、制空戦闘、対地攻撃などに使用可能で、STOL性も高い便利な機体となっている。

戦闘機 ミラージュ F1 攻撃4	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	1700	50	13	85	250	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	53	53	50	50	50	
兵装	中対空ミサイル／短対空ミサイル／小型爆弾／航空機関砲					
[illegible] 大						



イスラエルはF-4を運用しているが、その寿命延長および能力向上型がスーパーファントムである。カーナス2000、ファントム2000などの名前でも呼ばれる。機体構造を強化・補強するとともに電子機器の交換が行われている。エンジンも換装される予定であったが、予算その他の事情で中止された。イスラエル軍によるハマス拠点攻撃に使用されたといわれる。

戦闘機 スーパーファントム 攻撃4	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	1800	50	14	85	250	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	57	57	52	55	55	
兵装	中対空ミサイル／短対空ミサイル／対艦ミサイル／小型爆弾／航空機関砲					
イ						



現代の西側を代表する軽戦闘機。空軍の軽量戦闘機構想で設計された機体が、素晴らしい空中機動性と7t近い大きな搭載量を持つ万能戦闘機となった。価格も安価で世界ベストセラーとなった。胴体から翼にかけて流れるようなラインを持つブレンデッド・ウイングボディを採用して空力的洗練を計り、操縦系統にはフライ・バイ・ワイヤーを採用している。

戦闘機 F-16F.ファルコン 攻撃4	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	2300	100	13	85	250	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	62	62	52	52	52	
兵装	短対空ミサイル／対戦車ミサイル／小型爆弾／航空機関砲					
米						



経国は台湾で初めて開発された本格的戦闘機である。1980年代にノースロップの協力を得て、国産戦闘機として開発された。小型で前縁にストレーキ付きの浅い後退角の主翼が肩翼式に取り付けられ、全体に美しいラインにまとめられている。レーダーはアメリカ製の高性能のもの。またフライ・バイ・ワイヤーの採用で、機動性も良好。唯一の欠点はエンジン出力の不足である。

戦闘機 IDF 経国（チンクオ） 攻撃4	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	2400	100	13	80	250	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	62	62	52	55	55	
兵装	中対空ミサイル／短対空ミサイル／対艦ミサイル／小型爆弾／航空機関砲					
台						



シーハリアーは予想外に活躍したが、レーダー誘導ミサイルが運用できない等その能力は限定的だった。FA.2はこれを改良するために開発された新型である。ルック・ダウン能力を持つブルービクセン・レーダーを採用、レーダー誘導のAMRAAMミサイルの運用が可能となった。外形的にはレドームが大型化したのが目立つ。新造の他FA.1からも改造されている。

VTOL戦闘機 **シーハリアーFA.2** 攻撃4	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	2200	100	12	70	250	0
	回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		58	58	51	54	54
英	兵装	中対空ミサイル／短対空ミサイル／対艦ミサイル／小型爆弾／航空機関砲				



アメリカ海軍、海兵隊の主力機で、戦闘、攻撃両任務に使用可能な万能戦闘攻撃機。空軍軽量戦闘機計画に応募されたF-17を原型に改良発展された。緩い後退翼に長い前縁ストレーキを持つ機体デザインは、優れた機動性の発揮を可能にしている。レーダーも高性能の機材を搭載、レーダー誘導ミサイルを装備、全天候攻撃能力を持ち、対艦ミサイルの搭載も可能だ。

艦載戦闘機 **F-18 ホーネット** 攻撃4	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	2700	100	13	80	250	0
	回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		62	62	56	59	59
米	兵装	中対空ミサイル／短対空ミサイル／対艦ミサイル／小型爆弾／航空機関砲				



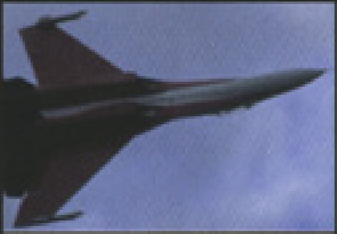
1980年代に配備が開始された旧ソ連軍の新型戦闘機。浅い後退角の大型主翼に前縁ストレーキを組み合わせた機体は空力的に優れ、大出力のターボファンエンジン2基で垂直上昇も可能な機動力を持つ。電子装備も進歩し、レーダーもルック・ダウン、シュート・ダウン可能となり、ミサイル戦闘能力も飛躍的に向上している。旧ソ連の他、多数の国に輸出されている。

戦闘機 **MiG-29 ファルクラム** 攻撃4	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	2600	100	14	80	250	0
	回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		64	64	55	58	58
[illegible]	兵装	中対空ミサイル／短対空ミサイル／対艦ミサイル／小型爆弾／航空機関砲				



アメリカの誇る、世界最高水準の制空戦闘機のひとつ。速度、優れた空戦性能、高性能なレーダーおよび火器管制装置を備える。機体はチタン材料の大規模な採用等徹底した軽量化が行われ、エンジンには11tもの推力があるターボファンエンジン2基を搭載し、レーダーには長距離捜索、ルック・ダウン、シュート・ダウン能力の高いAPG-63を採用している。

戦闘機 **F-15 イーグル** 攻撃4	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	4300	150	14	90	250	0
	回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		70	70	57	57	57
米	兵装	中対空ミサイル／短対空ミサイル／小型爆弾／航空機関砲				



現在のロシア軍の最新鋭戦闘機。空力的に優れた機体に大出力のターボファンエンジンを搭載、フライ・バイ・ワイヤーを採用しており、その空中機動性は世界最高の折り紙付き。また燃料搭載量も大きく、長距離制空戦闘が可能となっている。水平飛行中に機首をほぼ垂直に起こし、急減速するプガチョフ・コブラと呼ばれる機動は、本機にのみ可能な大技である。

艦載戦闘機 **Su-27 フランカー** 攻撃4	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	3600	150	14	90	250	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対地上回避	対海上回避	対海中回避	
	75	75	57	57	57	
兵装	中対空ミサイル／短対空ミサイル／小型爆弾／航空機関砲					
[illegible]						



F-15イーグルはあまりに高価なため、世界中でもほとんど採用する国が無いが、その中の数少ないひとつが航空自衛隊である。ファントムに代わる新型要撃機として採用され、昭和57年から部隊編成が開始されている。基本的にアメリカ軍のF-15と同じだが、一部コンピューターソフトなどが提供されなかったため、日本独自にソフト開発を行い運用している。

戦闘機 **F-15J イーグル** 攻撃4	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	4300	150	14	90	250	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対地上回避	対海上回避	対海中回避	
	70	70	57	57	57	
兵装	中対空ミサイル／短対空ミサイル／小型爆弾／航空機関砲					
日						



再びデルタ翼に戻った、フランスの軽量小型戦闘機。デルタ翼は機体重量を小さくすることができ、遷音速、超音速での飛行特性の違いが大きくない反面、離着陸性能が悪いという欠点を持つ。本機は翼面積を拡大し、フライ・バイ・ワイヤー、背の高い垂直尾翼、前縁フラップなどを採用、ハイテク技術を駆使して高機動性を実現している。

戦闘機 **ミラージュ2000** 攻撃4	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	3400	150	14	80	250	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対地上回避	対海上回避	対海中回避	
	64	64	57	60	60	
兵装	中対空ミサイル／短対空ミサイル／対艦ミサイル／小型爆弾／航空機関砲					
[illegible] 大						



トーネードは、イギリス、旧西ドイツ、イタリアの共同開発の、多目的戦闘攻撃機。低空侵攻、対地支援、対艦攻撃、制空、要撃、偵察などの要求を満たすため、可変後退翼を採用。前線運用のための優れたSTOL性能と、長距離侵攻のため長い航続力を備える。本機はADVと呼ばれる要撃型で、原型を改設計して胴体を延長、機首に対空レーダーを搭載した。F.3は英国空軍での呼称。

戦闘機 **トーネード F.3** 攻撃4	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	3800	150	14	85	250	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対地上回避	対海上回避	対海中回避	
	65	65	55	55	55	
兵装	中対空ミサイル／短対空ミサイル／小型爆弾／航空機関砲					
英						



F-15イーグルを採用している数少ない国のひとつがイスラエルで、制空戦闘機として使用されている。中射程ミサイルはスパローだが、短射程ミサイルにはイスラエル国産のパイソン赤外線誘導ミサイルを搭載する。同ミサイルは機動性や攻撃可能範囲の大きさの点で世界最高水準。また同国では、現在戦闘爆撃機型のF-15Eも、F-15Iとして採用している。

戦闘機 **F-15 イーグル** 攻撃4	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐久性	ステルス性
	4300	150	14	90	250	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	70	70	57	57	57	
イ	兵器	中射程ミサイル／短射程ミサイル／小型爆弾／航空機関砲				



スウェーデンが誇る、21世紀の新型戦闘機。機体名称のJASはJが戦闘、Aが攻撃Sが偵察の略でひとつの機体で何役もこなせる多目的戦闘機であることを示す。機体設計はビゲンと同じ前翼付きデルタだが、スマートにまとめられた。軽量化のためにカーボン複合材料を多量に使用したほか、フライ・バイ・ワイヤー、新型火器管制装置など、一流のハイテク機に仕上がっている。

戦闘機 **JAS39 グリペン** 攻撃4	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐久性	ステルス性
	4700	150	14	85	250	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	74	74	58	61	61	
瑞	兵器	中射程ミサイル／短射程ミサイル／対艦ミサイル／小型爆弾／航空機関砲				



フォージャーに代わる本格的な超音速性能を持つ垂直離着陸機として、ロシアが開発した機体。胴体は全長の2／3ぐらいで終わり、そこにエンジンが装備され、尾翼は後ろに伸びるアウトリガーで支えられる。リフトジェット併用だが、メインエンジンに本格的な推力偏向機構を設け、S／VTOL運用が可能。レーダーはMiG-29と同型を搭載する。

VTOL戦闘機 **Yak-141 フリースタイル** 攻撃4	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐久性	ステルス性
	4000	150	14	75	250	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	63	63	53	56	56	
露	兵器	中射程ミサイル／短射程ミサイル／小型爆弾／航空機関砲				



アメリカ海軍の空母搭載防空戦闘機。空母機動部隊に対する多数目標からの攻撃に対処するため、極めて高い能力を持つレーダー、火器管制装置を搭載する。射程100kmにも達するフェニックスミサイルでの同時多目標攻撃が可能である。さらに空母での離着艦能力を高めるために採用された可変後退翼を、空中機動中に作動させることで、空戦能力も非常に優れている。

艦載戦闘機 **F-14 トムキャット** 攻撃4	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐久性	ステルス性
	5000	150	14	90	250	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	72	72	54	54	54	
米	兵器	長射程ミサイル／中射程ミサイル／短射程ミサイル／航空機関砲				



MiG-25フォックスバットから発展した戦闘機で、長距離要撃を任務としている。戦闘機としては世界最初にフェーズド・アレイ・レーダーを搭載し、長射程ミサイルを装備。レーダー操作のため複座にして専門の操作員を搭乗させている。レーダー、火器管制装置はルック・ダウン、シュート・ダウン能力を持ち、低空で侵入する爆撃機や巡航ミサイルにも対処可能である。

戦闘機

MiG-31 F.ハウンド

攻撃4

露

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
4500	150	15	80	250	0

回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
	62	62	54	54	54

兵装	長射空ミサイル／中射空ミサイル／短射空ミサイル／航空機関砲



F-15やF-16といった、新型戦闘機の開発に一段落したアメリカ空軍が、さらなる空戦性能を求めて実験開発した前進翼機。低速高仰角での操縦性が良いなどメリットも多いが、主翼にねじれが生じやすいなどデメリットも多い。そのため、丈夫な複合繊維素材を使用している。ベースはF-5Eタイガーで、2機が製作された。現在でもNASAで飛行実験が行われている。

戦闘機

X-29

攻撃4

米

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
4600	150	14	65	250	0

回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
	72	72	57	57	57

兵装	中射空ミサイル／短射空ミサイル／小型爆弾／航空機関砲



フランスが21世紀を目指して独自に開発した最新鋭戦闘機。ミラージュの伝統を生かして、軽量小型でありながら搭載量も大きく多目的に運用できる戦闘機。前翼付きデルタ形式で、全体に小型で、前翼と後翼の関係、空気取り入れ口の処理等全体に洗練されたデザインとなっている。空軍型がラファールC／D、海軍型がラファールMとなるが基本的に同一の機体である。

艦載戦闘機

ラファール M

攻撃4

[illegible]

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
7200	150	14	90	250	10

回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
	80	80	59	62	62

兵装	中射空ミサイル／短射空ミサイル／対艦ミサイル／小型爆弾／航空機関砲



現在開発が続けられている、2000年代の西側主力戦闘機共同開発プロジェクトによって生まれた機体で、EFAとも呼ばれる。機体外形は高速性能と機動性能を両立させるため、前翼付きデルタを採用している。開発開始時点ではフランス、旧西ドイツ、スペイン、イタリア、イギリスが参加していた。その後フランスは途中で脱退し、ラファールを開発する。

戦闘機

EF2000 タイフーン

攻撃4

[illegible]

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
6000	150	14	85	250	0

回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
	78	78	57	57	57

兵装	中射空ミサイル／短射空ミサイル／小型爆弾／航空機関砲



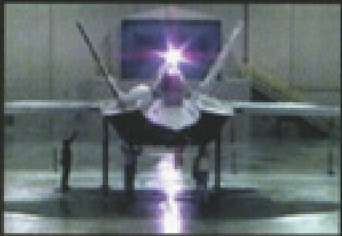
Su-27の発展型で、輸出をねらって開発された万能戦闘機。最大の特徴は機体前部に追加されたカナードとエンジンの推力変更ノズルで、これまでの戦闘機と隔絶した機動性発揮が可能となった。レーダー、火器管制装置には空対空、空対地に優れた能力を発揮する新型を搭載。コクピットもグラスコクピット化されることになっており、現在世界最強の戦闘機といえる。

戦闘機 **Su-37 スーパーフランカー** 攻撃4	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	6600	150	14	90	250	0
	回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		82	82	60	60	60
露	兵装	長対空ミサイル／中対空ミサイル／短対空ミサイル／小型爆弾／航空機関砲				



アメリカ3軍に加え、イギリス海軍での共用をも考えた汎用戦闘攻撃機。各軍の現用機を代替するため、S／VTOL能力やステルス性を持ち、なおかつF-22の3分の2～半分の価格という欲張った要求を満たすべく開発が進められている。ロッキード・マーティン案はF-22を小型化したような形状で、X-35と呼ばれており、2000年の初飛行をめざしている。

VTOL戦闘機 **X-35 JSF** 攻撃4	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	7600	150	14	75	250	40
	回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		92	92	64	67	67
米	兵装	中対空ミサイル／短対空ミサイル／対艦ミサイル／対戦車ミサイル				



21世紀を目指すアメリカの次期戦術戦闘機。従来の戦闘機とは一線を画す存在で、高い機動性に超音速巡航が可能で、ステルス性も高いという脅威の性能を誇る。ステルス性のため、直線で構成された奇妙なフォルムを持つ。武装もステルス性のためウエポン・ベイに収納され、赤外線放射対策も施されている。軽量化と空力過熱、ステルス性などのため、複合材を多用している。

戦闘機 **F-22 ラプター** 攻撃4	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	8600	150	14	80	250	35
	回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		90	90	62	62	62
米	兵装	中対空ミサイル／短対空ミサイル／小型爆弾／航空機関砲				



アメリカ空軍の次期戦術戦闘機でF-22の競争相手となった機体。F-22に比べて斬新で革新的なデザインが採用されていた。機体外形はかなり平べったく、主翼は両翼端がすぼまった菱形をしていた。尾翼は水平尾翼と垂直尾翼を兼ねた三角形のものが、斜めに取り付けられていた。空軍戦闘機としては敗北したが、現在海軍戦闘機として復活の道を探っている。

戦闘機 **F-23 グレイゴースト** 攻撃4	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	9800	150	14	80	250	70
	回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		81	81	58	58	58
独	兵装	中対空ミサイル／短対空ミサイル／小型爆弾／航空機関砲				

2. 地上の攻撃を主任務とする固定翼機

攻撃機／艦載攻撃機／VTOL攻撃機／戦闘攻撃機／爆撃機



1960年代初めに開発が開始された艦上軽攻撃機。長い航続距離、大きな搭載量、全天候能力など多彩な性能が求められた。開発までの期間の短縮、経費の削減などのため、F-8クルセーダー戦闘機の設計がかなり流用されている。高性能のため空軍にも採用された。67年からベトナム戦争の実戦場に登場し、使い易い攻撃機として評判となった。湾岸戦争で最後の活躍を見せた。

艦載攻撃機

A-7 コルセアII

攻撃4

米

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
900	50	13	80	250	0

回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
	42	49	54	54	54

兵装	
兵装	小型爆弾／短射程ミサイル／航空機関砲



Su-7フィッター戦闘爆撃機の改良型。兵器搭載量、航続力、離着陸性能を向上させるため、主翼の外縁部だけを可変後退翼に改造しているのが特徴。軽量、安価な対地攻撃機として有用な機体となっているが、改良されたといっても爆弾搭載量はわずかで、航続距離も短いという欠点を持つ。ロシアの他、旧東側諸国などに多数供給されている。

攻撃機

Su-17 フィッター

攻撃4

[illegible]

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
850	50	13	75	250	0

回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
	41	48	51	51	51

兵装	
兵装	小型爆弾／短射程ミサイル／航空機関砲



スカイホークは世界各国に導入されたが、イスラエルもそのひとつで、イスラエル型はN型と呼ばれる。機関砲をオリジナルの20mm機関砲から30mmDEFA機関砲に変更。短射程ミサイルにもイスラエル国産のシャフリル赤外線誘導ミサイルが使用されている。同ミサイルはサイドワインダーに似ているが、直径が大きく弾頭も重く破壊力が大きくなっている。

攻撃機

A-4N スカイホーク

攻撃4

イ

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
900	50	12	75	250	0

回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
	42	49	53	53	53

兵装	
兵装	小型爆弾／短射程ミサイル／航空機関砲



主翼、尾翼にデルタ翼を採用、折り畳み機構なしで空母のエレベーターに収まる小型の機体に仕上げられた艦載攻撃機。運動性に優れ、軽量小型のわりに搭載量も大きく、核爆弾からミサイルまで多彩な武装の搭載が可能。予想外の成功作となった。エンジンを換装したり、背中にバルジを装着して電子装備を追加する等改良が繰り返され、1979年まで生産が続けられた。

艦載攻撃機 **A-4 スカイホーク** 攻撃4	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐久性	ステルス性
	900	50	12	75	250	0
	回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対地上回避	対海上回避	対海中回避
		42	49	53	53	53
米	兵装	小型爆弾／短対空ミサイル／航空機関砲				



ロシアが実用化した垂直離着陸機で、キエフ級空母に搭載された。垂直上昇のため専用エンジンを持ち、胴体上部に補助空気取り入れ口がある。通常飛行時には不要なリフトエンジンを持つ非効率な設計で搭載量も少なく、胴体の燃料搭載スペースを奪われた関係から航続力も貧弱。電子装備の面でも距離測定用のレーダーを持つだけで、高度な攻撃能力に欠ける。

VTOL攻撃機 **Yak-38 フォージャー** 攻撃4	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐久性	ステルス性
	1000	50	12	65	250	0
	回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対地上回避	対海上回避	対海中回避
		40	48	52	55	55
露	兵装	小型爆弾／対艦ミサイル／短対空ミサイル／航空機関砲				



日本初の国産超音速練習機T-2を改良した、日本初の国産超音速支援戦闘機。戦闘機といっても対地、対艦攻撃が主任務で、航空阻止や制空戦闘は副次的任務である。78年から部隊配備が始められた。細長い胴体に肩翼式に小振りな主翼を配置しており、エンジンは双発。対艦ミサイル2発を携行した対艦攻撃ミッションでは、敵水上部隊撃破に大きな威力を発揮する。

攻撃機 **三菱 F-1** 攻撃4	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐久性	ステルス性
	1400	50	13	80	250	0
	回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対地上回避	対海上回避	対海中回避
		45	50	56	59	59
日	兵装	小型爆弾／対艦ミサイル／短対空ミサイル／航空機関砲				



フランス海軍の空母搭載攻撃機。原型はエタンダール攻撃機で、エンジン、エレクトロニクス、兵器システムを改良して1970年代に実用化された。外形は後退角のついた主翼、尾翼を持つジェット機の普遍的なスタイル。平凡な性能の機体だが、エクゾセ対艦ミサイルの運用が可能で、フォークランド紛争でのアルゼンチン軍機がイギリス駆逐艦撃破で名声を得た。

艦載攻撃機 **シュペル・エタンダール** 攻撃4	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐久性	ステルス性
	1100	50	13	80	250	0
	回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対地上回避	対海上回避	対海中回避
		41	48	55	58	58
[illegible]	兵装	小型爆弾／対艦ミサイル／短対空ミサイル／航空機関砲				



原型は、イギリスが1950年代から研究を重ねて実用化した世界初の実用垂直離着陸機。推力偏向ノズルを装備して、滑走路無しで離着陸可能な画期的な機体であった。AV-8Bはハリアーの機体設計を全面的に見直したもの。スーパークリチカル翼形の採用、複合材を多用した軽量化、エンジン出力の向上、主翼面積の拡大などを行い、搭載量、航続力は大幅に改善された。

VTOL攻撃機
AV-8B ハリアーII
攻撃4
米

	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	1500	50	12	70	250	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	46	50	57	60	60	
兵装	小型爆弾／対艦ミサイル／短対空ミサイル／航空機関砲					



イギリス、インビンシブル級軽空母の搭載機として開発された垂直離着陸艦上戦闘機。陸上型ハリアーに、洋上での防空、対艦攻撃が可能なようにレーダーを搭載し、コンピューター、航法システム、自動操縦システム等の改良を行っている。フォークランド紛争でのアルゼンチン空軍相手の大活躍で勇名をはせた。現在世界各国で軽空母搭載機として採用されている。

VTOL攻撃機
シーハリアー FRS.1
攻撃4
英

	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	1400	50	12	70	250	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	45	50	56	60	60	
兵装	小型爆弾／対艦ミサイル／短対空ミサイル／航空機関砲					



アメリカ海軍、海兵隊の中型攻撃機で、戦術核攻撃と通常兵器による全天候攻撃能力を持つ高級な攻撃機である。敵防空網突破のために低空侵攻能力が求められており、初めから超音速能力は考えられていない。ベトナム戦争に投入された。対艦ミサイルハープーンの搭載も可能。アメリカ空母航空部隊の攻撃力の中心として活躍してきた。

艦載攻撃機
A-6 イントルーダー
攻撃4
米

	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	2300	100	12	90	250	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	40	48	57	61	61	
兵装	小型爆弾／対艦ミサイル／大型爆弾					



MiG-23戦闘機から発展した対地攻撃機。基本的な機体設計はそのままに、攻撃用のシステムが大きく変更された。最大の変更点は、戦闘機型の対空レーダーが撤去されて、地上攻撃用のレーザー・レンジファインダーに変更されたこと。自衛用のミサイルは装備できるが、対空能力は低い。代わりに地上攻撃用には爆弾以外にも各種対地ミサイルが装備可能である。

攻撃機
MiG-27 フロッガー
攻撃4
露 東

	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	2100	100	14	80	250	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	43	50	55	55	55	
兵装	対戦車ミサイル／小型爆弾／大型爆弾／短対空ミサイル／対地機関砲					



ジャギュアはヨーロッパ大陸での東西正規軍同士の対決という、極めて本格的な戦闘状況で使用することを考えて設計された近接支援、阻止攻撃用攻撃機である。イギリスとフランスの共同で開発された機体で、フランス軍型がジャギュアA。ジャギュアAはとくに敵のレーダー網、対空火力陣地に対する攻撃任務を持ち、対レーダーミサイルの運用能力を持つのが特徴である。

攻撃機
ジャギュア
攻撃4
[illegible]

	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	2300	100	13	80	250	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
	44	50	56	56	56
兵装	対戦車ミサイル／小型爆弾／大型爆弾／短対空ミサイル／航空機関砲					



共同開発されたジャギュアのイギリス軍型が、ジャガーGR.1である。ジャガーGR.1は、より精密攻撃を行うため、慣性航法装置、レーザー・レンジファインダーを装備。地上の支援無しでレーダー電波も出さずに攻撃できる能力を持ち、敵航空兵力を奇襲によって粉砕することが主任務と考えられる。前線の草地滑走路から運用できるSTOL性能を備えるのも特徴。

攻撃機
ジャガーGR.1
攻撃4
[illegible]

	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	2100	100	13	80	250	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
	44	50	56	56	56
兵装	小型爆弾／大型爆弾／短対空ミサイル／航空機関砲					



地上部隊を直接支援する、特殊な対地攻撃機。細長く直線で構成された胴体に、翼厚のある直線翼、胴体後部左右に巨大なポッド式エンジンを装備と、特異な外形をしている。地上からの攻撃に備えて頑丈に作られ、コクピット回りは装甲板で覆われている。攻撃力も強大で、30mmガトリング砲を装備。爆弾や対地ミサイルの搭載量は最大8tもある。湾岸戦争で凄まじい攻撃力を発揮した。

攻撃機
A-10 サンダーボルトII
攻撃4
米

	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	3200	100	12	90	350	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
	40	48	64	64	64
兵装	対戦車ミサイル／小型爆弾／対地機関砲					



アメリカのA-10に相当するロシア旧ソ連製の直接地上支援用対地攻撃機。ずんぐりした胴体に、浅い後退角の翼幅の長い翼を持つ。A-10より高速で、厚い装甲を備え生存性も高い。A-10よりは小型で搭載量も小さいが、30mm2連装機関砲に10カ所のパイロンを持つ。燃料に車輌用のガソリンや軽油も使え、前線の貧弱な飛行場から行動可能。まさにタンクバスターだ。

艦載攻撃機
Su-25 フロッグフット
攻撃4
[illegible]

	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	2800	100	13	85	300	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
	42	49	63	63	63
兵装	対戦車ミサイル／小型爆弾／対地機関砲					



大きな搭載力、長大な航続力を持つ長距離攻撃機。低空での超音速侵攻能力やSTOL性発揮のため、可変後退翼を採用している。燃費のいいターボファンエンジンを戦闘機として初めて搭載、慣性航法装置、地形追従レーダー、電波高度計その他を備え自律的な長距離侵攻能力を持っている。戦略爆撃機並の航続力を持ち、20tもの武装の搭載が可能という驚異的な性能を誇る。

攻撃機
F-111 アードバーグ
攻撃4
米

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
4600	100	14	95	250	0

回避性能				
対航空回避	対ヘリ回避	対地上回避	対海上回避	対海中回避
45	50	62	62	62

兵装：小型爆弾／大型爆弾／短対空ミサイル／航空機機関砲



ロシア製の長距離侵攻地上攻撃機で、これまで西側の同種機体に比べて貧弱だった搭載量や航続力が飛躍的に高められている。大型の機体に大出力エンジンを2基装備、速度性能にも優れている。Su-17／22やMiG23／27で経験を積んだ可変後退翼を採用し、低空超音速侵攻能力もあるといわれる。自衛用にミサイル装備も可能。レーダー、航法機材も充実している。

攻撃機
Su-24 フェンサー
攻撃4
露軍

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
4000	100	13	90	250	0

回避性能				
対航空回避	対ヘリ回避	対地上回避	対海上回避	対海中回避
43	50	60	63	63

兵装：小型爆弾／対艦ミサイル／大型爆弾／短対空ミサイル／航空機機関砲



F-15を発展させた、複合任務戦闘機。敵陣深く侵攻する長距離空対地阻止攻撃能力と、自ら敵迎撃機と空中戦を行う空対空制空戦闘能力を併せ持つ世界最強の戦闘機だ。武器管制のために複座化。機体左右にコンフォーマル・タンクと呼ばれる燃料タンクを搭載し航続力を増加。レーダー、火器管制装置も新型に改良、赤外線センサーポッドを搭載して、夜間攻撃能力も備える。

戦闘攻撃機
F-15E ストライクイーグル
攻撃4
米

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
6800	150	14	110	250	0

回避性能				
対航空回避	対ヘリ回避	対地上回避	対海上回避	対海中回避
70	70	67	67	67

兵装：対戦車ミサイル／小型爆弾／大型爆弾／中対空ミサイル／短対空ミサイル／航空機機関砲



アメリカ海軍、海兵隊の主力機となったF／A-18ホーネットの発展改良型。原型で問題となっていた搭載量と航続距離の不足を補うため、機体を大型化している。それに合わせて主翼、ストレーキも拡大されエンジンも新型で出力が増大し、空気取り入れ口の設計も変更されている。改良型とはいうものの、ほとんど新設計の機体で、現在実用化が進められている。

戦闘攻撃機
F/A-18E S.ホーネット
攻撃4
米

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
6200	150	14	90	250	10

回避性能				
対航空回避	対ヘリ回避	対地上回避	対海上回避	対海中回避
64	64	65	68	68

兵装：小型爆弾／対艦ミサイル／大型爆弾／中対空ミサイル／短対空ミサイル／航空機機関砲



Su-27の発展型で、ロシア海軍向けの新型攻撃機。Su-27にカナードを付け、胴体前部を大型化している。洋上を長距離進空して敵の空母部隊に対艦ミサイルを発射することを目的とするが、空母搭載ではない。良好な機動性と自衛用ミサイル装備で、高い空戦能力も兼ね備える。また後方警戒レーダーを備え、世界初の後方発射対空ミサイルを装備するともいわれる。

戦闘攻撃機 **Su-32FN** 攻撃4	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	6400	150	14	100	250	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	68	68	61	64	64	
兵装	小型爆弾／対艦ミサイル／大型爆弾／中対空ミサイル／短対空ミサイル／航空機関砲					
露						



当初はFSXと呼ばれていた航空自衛隊の、F-16を発展させた新型支援戦闘機で、日米共同開発。日本側の要求で最も重要だった点は対艦攻撃用のミサイルの搭載で、パイロン増加の関係で主翼が拡大されている。軽量化のための複合材や、新型フェーズド・アレイ・レーダーなどには日本のハイテク技術を導入。対地、対艦攻撃が主任務だが、空戦能力も高い。

戦闘攻撃機 **三菱F-2** 攻撃4	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	5700	150	14	90	250	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	72	72	67	70	70	
兵装	小型爆弾／対艦ミサイル／大型爆弾／中対空ミサイル／短対空ミサイル／航空機関砲					
日						



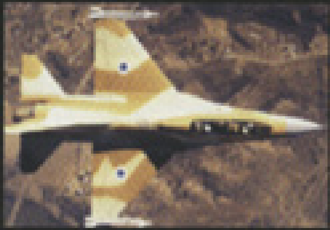
もともとは核攻撃型の2000Nとして開発された対地攻撃機。複座化され航法爆撃員が搭乗する。アンテロープ地形追従レーダーを装備。機体構造も強化し低空90mで1100km／hの高速侵攻能力を持つ。慣性航法装置、性能コントロール・コンピューター、爆撃コンピューターを装備して正確な航法、攻撃能力を持つ。AS30対地ミサイルも運用可能。

戦闘攻撃機 **ミラージュ 2000D** 攻撃4	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	4800	150	14	95	250	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	62	62	61	61	61	
兵装	対戦車ミサイル／小型爆弾／大型爆弾／短対空ミサイル／航空機関砲					
[illegible]						



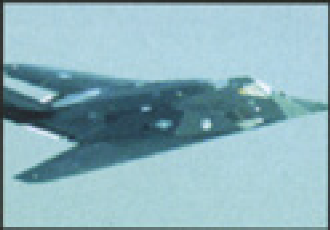
イギリス、旧西ドイツ、イタリアが共同開発したトーネードの阻止攻撃型。優れた低空、高速侵入能力と正確な照準攻撃能力を確保するため、慣性航法装置、ドップラー・レーダー、電波高度計、地上マッピング・レーダー、障害物回避レーダーなどの充実した航法、攻撃システムを装備する。低空、高速飛行で敵対空砲火をかわし、飛行場などの高価値目標破壊を任務とする。

戦闘攻撃機 **トーネード GR.1** 攻撃4	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	5000	150	14	95	250	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	63	63	62	62	62	
兵装	対戦車ミサイル／小型爆弾／大型爆弾／短対空ミサイル／航空機関砲					
[illegible]						



イスラエルはアメリカからF-16を導入して戦闘爆撃機として運用しているが、これを独自に改良した改造型を製作している。これがF-16Dバラキートである。胴体背部を拡大し、ここにはワイルド・ウィーゼル／SAM制圧用の電子機器が装備されているといわれる。イスラエルが開発し、アメリカ軍にも採用されたポパイ対地ミサイルなどの搭載が可能となっている。

戦闘攻撃機 **F-16D バラキート** 攻撃4	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	5100	150	14	90	250	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対地上回避	対海上回避	対海中回避	
	62	62	63	63	63	
兵装	対戦車ミサイル／小型爆弾／大型爆弾／短対空ミサイル／航空機関砲					
イ						



本機は世界で初めて実用化されたレーダー電波に写らないステルス戦闘機。しかし戦闘機といっても、対戦闘機武装は有さず、空中機動性も悪く実質は攻撃機である。ステルス性の追及のため、機体外形はそれまでの飛行機からは想像もできない奇抜なものとなっている。胴体は三角形の平面板、主翼、尾翼も長方形とV字形の組み合わせで構成されている。

攻撃機 **F-117 ナイトホーク** 攻撃4	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	7800	200	12	70	250	45
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対地上回避	対海上回避	対海中回避	
	60	60	79	79	79	
兵装	小型爆弾／巡航ミサイル／大型爆弾					
米						



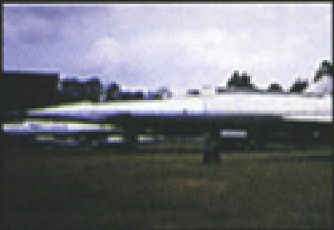
アメリカ海軍によって試作された機体で、A-6の後継機。長距離の阻止攻撃機で、全天候性能を持つ画期的なステルス機である。これまでの航空機からは想像もつかない、凧のような三角形の機体形状を持つ。水平、垂直尾翼の類いはなく、胴体とも翼ともいえる三角形の内部にコクピット、2基のエンジンが収容される。武装はステルス性のためすべてウェポン・ベイに収める。

艦載攻撃機 **A-12 アベンジャーII** 攻撃4	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	6000	200	14	70	250	55
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対地上回避	対海上回避	対海中回避	
	88	88	85	88	88	
兵装	小型爆弾／対艦ミサイル					
米						



フランス空軍の戦略爆撃機で、開発期間短縮のため戦闘機のミラージュ3をそのままスケールアップして作られた。フランスの核戦略をささえる柱のひとつとなる核攻撃専用の超音速爆撃機で、胴体下に半埋め込み式に核爆弾を搭載する。低空侵入用の航法、爆撃機材を搭載している。80年代から爆弾に代えて、空対地核ミサイル装備が進められている。

爆撃機 **ミラージュ IV** 攻撃6	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	4800	150	13	90	250	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対地上回避	対海上回避	対海中回避	
	40	54	53	53	53	
兵装	巡航ミサイル／大型爆弾					
[illegible]						



機首がとがった鉛筆状の胴体に後退角の大きな主翼を装着、後部にポッド式のエンジン2基を搭載するという特異な配置を持つロシア空軍の爆撃機。その形状のおかげで超音速性能を持つが、航続力は低く、近距離の攻撃しかできない欠点を持つ。通常の爆撃型に対地ミサイル装備のミサイル誘導攻撃型があり、海軍でも洋上哨戒、攻撃に使われている。

爆撃機
Tu-22 ブラインダー
攻撃6
[illegible]

	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	5100	150	14	80	250	0
回避性能		対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		42	57	56	56	56
兵装	巡航ミサイル／大型爆弾					



もともとは核爆弾を搭載して敵国深く侵攻するのが任務であった、大型戦略爆撃機。高い航続性能を持ち、空中給油によって事実上、世界のどこへでも出撃可能である。しかし現在では核攻撃任務については、ミサイルと新型爆撃機にとって代わられ、通常の戦術爆撃任務につくようになった。最大24t強という爆弾搭載量は敵地上軍にとっては脅威の的である。

爆撃機
B-52 ストラトフォートレス
攻撃6
米

	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	6600	200	13	110	250	0
回避性能		対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		41	55	54	54	54
兵装	巡航ミサイル／大型爆弾					



ロシア空軍の戦略爆撃機。番号が同じだがブラインダーとは別の機体である。超音速性能と巡航性能を両立させるため可変後退翼を採用。爆撃、航法レーダー、ドップラーレーダー、慣性航法装置、障害物回避レーダー、ECM機材などを搭載して、低空侵攻能力から、電子戦能力まで完備している。また爆弾の他に対艦ミサイルを搭載しての洋上攻撃することも可能になっている。

爆撃機
Tu-22M バックファイア
攻撃6
露

	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	5600	200	14	90	250	0
回避性能		対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		43	58	57	57	57
兵装	巡航ミサイル／大型爆弾					



1950年代に、戦略空軍向けに開発が開始された超高高度／超音速爆撃機。チタン／ステンレスのハニカム構造材がボディに使用され、衝撃波をクリアするための翼端構造など、当時の最先端技術を惜しみなく投入。その結果本機は、実にマッハ3での飛行が可能な爆撃機となった。高額な機体価格や、巡航ミサイルの性能向上により計画はキャンセル。実験機2機のみが製作された。

爆撃機
B-70 ヴァルキリー
攻撃6
米

	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	10200	200	17	120	250	0
回避性能		対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		76	76	72	72	72
兵装	大型爆弾					



B-1の後継として作られた戦略爆撃機。F-117同様レーダー電波に写らないステルス技術を取り入れたステルス爆撃機だ。ステルス性に有利な全翼形状を採用しているが、コンピューター解析などの技術が進んだため、F-117ほど奇抜な形状はしていない。武装は胴体内ランチャーに核ミサイルまたは核爆弾、通常爆弾を搭載する。開発費高騰で生産計画は縮小された。

爆撃機 **B-2 スピリット** 攻撃6	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	14000	200	13	110	250	60
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	60	60	84	84	84	
兵装	巡航ミサイル／大型爆弾					
米						



1981年に初めて存在が確認された大型戦略爆撃機。可変翼を持ち胴体から翼につながる美しいラインを持つ機体で、垂直尾翼の中程に水平尾翼が配されており、超音速性能を持つ。形状はアメリカのB-1に似ているが、サイズはこちらの方がはるかに大きい。胴体ロータリーランチャー式爆弾倉を備え、核ミサイルを搭載する。

爆撃機 **Tu-160 ブラックジャック** 攻撃6	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	7400	200	14	120	250	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	44	59	62	62	62	
兵装	巡航ミサイル／大型爆弾					
露 軍						

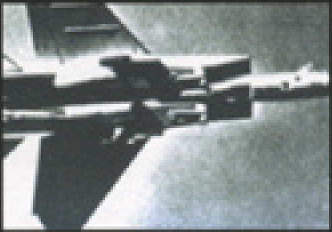
3. その他の固定翼機

偵察機／艦載警戒機／早期警戒機／対潜哨戒機／輸送機／空中給油機



F-4から発展した全天候偵察機。偵察機への改造に当たっては機首部分が変更され、偵察機器室を設け、前方、側方、下方にカメラ窓が開け各種カメラが搭載されている。夜間撮影用には後部胴体に照明弾が搭載されていて、これで撮影するが、赤外線探知装置を用いた高度な偵察も可能。前方側方監視レーダーも搭載しており、霧の中でも敵の動きを探ることができる。

偵察機 **RF-4 偵察機**	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	400	50	14	100	250	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	56	56	52	52	52	
兵装						
米 英 イ 日 ホ						



戦闘機型の就役とほぼ同時に製作された偵察機型。機首部分の設計を変更、レーダーを撤去して偵察機器を搭載している。フォックスバットBではカメラと側視レーダーを搭載、改良型のフォックスバットDでは改良型の側視レーダーと電子情報収集装置を搭載する。普通非武装の偵察機の中で異例なのは爆弾搭載が可能なことで、偵察と同時に攻撃任務にもあたるらしい。

偵察機
MiG-25R 偵察機
露 東 軍

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
450	50	15	90	250	0

回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
	53	53	54	54	54
兵装					



ミラージュF1から派生した偵察機型で、フランス空軍向けの主力であるF1Cを改造してカメラその他所定の偵察機材を搭載。ミラージュF1は平凡な機体だが汎用性が高く、偵察型も戦闘型同様使いやすい機体である。おもしろいのは攻撃能力が残されていることで、エグゾセミサイルを装備して、偵察哨戒を行い、必要に応じて対艦攻撃任務を行うことも可能となっている。

偵察機
ミラージュF1 偵察機
緑 欧 大

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
400	50	14	90	250	0

回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
	56	56	52	52	52
兵装					



空母部隊の上空にあって敵の接近を警戒する艦載早期警戒機。背中にロートドームを背負った双発ターボプロップ機で、空母搭載のため主翼は折り畳み式。機体の設計自体は変化しないが、内部の電子機器の更新は絶え間無く続けられており、現在の機体の性能は当時の機体とは雲泥の差がある。最新型では半径500kmの空域の650目標を同時に監視することが可能。

艦載警戒機
E-2C ホークアイ
米 イ 日 小

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
900	100	11	120	250	0

回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
	36	36	40	44	44
兵装					

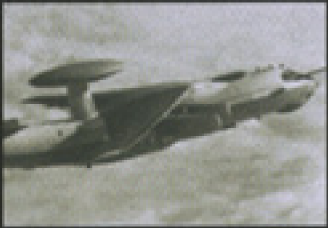


現在世界最高水準の能力を持つ早期警戒管制機。大威力のレーダー、電子装置を搭載して空中を警戒し、脅威に戦闘機を誘導する空飛ぶ防空指揮所である。ボーイング707を改造してレーダー、電子機器を搭載したもので、背中に載った皿のようなレーダーアンテナが特徴。探知距離は最大800km、600個の目標を探知し、200個の識別ができる能力を持つ。

早期警戒管制機
E-3 セントリー
米 英 欧 大

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
1200	100	12	150	250	0

回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
	40	48	40	40	40
兵装					



ロシアの開発した本格的早期警戒管制機。80年代半ばに実用化された。Il-76輸送機をもとに開発され、アメリカのE-3同様背中に目立つレーダーアンテナを収めたロートドームを搭載している。低空飛行する巡航ミサイル監視に威力を発揮する。早期警戒だけでなく、戦闘機の要撃管制も行うが、旧来の音声を用いた管制だというから、能力的には西側よりかなり劣る。

早期警戒機

A-50 メインステイ

[illegible]

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
1100	100	12	140	250	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
	38	47	40	40	40
兵装					



アメリカが開発した大型対潜哨戒機。ロッキード・エレクトラターボ・プロップ旅客機を母体に開発された。レーダー、磁気探知機、ソノブイなどを使い潜水艦を探知。ロケット弾、爆雷、短魚雷などで攻撃する。本機は飛行性能がよく、広い快適な与圧キャビンを生かし各種機材を搭載でき、世界最良の対潜哨戒機といわれる。ハープーンを装備しての対艦攻撃も可能。

対潜哨戒機

P-3C オライオン

攻撃5

[illegible]

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
1600	100	12	120	250	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
	36	46	40	51	55
兵装	対潜魚雷／対艦ミサイル				



ロシアの開発した大型対潜哨戒機で、イリューシンIl-18ターボ・プロップ旅客機を母体に開発されたが、原型から相当に改造されている。レーダー、磁気探知機、ソノブイなどの探知機材、ロケット弾、爆雷、短魚雷などの攻撃武装を搭載する。航続性能、搭載能力ともにオライオンに劣っている。対艦ミサイルの運用能力も持つらしい。

対潜哨戒機

IL-38 メイ

攻撃5

[illegible]

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
1200	100	11	100	250	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
	36	46	40	49	53
兵装	対潜魚雷／対艦ミサイル				



イギリスを除くNATO軍標準の対潜哨戒機として開発された機体。オライオンやニムロッドより小型な、双発ターボ・プロップ機で、73年で生産は一旦終了した。その後80年代に対潜能力の向上をねらって改良型が開発され、生産に移されている。機体規模が劣るため航続性能、搭載量がやや劣るが、全体的な能力は諸外国の機体に見劣りすることはない。

対潜哨戒機

アトランティック

攻撃5

[illegible]

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
1400	100	11	110	250	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
	38	47	40	50	54
兵装	対潜魚雷／対艦ミサイル				



イギリスが開発した世界最初のジェット旅客機コメットを母体に開発された大型対潜哨戒機。航続性能を向上させるためターボ・ファンエンジンを搭載している。67年初飛行し、69年から実戦配備されている。対潜用には所定の各種探知機材、各種攻撃武器を搭載。その他マーテル空対艦ミサイルやAS12空対地ミサイルまで搭載でき、攻撃能力が高いのが特徴である。

対潜哨戒機 **ニムロッド** 攻撃5	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	1500	100	12	120	250	0
	回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		40	48	40	50	54
英	兵装	対潜魚雷／対艦ミサイル				



アメリカは、世界中どこにでもすぐに部隊を派遣する能力を維持しているが、それを支えるのが輸送機部隊である。C-5に準じる搭載量と、C-130同等の前線運用という要求に応えて製作されたのが本機である。STOL性を高めるためエンジン空気の翼面吹き付け装置を持ち、スラストリバーサーも備える。搭載量を増すためずんぐりした太い胴体が特徴となっている。

輸送機 **C-17 G.マスターIII**	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	1100	50	13	130	250	0
	回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		40	48	41	41	41
米	兵装					



軍用、民間、アエロフロートなどで広く使われているロシアの大型貨物輸送機。貨物室の容積を広くとるために肩翼配置を採用、胴体下バルジに主脚を収納し、胴体後部をランプ式にするなど貨物機としての定番の装備を持っている。全天候運用のため、コンピューターを使った自動航法装置、自動着陸装置を備えている。前線飛行場の短い滑走路での運用も可能。

輸送機 **IL-76 キャンディッド**	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	800	50	13	120	250	0
	回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		38	47	40	40	40
露 軍	兵装					



航空自衛隊の主力戦術輸送機として初めて国産された機体。前線飛行場での運用のためのSTOL能力向上に力が入れられ、巧妙な高揚力装置が取り入れられている。また暗夜、濃霧などでも運用できるよう、高度な電子航法装置も採用されている。機体の構成は肩翼、バルジの主脚、後部ランプと標準的で、貨物室内には張りだしを設けないよう留意されている。

輸送機 **川崎 C-1**	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	900	50	13	110	250	0
	回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		39	48	40	40	40
日	兵装					



旧式化したノール・ノラトラに代えて、フランス、西ドイツが共同で開発した中型の戦術輸送機。太い胴体に直線翼、プロペラエンジン2基という平凡な形態をしているが、使いやすくて汎用性が高い。生産は一旦73年に打ち切られたが、81年に再開されていることも本機の優秀性を示している。なお再生産型では空中給油の受油装置が追加されている。

輸送機
トランザール C160

独 仏 軍 大

	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	1000	50	11	140	250	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	38	47	40	40	40	
兵器						



世界60カ国で主力輸送機として活躍してきた長ロングセラー輸送機。本機は、アメリカ初の空軍陸軍統合仕様設計である。空軍の要求する高高度を長距離移動できる能力と、陸軍の要求する大量輸送の両方を満たす機体として設計され、アメリカ初のターボプロップ機となった。輸送だけでなく、空中給油や海難救助から対ゲリラ戦用まで、バリエーションも多い。

輸送機
C-130

米 イ 小

	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	900	50	11	140	250	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	38	47	40	40	40	
兵器						



現代戦では欠かすことのできない支援兵器のひとつ。主に固定翼航空機に、空中を飛びながら燃料を補給し、その航続力を大きく向上させることができる。アメリカのKC-135、KC-130、ロシアのIl-78など輸送機や旅客機を改造したものが多いが、爆撃機や攻撃機から改造されたものもある。フォークランド紛争や湾岸戦争でも多用された。

空中給油機
空中給油機

米 英 イ 日 小 国 東 独 仏 軍 大

	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	1200	50	11	160	250	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	36	46	40	40	40	
兵器						

4. 地上部隊やヘリの攻撃を主任務とするヘリ

攻撃ヘリ／偵察ヘリ



ベトナム戦争でアメリカ軍が輸送ヘリコプターを護衛するために開発した高速武装ヘリコプター。現在の攻撃ヘリの草分け。軽輸送ヘリコプターUH-1を原型とし、エンジン、動力伝達機構を流用している。高速性能を発揮するため、機体は絞り込まれた細長い断面形をしている。20mmガトリング砲を装備、また胴体左右の小翼に対戦車ミサイル、対地ロケット弾等を搭載する。

攻撃ヘリ **AH-1 ヒューイコブラ** 攻撃3	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	1100	50	9	60	250	0
回避性能	対戦空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	38	50	50	50	50	
兵装	対戦車ミサイル／対地機関砲					
米 イ						



陸上自衛隊は対戦車能力を強化するため、対戦車ヘリコプターの導入を決め、アメリカ製のAH-1Sが採用された。導入は昭和52年から始まり、昭和59年からライセンス生産も行われている。本機はAH-1シリーズのアメリカ陸軍による改良型で、とくに対戦車能力が強化されている。現在陸上自衛隊では、各方面隊毎に対戦車ヘリコプター部隊の編成を行っている。

攻撃ヘリ **AH-1S コブラ** 攻撃3	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	1100	50	9	60	250	0
回避性能	対戦空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	38	50	50	50	50	
兵装	対戦車ミサイル／対地機関砲					
日						



ドイツ軍の対戦車ヘリコプター。小型汎用ヘリコプターMBB BO105に所定の改造を施して軍用としたもの。ドイツ軍はBO105を連絡観測機として100機、対戦車攻撃機（PAH-1）として212機採用している。PAH-1は原型に航法装置を追加し、機体側面にアウトリガーを取り付けてそこに6発のHOT対戦車ミサイルを装備している。

攻撃ヘリ **PAH-1** 攻撃3	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	900	50	9	55	250	0
回避性能	対戦空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	40	54	47	47	47	
兵装	対戦車ミサイル／対地機銃					
西 太						



イギリスとフランスが1970年代に共同開発した中型の多用途ヘリコプター・リンクスの対地、対戦車攻撃型。キャビン左右にアームを装備し、対戦車ミサイル、ロケット弾、20mm機関砲、機関銃ポッドなどの搭載が可能。対戦車ミサイルはTOWの他にヘルファイヤも発射可能で、簡易攻撃型だが、本格攻撃ヘリコプターに劣らない攻撃力を発揮可能となっている。

攻撃ヘリ
攻撃リンクス AH.7
攻撃3
英 仏

	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	800	50	9	60	250	0
回避性能	対戦空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	36	48	47	47	47	
兵装	対戦車ミサイル／対地機関砲					



フランス・アエロスパシアル社が開発した小型汎用ヘリコプター。尾部ローターにフェネストロンといわれるダクテッドファンを採用しているのが特徴。原型は60年代に開発されたSA340。連絡、軽輸送、救難に加えて軽攻撃機としても使用可能。フランス軍が採用した最新型の342MではHOT対戦車ミサイル4基を搭載し、本格攻撃ヘリコプターに迫る。

攻撃ヘリ
SA-342 ガゼル
攻撃3
仏 軍

	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	1000	50	9	55	250	0
回避性能	対戦空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	38	50	49	49	49	
兵装	対戦車ミサイル／対地機関					



夜間や悪天候でも行動でき、対戦車戦闘を遂行できる先進攻撃ヘリとしてアメリカ陸軍が開発した重武装攻撃ヘリコプター。1983年に量産開始。夜間行動を可能にする暗視ゴーグルや各種ハイテクセンサーを装備し全天候行動能力を持つ。機体は極めて頑丈につくられていて23mm弾の直撃にも堪えられる。ローターも複合材製で被弾に強くできている。

攻撃ヘリ
AH-64 アパッチ
攻撃3
米 イ

	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	2500	100	10	60	320	0
回避性能	対戦空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	41	55	56	56	56	
兵装	対戦車ミサイル／短対空ミサイル／対地機関砲					



ロシアの開発した、最新鋭の攻撃ヘリコプター。複座が一般的な攻撃ヘリコプターの中で唯一単座となっている。二重反転ローターを装備して、コンパクトでスマートにまとめられている。2機がペアを組み1機が捜索、1機が攻撃というおもしろい用法をとる。機動性が高く対空戦闘も可能。防御力も考慮されており、コクピットまわりには装甲板が取り付けられている。

攻撃ヘリ
Ka-50 ホーカム
攻撃3
露

	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	2200	100	11	60	280	0
回避性能	対戦空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	49	68	52	52	52	
兵装	対戦車ミサイル／短対空ミサイル／対地機関砲					



フランスとドイツの共同開発した新型攻撃ヘリコプター。生産型は3種類のバリエーションで、ドイツが対戦車型のPAH-2、フランスが対戦車型のHACとスカウト・支援型のHAPを生産する。AH-1と同規模の機体で、武装は対戦車ミサイル、対空ミサイル、ロケット弾などを装備可能。HAPは機首に30mm機関砲を固定装備する。

攻撃ヘリ **PAH-2 ティーガー** 攻撃3	生産資金	生産力	索敵力	燃料	耐弾性	ステルス性
	2700	100	10	60	300	0
	回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		42	60	57	57	57
独 仏	兵装	対戦車ミサイル／短対空ミサイル／対地機関砲				



ロシアでホーカムと並行開発されている最新鋭攻撃ヘリコプター。動力やローターはハインドのものを改良して使用している。保守的な設計で、細長い胴体にタンデム複座、機首に機関砲を装備するなど、コブラやアパッチによく似ている。N型はL.B.アパッチに相当するタイプで、赤外線暗視装置のターレットやマスト・マウンテッドサイトなどが追加されている。

攻撃ヘリ **Mi-28N ハボック** 攻撃3	生産資金	生産力	索敵力	燃料	耐弾性	ステルス性
	2300	100	10	60	300	0
	回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		39	54	55	55	55
露	兵装	対戦車ミサイル／短対空ミサイル／対地機関砲				



AH-64をベースにした発展型で、主ローターマスト上にミリ波レーダーを搭載して、索敵攻撃能力を高めている。本機は、現在世界最強の攻撃ヘリコプターである。レーダーは前方監視赤外線装置や光増強TV装置が役に立たない雨、霧、霞の中でも目標の追跡が可能。地形を読み取ることができるので、航法援助手段としても使用できる。エンジンも強化され機動力も高い。

攻撃ヘリ **AH-64D L.B.アパッチ** 攻撃3	生産資金	生産力	索敵力	燃料	耐弾性	ステルス性
	3200	150	10	70	320	0
	回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		47	60	67	67	67
米	兵装	対戦車ミサイル／短対空ミサイル／対地機関砲				



アメリカ軍が現在開発中の最新鋭の偵察、軽攻撃ヘリコプター。現在のAH-1攻撃ヘリとOH-6、OH-58、観測、索敵ヘリを1機種で代替する新世代ヘリコプターだ。ヘリコプターとして初めてステルス設計を取り入れたのが最大の特徴。ステルス性のため、外観は複雑な曲面と直線からなり、降着装置も引き込み式、武装も機関砲以外は機内搭載となっている。

偵察ヘリ **RAH-66 コマンチ** 攻撃3	生産資金	生産力	索敵力	燃料	耐弾性	ステルス性
	2600	150	11	70	250	40
	回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		53	76	69	69	69
米	兵装	対戦車ミサイル／短対空ミサイル／対地機関砲				



陸上自衛隊の次期観測／偵察ヘリコプターで、1996年に開発開始。最高速度250km／h、航続距離720kmと、現用機のOH-6に比べ運動性能、特に夜間での大幅な性能向上を図られていることが特徴。要求性能に合致した製品が海外にないことなどから、国内で独自開発することになり、川崎重工で開発が進められ1998年時点で4機が試験飛行中である。

偵察ヘリ **OH-1** 攻撃3		生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
		1200	100	10	70	250	0
	回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対地上回避	対海上回避	対海中回避
		51	74	63	63	63
日	兵装	空対空ミサイル					

5. その他のヘリ

兵員輸送ヘリ／重輸送ヘリ／対潜ヘリ



ベルUH-1はアメリカで開発された小型汎用ヘリコプターで、この種のヘリの西側でのベストセラーである。59年にHU-1Aが完成、以来HU-1B、命名法が変わりUH-1D、UH-1Hと発展改良が続けられている。兵員12名を搭載でき、小規模ヘリボーン作戦などに使用される。輸送ヘリとしてだけでなく、捜索・救難ヘリとしても有効に活用される。

兵員輸送ヘリ **UH-1 イロコイ** 攻撃4		生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
		450	50	9	80	250	0
	回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対地上回避	対海上回避	対海中回避
		38	42	46	46	46
米 イ 日 小 数 太	兵装	対地ロケット弾／対地機銃					



Mi-8を発展させたロシア軍の汎用輸送ヘリ。エンジンが強化され、巡航速度、上昇能力、ホバリング高度などが改善された。キャビンに兵員20名程度を輸送可能である。軍用型はヒップHと呼ばれる戦術強攻輸送型で、アフガニスタンなどで実戦使用された。胴体側面に3連の武装キャリアが取り付けられ、主として対地制圧用のロケット弾を携行する。

兵員輸送ヘリ **Mi-17 ヒップH** 攻撃4		生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
		400	50	9	75	250	0
	回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対地上回避	対海上回避	対海中回避
		36	40	44	44	44
露 東 朝 [illegible]	兵装	対地ロケット弾／対地機銃					



イギリスとフランスが共同開発した中型の多用途ヘリコプター。エンジンは双発、テールブームに後部ローターを装備した通常形式のヘリコプターである。汎用型はスキッド式の降着装置を装備している。戦術輸送型では兵員10名が搭乗可能。発達型も生産、開発が続けられており、エンジン、トランスミッションを強化し、搭載能力が増強された。

兵員輸送ヘリ **輸送リンクス AH.1** 攻撃4 英	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	450	50	9	80	250	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	38	42	46	46	46	
兵装	対地ロケット弾／対地機銃					



アメリカ陸軍の新型汎用ヘリコプター。兵員輸送、支援、補給などの多目的任務の遂行が可能。軽量化と耐弾性を高めるため、ローターや機体各部に複合材が多用されている。乗員3名兵員11名の輸送が可能で、胴体左右にパイロンを装着すれば、攻撃ヘリとして使用することもできる。パイロンには増加燃料タンクも装着でき、航続力を延伸可能である。

兵員輸送ヘリ **UH-60 ブラックホーク** 攻撃3 米 日	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	600	50	9	85	250	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	38	44	46	46	46	
兵装	対戦車ミサイル／短対空ミサイル／対地機関砲					



Mi-8輸送ヘリコプターを原型に開発されたロシア初の攻撃ヘリコプター。西側の攻撃ヘリコプターに比べるとかなり大型の機体。最初の量産型ハインドAでは、3名が搭乗する大型のコクピットを持ち、キャビンに8名の兵員を搭載することができる攻撃・輸送ヘリコプターであった。しかしハインドDからはタンデム複座のコクピットとなり、攻撃任務中心に変わっている。

兵員輸送ヘリ **Mi-24 ハインドD** 攻撃3 [illegible]	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	900	50	9	80	260	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	38	46	48	48	48	
兵装	対戦車ミサイル／短対空ミサイル／対地機関砲					



アメリカ軍の大型輸送ヘリコプター。原型は1961年に初飛行した。前後ローターのタンデムローター方式を採用。キャビンは荷物が搭載しやすい円筒形の大型キャビンを備える。エンジンは双発をポッド式に胴体後部左右に装備している。発達型の開発が続けられ、飛行・搭載能力が増強され、最新型では兵員で33～59名、車両や貨物で機内10t、機外9tを搭載可能。

重輸送ヘリ **CH-47 チヌーク** 他	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	800	50	9	90	250	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	36	38	40	40	40	
兵装						



汎用ヘリUH-60の派生型で、アメリカ海軍の多目的軽航空機システム向けに製作された。対潜水艦作戦、艦船捜索を主任務、救難、輸送、補給を副任務とする多用途ヘリ。ESM電波探知装置、MAD磁気探知装置、ソノブイ発射装置、魚雷装着用パイロン、データリンクなどを搭載している。機体自体も艦船への搭載と水上での運用のため、改良が施されている。

	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐久性	ステルス性
対潜ヘリ **SH-60 シーホーク** 攻撃3	500	50	9	70	250	0
	回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		38	38	44	52	60
米	武装	対潜魚雷				



特徴的な二重反転ローターを持つ旧ソ連の中型対潜ヘリコプター。1980年代に実用化された最新型で前作のKa-25ホーモンより、速度が速く、航続力も向上している。ずんぐりした胴体内部、周辺に捜索レーダー、ソナー、ソノブイ、MADなど各種対潜対水上用機材を搭載。また胴体下面のウエポンベイに魚雷を搭載できる。複合材やチタン合金を使い、軽量化を計っている。

	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐久性	ステルス性
対潜ヘリ **Ka-27 ヘリックス** 攻撃3	400	50	9	65	250	0
	回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		38	38	44	52	60
[illegible]	武装	対潜魚雷				



海上自衛隊が採用した新型対潜ヘリコプター。原型はアメリカ海軍のSH-60Bシーホークである。これに海上自衛隊独自の運用構想を取り入れた国産の新対潜システムを搭載している。追加された機能は情報データを自動的に処理する戦術情報処理装置、艦艇との間で情報を交換するデータリンク、自動操縦装置などである。

	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐久性	ステルス性
対潜ヘリ **SH-60J** 攻撃3	500	50	9	70	250	0
	回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		38	38	44	52	60
日	武装	対潜魚雷				



リンクスのバリエーションで、イギリス、フランス海軍のフリゲート搭載用対潜型ヘリコプター。動揺の激しい艦船にハードな着艦をしなければならないため、降着装置が複列首輪と緩衝装置付き主輪に変更されている。各種潜水艦探知機材を搭載する他、対潜魚雷か対艦ミサイルの搭載も可能である。現在性能向上型のスーパーリンクスが就役中。

	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐久性	ステルス性
対潜ヘリ **シーリンクス** 攻撃3	450	50	9	65	250	0
	回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		38	38	44	52	60
イ 仏 [illegible]	武装	対潜魚雷				



世界的なベストセラーとなった、アメリカ海軍の中型対潜ヘリ。イギリスウエストランド社でもライセンス生産が行われ、イギリス海軍の採用したのは対潜型、救難型、コマンド支援型など。イギリスでは、HAS.5、HAS.6、HC.4などと呼ばれる。1984年には独自にレーダーを搭載した早期警戒ヘリコプターも製作されている。

対潜ヘリ
シーキング HAS.5
攻撃3
英

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
400	50	9	70	250	0

回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
	36	36	42	50	58
兵装	対潜魚雷				

6. 陸上部隊の攻撃を行う車輌

軽戦闘車／主力戦車／偵察戦闘車／兵員輸送車／自走砲／大型自走砲
自走ロケット砲／大型ロケット砲／戦略ミサイル



ロシア軍の偵察用軽戦車で、浮航能力を有し、軟弱地での行動にも優れる。浮力を得るため車体は大柄で、反面装甲厚は薄い。武装は車体上の小砲塔に76mm砲を装備しているが、対戦車というよりは火力支援用だ。攻撃力、防御力ともに貧弱だが、特殊な機動性を生かしてベトナム戦争でメコンの湿地帯で活動した。1950年代半ばに部隊配備が始められ、その後世界各国に輸出された。

軽戦闘車
PT-76
攻撃2
露 軍

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
200	50	6	50	300	0

回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
	50	50	52	50	50
兵装	戦車砲／機銃				



M901はM113装甲兵員輸送車の車体を利用して、TOW対戦車ミサイルを搭載した戦車駆逐車輌で、1978年に就役した。ミサイルにはTOWを採用、車体上に連装の軽装甲箱型発射機を装備。TOWは射程約4kmの有線誘導ミサイルで、誘導は半自動指令照準線方式。射手は照準線を目標に合わせるだけでいい。軽装甲でもあり、物陰に隠れてミサイルを撃つのが基本戦法である。

軽戦闘車
M901
攻撃2
米 イ

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
300	50	6	60	300	0

回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
	50	50	53	51	51
兵装	対戦車ミサイル／機銃				



1960年に制式化された陸上自衛隊開発の小型戦車駆逐車輌。小型の装軌車体に106mm無反動砲を連装している。砲架は限定旋回式、上下可動で、車体を窪みに隠して砲だけを覗かして射撃できる。現在では威力、射程ともに小さすぎ、敵主力戦車に有効な打撃を与えるのは難しいが、所在を隠蔽し、近距離から敵の弱点を突けばそれなりの活躍ができる。

軽戦闘車 **60式自走無反動砲** 攻撃2	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	200	50	6	50	300	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	50	50	54	50	50	
兵器	無反動砲					
日						



ヤグアル2は旧西ドイツが開発した戦車駆逐車。1950年代末に開発された駆逐戦車ヤークト・パンツアー・カノーネが原型で、1980年代に改造された。TOWミサイルを主武装とした対戦車ミサイル車輌で、装甲戦闘室上にTOWランチャーを剥き出しして装備している。もともと同じ車体を使用してHOT対戦車ミサイルを搭載したヤグアル1という車輌もある。

軽戦闘車 **ヤグアル2** 攻撃2	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	350	50	6	60	370	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	50	52	54	52	52	
兵器	対戦車ミサイル／機銃					
独 大						



イギリスが開発した小型の偵察戦車で、この種の車輌では世界一小さい部類に入る。量産1号車は1969年に完成した。軽量化のために車体、砲塔ともにアルミが使用されており、浮航能力を持つ。空輸性も備えているが、サイズが小さいのは当時の輸送機に合わせたため。武装は砲塔に76mm砲を装備しており、火力支援と限定的な対戦車能力を持つ。

軽戦闘車 **FV101 スコーピオン** 攻撃2	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	300	50	6	60	300	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	50	51	55	52	52	
兵器	戦車砲／機銃					
英 小						



アメリカ軍の緊急展開部隊で使用するために、空輸性を考えて作られた新型軽戦車。軽量小型化が設計の主眼で、重量のかさ張る装甲板は基本装甲だけで、必要に応じて増加装甲ユニットが取り付けられる。武装には105mm低反動砲を搭載。射撃指揮装置にはM1並の強力なものを装備している。空輸だけでなく、空中投下も可能で、火力の弱い緊急展開部隊の貴重な戦力だ。

軽戦闘車 **M8** 攻撃2	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	800	50	7	60	400	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	51	52	62	53	53	
兵器	戦車砲／機銃					
米						



イタリアが開発した大型装輪装甲車で、戦車並の強力な武装を装備しているのが特徴。偵察部隊の火力支援、対戦車戦闘、コンボイの護衛や警備等広範囲な任務に使用可能。路上行動では最高速度105kmを発揮。8輪駆動、6輪操舵で路外行動能力も高い。武装は105mm砲を装備していて、レオパルド1やM60と同じ能力を持つ。ただし軽量で装甲防御力が劣るのが唯一の弱点。

軽戦闘車 **B1 センタウロ** 攻撃2	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	700	50	7	70	400	0
	回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		51	53	61	53	53
軍 大	兵器	戦車砲／機銃				



T54／55、T62に続くロシアの戦後第3世代主力戦車。1960年代半ばに開発が開始され、70年代から就役している。これは最初の第3世代戦車T64を補う目的で製造されたものの、保守的な設計で信頼性の高いことなどから多数生産され、事実上の主力兵器の地位を占めるようになった。輸出もさかんで、安価でお買い得ということもあり、東欧、中東諸国で広く使われた。

主力戦車 **T-72** 攻撃2	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	700	50	6	60	430	0
	回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		50	50	57	52	52
東 陸 軍	兵器	戦車砲／機銃				



1950年代末、100mm砲を搭載したT54が東欧に多数配備され、対抗するために開発された。開発を急ぐため前作のM48戦車の設計を大幅に流用して、攻撃力の強化と航続距離の向上を図っている。主砲は105mm砲、エンジンはディーゼルエンジンを採用。M60A3では、弾道コンピューター、レーザー・レンジ・ファインダーが装備され、大きく戦闘力が向上した。

主力戦車 **M60A3** 攻撃2	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	950	50	6	65	480	0
	回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		50	50	62	53	53
米 イ	兵器	戦車砲／機銃				



ロシアがT62に続いて開発した世界初の第3世代戦車。様々な新機軸が取り入れられた野心作だ。主砲には初めて125mmという大口径滑腔砲を採用。乗員数削減のため自動装填装置も装備された。エンジンには新型の水平対抗ディーゼルエンジンを採用し、改良型のT-64Bでは、いち早くレーザー・レンジ・ファインダーや砲発射ミサイルが装備された。

主力戦車 **T-64** 攻撃2	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	1100	50	6	55	490	0
	回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		50	50	60	53	53
露	兵器	戦車砲／機銃				



74式戦車は戦後日本の第2世代の主力戦車で1975年から生産開始された。諸外国並の105mm主砲を採用、弾道計算機とレーザー・レンジ・ファインダーを備え、高い攻撃力を得ている。車体砲塔とも、日本の国土に合わせた小型軽量化を進め、耐弾性の高い形状で、防御力の向上を計った。油気圧サスペンションにより車高や左右傾斜の変換が可能で、傾斜地での戦闘に有利。

主力戦車 **74式戦車** 攻撃2	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	1050	50	6	55	480	0
	回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		50	50	61	53	53
日	兵装	戦車砲／機銃				



レオパルド1は旧西ドイツが戦後初めて開発した主力戦車で、量産開始は1963年。車体は低平なデザインの溶接鋼板の組み合わせで、砲塔は被弾経始の良好な丸みを帯びた鋳造製である。主砲は105mm砲でエンジンにはディーゼルエンジンを採用。生産中、装甲防御力の強化や射撃指揮装置の改良による攻撃力の向上が図られ、各種の改良型が派生している。

主力戦車 **レオパルド1** 攻撃2	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	1100	50	6	60	490	0
	回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		50	50	62	53	53
西独	兵装	戦車砲／機銃				



センチュリオンに代替すべく、イギリスが開発した主力戦車で、1960年に試作が完成、1965年に実戦部隊へ配備された。防御力向上のため、車体砲塔設計に意を注ぎ、重装甲も自慢。主砲には当時から他をしのぐ120mmライフル砲が採用されていたのも特徴。その代わり機動力が劣るのが欠点で、生産途中にエンジン出力の強化が行われたものの、常に弱点であり続けた。

主力戦車 **チーフテン** 攻撃2	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	1000	50	6	60	500	0
	回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		50	50	60	53	53
[illegible]	兵装	戦車砲／機銃				



1970年代に開発が始められ、1981年に採用された戦後第3世代の戦車。外形はそれまでのアメリカ戦車を一新し、車体、砲塔ともに平面板の組み合わせになっている。これはスペースド・アーマーや複合装甲などの新型装甲採用の結果だ。改良型のM1A1では、攻撃力を増強するために、主砲が120mm滑腔砲に変更されている。湾岸戦争で大活躍した戦車だ。

主力戦車 **M1A1 エイブラムス** 攻撃2	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	1800	100	6	55	680	0
	回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		50	50	65	56	56
米	兵装	戦車砲／機銃				



T64を発達改良させたロシアの第3世代戦車。最大の特徴はガスタービンエンジンの装備で、良好な機動力を得ている。装甲や内部機器には様々な改良が施され、中性子爆弾に対する防御装甲も装備された。主砲はベースとなったT64と同じだが、後期型ではミサイルが新型となった。様々な改良型が存在し、リアクティブ・アーマー等増加装甲やミサイル防御装置も採用された。

主力戦車
T-80
攻撃2
露西亜

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
1300	100	6	55	580	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
	50	50	63	55	55
兵器	戦車砲／機銃				



自衛隊が1970年代末から開発を始めた戦後第3世代戦車。1990年より量産が開始され、現在最新鋭の装備を誇る。主砲には120mm滑腔砲を、車体、砲塔の主要部には新型複合装甲を採用。日本の国土に合わせた小型化が計られており、西の第3世代戦車より一回り小さい。主砲には自動装填装置を採用。乗員は3名で射撃指揮装置には高度な電子機材がフル装備されている。

主力戦車
90式戦車
攻撃2
日

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
1900	100	6	55	650	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
	50	50	64	56	56
兵器	戦車砲／機銃				



旧西ドイツの戦後第3世代戦車の先駆。車体に複合装甲を初めて採用し、それまでの常識を覆す角張った外形をしている。西側の共通戦車砲となったラインメタル製120mm滑腔砲を採用。コンピューターを駆使した射撃指揮装置は、命中精度が高く、機動力も良好で、リミッターをかけて70kmに制限するほどだ。攻守走3拍子そろった世界最強戦車。生産開始は1979年。

主力戦車
レオパルド2
攻撃2
独逸

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
1750	100	6	60	680	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
	50	50	65	56	56
兵器	戦車砲／機銃				



チャレンジャー2は、チーフテンから発展したチャレンジャー戦車の改良型。1988年より開発が始められ、1990年代半ばに配備された最新鋭主力戦車である。イギリス戦車伝統の防御力重視設計でチョーバム・アーマーの採用の他、ステルス塗料塗布や赤外線放射低減などの配慮が盛り込まれている。主砲は120mmライフル砲を再び採用。機動力はあまり重視されていない。

主力戦車
チャレンジャー2
攻撃2
英

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
1700	100	6	60	700	5
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
	51	51	64	56	56
兵器	戦車砲／機銃				



イスラエルが開発した国産戦車。徹底して防御力を重視した異色の戦車だ。デザインは非常に斬新で、特にエンジンを前方配置としたのは被弾時にエンジンを防御に使おうという発想だ。装甲は二重、三重になっており、空所は燃料タンク等になっている。Mk.1、Mk.2には105mm砲を搭載していたが、Mk.3には120mm砲を搭載し、攻撃力も遜色ないものになった。

主力戦車
メルカバ Mk3
攻撃2
イ

	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	1500	100	6	55	680	0
回避性能		対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		50	50	65	56	56
兵装	戦車砲／機銃					



フランスが開発した最新鋭の西側第3世代戦車。1980年代初めに開発に着手され、1992年から引き渡しが始められた。主砲には他より砲身の長い120mm滑腔砲を、防御材には複合装甲が採用された。新しい発想としてパッケージ装甲という方式が取られており、修理や将来の発展が容易になった。電子装備にも力が入れられていて、戦車として初めてのシステム化もされている。

主力戦車
AMX ルクレール
攻撃2
[illegible]

	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	1850	100	6	60	760	0
回避性能		対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		50	52	67	57	57
兵装	戦車砲／機銃					



ロシアの第3世代戦車、T72の改良型。1993年に生産が開始されたT-90は湾岸戦争で評判を落とした防御力、攻撃力の強化が図られた。防御力強化のために車体や砲塔にリアクティブ・アーマーや増加装甲が取り付けられ、武装はT80と同じ改良型となった。西側第3世代戦車に対抗できるかは微妙だが、第3世界の主力戦車としては十分だろう。

主力戦車
T-90
攻撃2
[illegible]

	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	1600	100	6	55	650	0
回避性能		対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		50	52	64	57	57
兵装	戦車砲／機銃					



レオパルド2は優れた第3世代戦車だったが、各国がそれに匹敵する戦車を作り出すと次第に見劣りしてきた。これらの新鋭戦車に対抗すべく改良が行われることになった。改造はKWSストゥーフェン1、2と呼ばれ2001年までに行われる予定である。改造の内容は増加装甲パックの追加と主砲を長砲身のものと換装し、射撃指揮装置の近代化で、改造後はレオパルド2A5と呼ばれる。

主力戦車
レオパルド2改
攻撃2
[illegible]

	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	2100	100	6	60	840	0
回避性能		対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		50	52	70	58	58
兵装	戦車砲／機銃					



アメリカ・キャデラック社が輸出を狙って自社開発した軽戦闘車輌。4輪駆動車に軽装甲を被せ、武装を搭載できる。武装はユーザーの要望に合わせて小は7.62mm機関銃から最大90mm砲までの各種を選択でき、指揮車、回収車などバリエーションも豊富。しかし元来本格的な戦闘車輌ではなく、ゲリラ相手の警戒行動か、警察の治安出動などに向いた車輌である。

偵察戦闘車
V-150 コマンドウ
攻撃2
米 イ

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐久性	ステルス性
250	50	7	75	250	0

回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
	50	50	53	50	50

兵装：戦車砲／機銃



ロシアの標準的な水陸両用装輪装甲車。陸上走行、水上航行ともに高い性能を誇る。特徴は車体中央部下面に引き込み式の小車輪4個を持つことで、不整地走行時などに使えば、走行性能が相当アップする。武装は車体上の小砲塔に軽武装を装備。基本は偵察型だが、戦闘室部分をオープンにできる起倒式の対戦車ミサイルランチャーを搭載した戦車駆逐車型もある。

偵察戦闘車
BRDM-2
攻撃2
露 軍

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐久性	ステルス性
200	50	7	75	250	0

回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
	50	50	53	50	50

兵装：対戦車ミサイル／機銃



フランス軍は装輪装甲車を多数装備しているが、AMLシリーズは1950年代にフランスが開発した偵察用装輪装甲車である。4輪の小型車体に似合わず強力な武装を持つのが特徴で、AML90では当時の戦車並の90mm砲を搭載。偵察部隊の火力支援、対戦車戦闘に使われる。ただし主砲は小型車体搭載のため威力の劣る低反動砲で、対戦車火力は限定的。現在では旧式化している。

偵察戦闘車
AML90
攻撃2
仏 軍

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐久性	ステルス性
250	50	7	70	250	0

回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
	50	50	52	50	50

兵装：戦車砲／機銃



陸上自衛隊が開発した初の装輪式装甲偵察車輌。偵察部隊に装備し前方警戒偵察任務にあたる他、部隊の側方援護警戒行動も行う。路上行動では最高速度100kmを発揮、路外行動能力も高い。威力偵察などで、敵の妨害を排除するため武装に25mm機関砲を装備している。砲兵部隊用の82式指揮通信車とはコンポーネントの共通化が計られている。

偵察戦闘車
87式偵察警戒車
攻撃2
日

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐久性	ステルス性
400	50	7	70	350	0

回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
	50	52	56	52	52

兵装：対戦車ミサイル／対地機関砲



旧西ドイツ陸軍によって1960年代半ばより開発を開始した装輪装甲偵察車輌。装輪式だが8輪駆動、8輪独立懸架というデラックスな機能を持ち、道路上、不整地とも非常に高い機動力を発揮できる。河川障害突破のため、事前準備なしでの水上浮航能力を持つ。装甲防御力は、小火器弾および砲弾破片に堪える程度。武装には車体上の砲塔に20mm機関砲が搭載されている。

偵察戦闘車 ルクス 攻撃2	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	400	50	7	75	370	0
	回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		50	52	56	52	52
[illegible] 大	兵器	対戦車ミサイル／対地機関砲				



スコーピオンから発達した偵察用戦闘車輌で、1970年代後半から量産を開始した。主力戦車と併用して使うことが前提で、本来は対戦車戦闘を考えられていない。このため軽車輌を破壊できる程度でよく、発射速度が高く対空射撃も可能な30mm機関砲を採用した。結果、スコーピオンより重量が軽くなり、機動力が向上した。また燃料搭載量が増やされたことで行動距離も増大している。

偵察戦闘車 FV107 シミター 攻撃2	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	400	50	7	70	350	0
	回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		50	52	54	52	52
英 小	兵器	対戦車ミサイル／対地機関砲				



M2と並行して開発されたM2ブラッドレーの兄弟車輌。騎兵戦闘車と呼ばれる。車体そのものはM2とほぼ同じで、任務に合わせて内部装備品が変更されている。歩兵は搭載せず、もっぱら機動偵察にあたる車輌なので、M2で歩兵が搭乗していたスペースには、予備弾薬やランチャーが満載されている。最近では装甲防御力の増強のため車体、砲塔各部に増加装甲が取り付けられている。

偵察戦闘車 M3 偵察ブラッドレー 攻撃2	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	450	50	7	65	350	0
	回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		50	53	57	52	52
[illegible]	兵器	対戦車ミサイル／対地機関砲				



各種のユニークな戦闘車輌を開発する南アフリカ製の8輪の大型装輪装甲車。1990年から南アフリカ陸軍への配備が始まった。装輪装甲車としては強力な23mm弾に耐える装甲防御力を持つ。特に地雷への防御力を高めているのが特徴。主砲には76mm砲を採用しているが、これは南アフリカ軍の脅威がその程度で対処できると考えたためだ。105mm砲搭載のものも用意されている。

偵察戦闘車 ルーイカット 攻撃2	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	900	50	7	75	400	0
	回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		50	52	61	53	53
[illegible]	兵器	戦車砲／機銃				



アメリカが1960年から生産を開始した西側装甲兵員輸送車の草分け。実質的にはほとんど戦闘能力を持たないため、戦場タクシーなどとバカにされることもあったが、最前線を移動する歩兵に小銃や砲弾の破片から身を守る装甲防御力を提供した意義は大きい。ほとんど箱という単純なデザインの車輌で軽量化し浮航能力を持たせるため、アルミ装甲が採用されていたのが特徴。

兵員輸送車 **M113** 攻撃2	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	300	50	6	60	300	0
	回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		50	50	52	50	50
[illegible]	兵器	対戦車ミサイル／機銃				



ロシアは1960年代半ばに世界最初の歩兵戦闘車BMP1を実用化した。これは歩兵を輸送するだけでなく、歩兵とともに戦闘することができる新しい車輌の出現であった。1970年代に実用化された発展型が、BMP2で、BMP1の73mm低圧砲に代えて30mm機関砲を搭載したのが最大の改良点。BMP2はロシアの他多数の国で使用され、歩兵戦闘車運用の基本を作った。

兵員輸送車 **BMP-2** 攻撃2	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	350	50	6	60	350	0
	回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		50	50	52	50	50
東独軍	兵器	対戦車ミサイル／対地機関砲				



M1エイブラムスと並んで新世代の地上部隊用装備として開発された歩兵戦闘車輌。それまでの装甲兵員輸送車は戦闘能力が無かったが、M2では機関砲、対戦車ミサイルを装備し、敵の装甲車輌、戦車に対する攻撃能力を持つ。乗員3名、兵員6名が搭乗可能。生産開始以後防御力の不足が指摘され、改良型では車体、砲塔各部に増加装甲板がボルト止めされている。

兵員輸送車 **M2 歩兵ブラッドレー** 攻撃2	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	400	50	6	60	350	0
	回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		50	52	56	51	51
米	兵器	対戦車ミサイル／対地機関砲				



ロシア軍の最新鋭歩兵戦闘車で、1989年から部隊配備が開始されている。砲塔にはミサイルも発射可能な100mm砲、30mm機関砲、機関銃の3種類の武装を装備。さらに車体前部左右には機関銃を装備し、非常に強力な武装を持つ。乗員3名、搭載兵員は7名。ただ兵員室はかなり狭く、後部の乗降口もエンジンとの関係で乗り降りしにくいなど、設計上配慮不足な点は多い。

兵員輸送車 **BMP-3** 攻撃2	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	400	50	6	65	350	0
	回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		50	51	54	51	51
露	兵器	対戦車ミサイル／戦車砲／対地機関砲				



1989年に制式化された陸上自衛隊の最新鋭歩兵戦闘車。90式戦車とともに行動できる能力を持ち、独立した対歩兵、対車両、対戦車戦闘能力を持つ。砲塔には35mm機関砲に国産の対戦車ミサイルを装備。車体左右にはガンポートを設置した。装甲は中空装甲が採用され、防御力も充実。ただ昨今の他国の重防御化改造に匹敵するかは不明。乗員3名、搭乗兵員7名。

兵員輸送車 **89式歩兵戦闘車** 攻撃2	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	450	50	6	65	350	0
	回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		50	52	56	52	52
日	兵装	対戦車ミサイル／対地機関砲				



旧西ドイツが1970年代に実用化した西側歩兵戦闘車の草分け。レオパルド1と一緒に行動する軽快な機動力、適度な装甲防御力を持ち、20mm機関砲をオーバー・ヘッド・マウント式に搭載する。現在までに様々な改良が施され、対戦車ミサイルの装備、射撃指揮装置の改良、車体全周、砲塔各面に増加装甲板の取り付けなどが行われている。乗員3名、搭乗兵員7名。

兵員輸送車 **マルダー1** 攻撃2	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	450	50	6	60	370	0
	回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		50	51	55	52	52
独 火	兵装	対戦車ミサイル／対地機関砲				



1987年に制式化されたイギリス軍の最新鋭歩兵戦闘車。チャレンジャーと一体で行動する能力、独立した対歩兵、対車両戦闘能力を持つ。砲塔には、30mm機関砲を装備。ガンポートは装備しておらず、乗車戦闘は考慮されていない。装甲はアルミ装甲だが、その後防御力強化のため追加装甲が取り付けられるようになった。乗員は3名、兵員は7名である。

兵員輸送車 **MCV-80 ウォーリアー** 攻撃2	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	450	50	6	65	350	0
	回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		50	52	55	52	52
英	兵装	対戦車ミサイル／対地機関砲				



西側各国で生産、配備されたベストセラー自走砲。1950年代中期に開発され、アメリカの戦後開発の自走砲としては2世代目。箱型の装軌式装甲車体の後部を戦闘室として、そこに密閉砲塔式に武装を搭載する自走砲の標準形式は、M109で完成されたといっていいだろう。搭載砲は23口径の155mm榴弾砲で、最大射程は14.6km。現在ではやや見劣りする。

自走砲 **M109** 攻撃2	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	800	50	6	60	350	0
	回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		50	50	52	51	51
米 英 イ 仏 独	兵装	榴弾砲				



1971年配備の旧ソ連軍第1世代の自走砲。軍名称はSO-152で、アカーツィヤ(アカシア)というニックネームを持つ。2A33 152mm榴弾砲を、対空ミサイルSA-4自走発射機と同じ車体に砲塔式搭載。射程は通常榴弾で17.3km、ロケット推進補助弾で24kmである。軽装甲防御力を持ち、限定的ながら対戦車直接戦闘も可能。威力は十分だが、最大射程が短い。

自走砲
2S3 アカーツィヤ
攻撃2
[illegible]

	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	650	50	6	55	350	0
回避性能		対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		50	50	51	50	50
兵装	榴弾砲					



陸上自衛隊が国産開発した初の自走砲で、1960年代半ばから開発が始められた。車体はこの自走砲のために作られたオリジナルで、後部に戦闘室を設け、砲塔式に新開発の155mm榴弾砲を搭載。主武装の榴弾砲は砲身長30口径で、最大射程は19kmとM109を上回った。ただし採用後の改良を行わなかったので、現在ではM109の改良型より低性能となってしまった。

自走砲
75式自走榴弾砲
攻撃2
日

	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	850	50	6	60	350	0
回避性能		対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		50	50	52	51	51
兵装	榴弾砲					



旧西ドイツはM109の西ドイツ仕様をM109Gとして採用していたが、これをさらに改良したのがM109A3Gである。もともとドイツ軍のM109は、エンジン変更に、砲尾栓を改良するなどして射程が向上していたが、A3G3では砲身を39口径の長砲身に換装し、さらに独自の改良を加えて、30km台の射程を実現。これによって90年代でも通用する性能を確保している。

自走砲
M109A3G
攻撃2
[illegible]

	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	850	50	6	65	350	0
回避性能		対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		50	50	53	51	51
兵装	榴弾砲					



装輪装甲車体を使用した南アフリカのユニークな自走砲。1988年に配備開始した。独自開発された主砲G5 155mm榴弾砲は45口径と長砲身で、通常弾30km、ベースブリード弾で39kmという当時最高の性能を誇っており、アンゴラ侵攻作戦では敵砲兵の射程外からアウト・レンジすることができた。G6ではこれをオリジナルの6輪装甲車車体に搭載し、高い機動性を実現。

自走砲
G6 ライノ
攻撃2
[illegible]

	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	900	50	7	65	350	0
回避性能		対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		50	50	55	52	52
兵装	榴弾砲					



西のベストセラー自走砲となったM109は、その後各種の改良が加えられた。A6はその最新改良型で、A1で採用された39口径砲の薬室、砲尾、マズルブレーキを改良して、最大射程を30kmに延長した。パラディンは新規生産ではなく、既存のM109を改良して製作された。A6改造によってM109は、当分アメリカ陸軍の主力自走砲として使われることになる。

自走砲	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
M109A6 パラディン	1100	50	6	65	350	0
攻撃2	回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		50	50	56	52	52
米	兵装	榴弾砲				



T80の車体を元に作られたロシアの新型自走砲。戦車型の車体を流用し、もとの砲塔をすげ替える形で152mm砲装備の砲塔を搭載。砲塔は大型化するが、各種車輌に搭載できる。長砲身のカノン榴弾砲を採用。性能的には優れた自走砲で、最大射程は通常弾で24.7km、ロケット推進補助弾で30km以上に達している。自動装填装置を装備しており、持続した射撃が可能だ。

自走砲	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
2S19 モスタ	1200	50	6	65	350	0
攻撃2	回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		50	50	56	52	52
露	兵装	榴弾砲				



2000年代実用化を目指してドイツが開発中の最新鋭自走砲。補助推進機構を持たない通常弾で30km台の射程を実現し、各車が独立した戦闘行動ができる自律的システムの搭載。また52口径もの長砲身の主砲を持ち、自動装填装置による高速発射や60発もの各種砲弾の車内搭載、トップアタック対策などが施された上面装甲などの欲張った性能を実現している。

自走砲	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
PzH2000	1300	50	6	65	400	0
攻撃2	回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		50	50	57	53	53
欧 大	兵装	榴弾砲				



イギリスが90年から装備化を始めた最新鋭自走砲。足回りにチャレンジャーを一部流用している以外は、イギリス・VSEL社によって車体、砲塔を含め完全に新しい車体として開発された。砲はロイヤル・オーディナンス製の39口径155mm砲で、通常弾25km、低抵抗弾32kmの射程を実現。現在52口径の新型砲が開発中で、射程向上が見込まれる。

自走砲	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
AS90	1250	50	6	65	350	0
攻撃2	回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		50	50	56	52	52
英	兵装	榴弾砲				



軍団以上の砲兵部隊に装備されて、強力な砲弾を遠距離に撃ち出す自走砲。ベースはこの種の自走砲用に作られた軽量砲架で、当初被空輸性が要求されたため、非常に小型だ。搭載砲は25口径203mm榴弾砲で、車体上に剥き出しで搭載。射程は16.8kmとそれほど長くなく、これはM110のひとつの欠点。また車体に砲弾は2発しか搭載できないので、M548弾薬車が随伴する。

大型自走砲
M110
攻撃2
米 国

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
1700	100	5	60	300	0

回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
	43	43	44	44	44

兵装	大型榴弾砲



1975年から配備が行われた旧ソ連軍最大の自走砲。S-300対空ミサイルなどに使用されたMT-T装軌車をベースに203mmの長砲身カノン砲を搭載。車体も巨大だが、砲も相当巨大で、陸の怪物の趣がある。砲は車体上に剥き出しで搭載されており、最大射程は37.5kmもある。携行弾数はわずか4発で、弾薬運搬には普通のトラックを使用。ピオーンとは石楠花という意味

大型自走砲
2S7 ピオーン
攻撃2
露 軍

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
1350	100	5	55	300	0

回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
	41	41	42	42	42

兵装	大型榴弾砲



M110の射程が短いという欠点を補うために製作されたM110改良型。1976年に制式化されたのがA1で、37口径の長砲身砲が取り付けられ、発射薬も強力なものが使用されるようになった。A2は1978年に制式化され、射程は通常弾で24km、ロケット推進補助弾では30kmに延びた。外観的には砲身先端に取り付けられた複板式マズルブレーキが特徴。

大型自走砲
M110A2
攻撃2
[illegible]

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
1750	100	5	60	300	0

回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
	43	43	44	44	44

兵装	大型榴弾砲



M110と一対で開発された車輌。長射程で軍団以上の支援火力として使われる。ベースはM110と同じ軽量砲架を使用。M110以上に長大な175mmカノン砲を搭載し、車体とのアンバランスさが一層目立つ。最大射程は通常の弾丸で32.7kmもあり、これは世界一。性能は一級だったが、装備体系の整理のためM110に一本化され退役してしまった。

大型自走砲
M107
攻撃2
東 イ 小 韓

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
1500	100	5	55	300	0

回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
	42	42	43	43	43

兵装	大型榴弾砲



新型の40連装チューブ型ランチャーをウラル375Dトラックの荷台に取り付けたロケット発射車輌。1964年に採用された。ロケット弾はDB-1Bと呼ばれ、射程は20.5km。命中精度は低いが、40発のロケットをわずか20秒で目標周辺地域に送り込む面制圧兵器としての威力は侮れない。西のハイテク兵器に比べて旧式だが頑健、安価で大量に揃える発想で作られた兵器だ。

自走ロケット砲
BM-21 グラード
攻撃3
露 東 越 朝

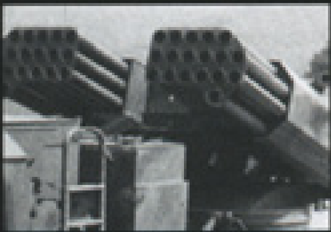
	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	500	50	6	75	220	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	40	40	41	41	41	
兵器	ロケット砲					



陸上自衛隊の国産多連装ロケットランチャー。射撃統制システムが高級なのが特徴で、ジャイロコンパス、傾斜検知機、コンピューター、発射機シンクロ装置などを持つ。73式装甲兵員輸送車用に試作されたSUB-2シャーシを使用しており、上部に30連装のロケットランチャーを搭載。最大射程は14.5km。同一車体を使用した75式自走地上風測定装置もある。

自走ロケット砲
75式自走ロケット砲
攻撃3
日

	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	700	50	6	60	350	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	44	44	45	45	45	
兵器	ロケット砲					



旧西ドイツ軍が開発、装備した多連装ロケットランチャーシステム。1970年代から配備が開始され、NAN社製6輪駆動7tトラックに36連装のロケットランチャーを搭載。ロシアのカチューシャに類似している。射程は通常14kmであるが、最大25kmまで延長することもできる。15連装の軽量ロケットランチャーもあり、これはヘリコプターで空輸できる。

自走ロケット砲
LARS-2
攻撃3
独 大

	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	600	50	6	75	220	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	42	42	43	43	43	
兵器	ロケット砲					



1982年部隊配備が開始されたアメリカ軍開発の新時代のロケットシステム。ベース車体にM2／3ブラッドレーのコンポーネントを使用し、装軌車体後部には箱型のコンテナ発射機を装備。2つのコンテナには12発のロケット弾が装備されている。射程は32kmで、目標地域上空に多数の子爆弾がばらまかれる。コンテナ1つの軽量発射システムも開発されている。

大型ロケット砲
MLRS
攻撃3
米 英 イ 日 独 大

	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	3000	100	5	60	350	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	45	45	46	46	46	
兵器	大型ロケット砲					



1980年代後半に配備が開始された旧ソ連／ロシア軍の最新装備。巨大なMAZ-534-M8輪トラックの荷台を利用して12連装のチューブ状ロケット発射機を搭載。最大射程は70km以上。方面軍レベルの砲兵師団、砲兵旅団に配備され、超長射程を生かして敵砲兵の射程外からの制圧を任務とする。コントロールシステムも用意され、数両を専用指揮車から射撃管制することも可能。

大型ロケット砲 **BM 9A52 スメーチ** 攻撃3	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	2800	100	5	70	250	0
	回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		42	42	43	43	43
[illegible]	兵装	大型ロケット砲				



スカッドBは1961年に配備が開始されたロシアの短距離弾道弾スカッドの改良型。移動発射型は1965年に出現したものでMAZ-534P型8輪トラックを使用している。巨大なスカッドミサイルが、車体全体に横たわるように搭載されており、スカッドの射程は550km。通常弾頭だけでなく、核弾頭も装備可能だ。ただし命中精度はあまりよくない。湾岸戦争でイラクが使用した。

戦術ミサイル **SS-1C スカッドB** 攻撃5	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	3600	100	5	65	300	0
	回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		40	40	41	41	41
※	兵装	弾道ミサイル				

7. 航空機の攻撃を主任務とする車輌

対空機関砲／対空ミサイル／防空ミサイル／長防空ミサイル



M61A1 20mmバルカン砲を車載化した対空機関砲システム。バルカン砲は高発射速度を持つ航空機用機関砲である。開発開始は1964年。車載型のM163と牽引型のM167が両方とも採用されている。M163のベースは西のベストセラー装甲兵員輸送車のM113。上部にバルカン砲を搭載し、内部に給弾システムを収容している。測距用レーダーしか持たないのが欠点。

対空機関砲 **M163** 攻撃2	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	400	50	6	60	300	0
	回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		55	57	52	50	50
[illegible]	兵装	対空機関砲				



ロシアのベストセラー対空兵器。1950年代末期に開発が始められ、1960年代半ばから配備され、中東紛争で活躍した。車体はPT-76水陸両用戦車から発達したもので、砲塔式に4連装の23mm機関砲を搭載。機関砲はレーダー制御され、対空機関砲を復活させることになった。レーダーは砲塔後部に装備されているお皿型のもので目標の捜索、追跡を行い、機関砲を指向する。

対空機関砲 **ZSU-23-4 シルカ** 攻撃2	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	450	50	6	55	350	0
回避性能		対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		54	58	51	50	50
[illegible]	兵装	対空機関砲				



陸上自衛隊が初めて自主開発した自走対空機関砲で、1987年に制式化された。74式戦車車体をベースに、細長い箱型をした新設計の砲塔を搭載。武装はエリコン35mm機関砲で、砲塔左右に1基づつ計2基装備している。レーダーはコンピューター制御で、砲塔後部に捜索レーダーと追跡レーダーを別々に搭載。TVによる補助照準装置も持ち、電波妨害環境下での戦闘もOK。

対空機関砲 **87式対空自走砲** 攻撃2	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	650	50	6	65	350	0
回避性能		対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		65	69	54	52	52
日	兵装	対空機関砲				



旧西ドイツが開発した西側初の近代的自走対空機関砲。1976年に配備を開始した。レオパルド1車体をベースにしており、砲塔式の機関砲を搭載。機関砲はエリコン35mm機関砲で砲塔左右に外部に露出式に取り付けられている。レーダーに捜索レーダーと追跡レーダーを別々に装備し、コンピューター制御の射撃統制システムを持つ。ドイツ軍他、オランダ、ベルギー軍も装備。

対空機関砲 **ゲパルト** 攻撃2	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	600	50	6	65	350	0
回避性能		対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		64	68	55	52	52
[illegible]	兵装	対空機関砲				



ロシア連邦が開発した最新鋭の対空機関砲・ミサイル複合システム。1台で対空ミサイルと対空機関砲を兼ね備え、機関砲では射程外になる目標と、ミサイルでは対処が困難な至近距離の目標の双方を攻撃可能とした。ベースにはMT-S装軌車のものを使用。砲塔に外装式に2基の30mm連装機関砲とミサイル8発を装備。捜索レーダー、追跡レーダーも装備した。チェチェンに出動した。

対空機関砲 **2S6 ツングースカ** 攻撃2	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	900	50	6	65	350	0
回避性能		対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
		66	70	54	52	52
[illegible]	兵装	対空機関砲／短対空ミサイル				



1960年代末に実用化された短射程の対空ミサイルシステム。4連装発射機をBRDM2装輪偵察車体に搭載したもので、前線部隊の直接防空にあたる兵器である。ミサイル誘導は赤外線追尾方式で、最大射程は8km。特に火器管制システムはなくすべて人間に頼っている。ミサイルはオペレーターによって目標に指向され、ミサイルシーカーにロック・オンしたら発射される。

対空ミサイル
SA-9 ガスキン
攻撃2
[illegible]

	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐久性	ステルス性
	300	50	6	70	250	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	52	54	44	44	44	
兵器	短対空ミサイル					



携帯地対空ミサイルのベストセラー、スティンガーミサイルのバリエーションの1つ。スティンガー2基を収納する2つのポッド及び、管制システムで構成され、HMMWVと呼ばれる戦闘車両に搭載し運用する。アメリカ陸軍・海兵隊で、最前線での使用を目的に開発されたアベンジャーは、高い可搬性、広範囲な移動能力などが期待され、1996年から運用が始まっている。

対空ミサイル
アベンジャー
攻撃2
米

	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐久性	ステルス性
	350	50	7	75	240	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	54	56	46	46	46	
兵器	短対空ミサイル					



自衛隊最新鋭の近距離防空システム。新開発の高機動車後部にミサイルを4基、同箱型発射機2基と赤外線、TVカメラ等光学センサーを装備した全周旋回式ランチャー搭載。ミサイルには国産の91式携帯SAMを利用。91式は歩兵が肩に持って発射できるスティンガーに似た誘導SAMだが、赤外線シーカーに画像シーカーを追加し能力が向上した。機動性を生かし、前線防空で活躍。

対空ミサイル
93式近SAM
攻撃2
日

	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐久性	ステルス性
	350	50	7	75	220	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	53	55	45	45	45	
兵器	短対空ミサイル					



1960年代初めに開発が始められたアメリカ陸軍の短射程の対空ミサイルシステム。M548装軌貨物輸送車の荷台に全周旋回式のミサイル発射機を搭載。ミサイルはアメリカ空軍の標準的空対空ミサイルサイドワインダーを改造した。誘導は赤外線追尾方式で最大射程は6km。初期型は後方からのみの発射だったが、1978年よりミサイルシーカーの改良で全方位攻撃が可能になった。

対空ミサイル
M48 チャパラル
攻撃2
米 イ

	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐久性	ステルス性
	450	50	6	65	300	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	50	60	46	46	46	
兵器	短対空ミサイル					



1970年代に実用化したSA-9より高級、長射程な短距離対空ミサイルシステム。ZIl-5973輸送車に搭載、追尾レーダー、4発のミサイルをまとめた砲塔が搭載されている。ミサイルは指令誘導式で、最大射程は12km。当初、ミサイルは剥き出しで取り付けられていたが、1980年にはミサイルをコンテナに収容した改良型が出現した。このタイプはSA-8bと呼ばれる。

対空ミサイル
SA-8 ゲッコー
攻撃2
[illegible]

	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	550	50	6	70	300	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	56	58	45	45	45	
兵装	短対空ミサイル					



自衛隊が装備する、初の純国産地対空ミサイル。ホークと機関砲の間を埋める。73式大型トラックの荷台にミサイル4基を装着した全周旋回式ランチャーを搭載。射撃指揮車輌とセットで運用される。ミサイルは赤外線誘導式だが、空中ロック・オン方式を採用していることが特徴だ。発射機は目標を確認する必要なく、レーダーで発見した目標の概略方向にミサイルを発射すればいい。

対空ミサイル
81式短SAM
攻撃2
日

	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	500	50	6	70	220	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	57	59	43	43	43	
兵装	短対空ミサイル					



フランスと旧西ドイツが共同開発した短距離対空ミサイル。1960年代中期より開発が始まり、70年代末から部隊配備された。ローラントはモジュラー化されたミサイルシステムとして設計され、様々な車体に搭載可能となっている。ドイツではマルダー車体を改造してローラントを搭載している。誘導方式は目視またはレーダーによる半自動指令照準線方式。最大射程は6.3kmである。

対空ミサイル
マルダー・ローラント
攻撃2
[illegible]

	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	650	50	6	60	350	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	64	66	46	46	46	
兵装	短対空ミサイル					



レイピアは1963年にイギリスが開発契約した防空ミサイルで、1971年に基本形の配備が始まっている。フォークランド紛争などでも活躍した。現在も改良が続けられており、数多くの派生型が存在する。低空より進入してくる巡航ミサイルなどを迎撃することが可能な、最新型のレイピア2000の配備も1994年より開始されている。

対空ミサイル
レイピア
攻撃2
[illegible]

	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	500	50	6	60	300	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	57	59	45	45	45	
兵装	短対空ミサイル					



SA-9に代替する目的で開発された短距離対空ミサイルシステム。MT-LB装軌式牽引車を使用し、後部戦闘室部分にはランチャーを搭載。ランチャーは基部に操作員が入り、全周旋回式だ。ミサイルはコンテナに収められ、誘導は赤外線追尾。電子装備は測距レーダーだけで、敵発見は目視に頼る。革新的な兵器ではないが簡便で安価なため、最前線防空兵器として有効。

対空ミサイル

SA-13 ゴーファー

攻撃2

露

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
700	50	6	60	350	0

回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
	62	64	46	46	46

兵装	
	短対空ミサイル



現在ロシア軍の装備する最新鋭対空ミサイルシステムの一つ。師団規模の防空システムでツングースカより1ランク上のクラスだ。車体はMT-S装軌車を使用し、巨大な箱型のミサイル発射機を装備している。ミサイルはこの中に収められていて、垂直に発射される。同時多目標対処能力を持つのが最大の特徴。中間が無線指令、終末がアクティブ・ホーミングである。最大射程は12km。

対空ミサイル

SA-15 ガントレット

攻撃2

露

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
1000	50	6	55	350	0

回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
	67	69	46	46	46

兵装	
	短対空ミサイル



アメリカ軍が開発した対空システム。同じミサイルで対戦車攻撃も可能という特徴を持つ。試作は80年代初めに完成した。システムはモジュラー化された砲塔タイプで、多様な車体に搭載できる。誘導はレーザービームライダー方式。対戦車能力を持たせるために、弾頭は成型炸薬弾頭で、900mmの装甲貫徹能力がある。射程は対空で8km、対戦車で6km。

対空ミサイル

ADATS

攻撃2

米 加

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
900	50	6	60	350	0

回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
	68	70	47	47	47

兵装	
	短対空ミサイル



60年代に実用化されたシステムで、師団防空の主力だった。システムはPT-76から発展した装軌式車体に、巨大なミサイル3発を搭載したミサイル発射機、レーダーを搭載した誘導車輌、管制車輌などから構成される。最大射程は25km。誘導方式はセミ・アクティブ・レーダー・ホーミング方式。かつてはかなりの戦果をあげた実績を持つが、現在ではすでに旧式化したシステムだ。

防空ミサイル

SA-6 ゲインフル

攻撃3

露 [illegible]

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
800	50	5	60	300	0

回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
	42	42	43	43	43

兵装	
	対空ミサイル



50年代初頭にアメリカが開発を開始した基地および野戦用低高度防空用ミサイル。発射機は非常に小型で、トレーラー式になった基部にミサイル3発を装備した装填レールが搭載されている。ただし自走能力がないのが欠点だ。最大射程は35kmで、誘導方式はセミ・アクティブ・ホーミング方式である。開発後、ホーク改良プログラムによって常に性能が改善されている。

防空ミサイル
ホーク
攻撃3
米 英 イ 日 中 韓 独 大

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
1100	50	5	70	220	0

回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
	40	40	41	41	41

兵装	
	防空ミサイル



かなり広いレンジを持った軍／軍団レベルの防空システム。配備開始は80年代末。ミサイル発射機はMT-S装軌車の車体上に搭載され、良好な機動力を持つ。発射機のレール上には4基のミサイルを搭載。その前方には誘導用イルミネーターを収納した巨大なレドームが取り付けられている。最大射程は32kmで、誘導方式は、セミ・アクティブ・ホーミング方式である。

防空ミサイル
SA-11 ガドフライ
攻撃3
露

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
1400	50	5	60	300	0

回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
	43	43	44	44	44

兵装	
	防空ミサイル



1960年代半ば、将来高度化する航空機を迎撃する目的で開発が始められた広域防空システム。85年に配備を開始した。発射機はトレーラー型、ミサイルは箱型コンテナに収納される。射程は70km。誘導は、終末誘導をミサイルシーカーで得られた信号を地上で処理して誘導する、トラック・バイア・ミサイル方式で、高い命中精度を発揮する。湾岸戦争ではスカッドを迎撃した。

長距離防空ミサイル
パトリオット
攻撃4
米 イ 日 独 大

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
3200	100	4	75	220	0

回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
	41	41	42	42	42

兵装	
	長距離防空ミサイル



80年代中頃に配備されたロシアの最新鋭広域防空システム。世界最高の能力を誇る。最初から弾道弾迎撃を考慮して設計されているのが最大の特徴だ。航空機なら100km、弾道弾なら40kmの射程を持つ。ミサイルは円筒型キャニスターに収められて、MT-T装軌車に搭載される。誘導方式は途中まで指令誘導で、終末はセミ・アクティブ・レーダー・ホーミングである。

長距離防空ミサイル
SA-12 グラデュエーター
攻撃4
露

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
3000	100	4	65	250	0

回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
	42	42	43	43	43

兵装	
	長距離防空ミサイル



西側のパトリオットに相当する広域防空システムで、1980年に生産が開始された。ミサイルは円筒型のキャニスターに収められ、4発がトレーラーないしトラック車体に搭載される。ミサイルは超巨大で、最大射程は90kmもある。誘導方式はパトリオットと同じ、トラック・バイア・ミサイル方式。運用には多機能フェーズド・アレイ・レーダーと広域捜索用三次元レーダーが付属する。

長距離ミサイル **SA-10 グランブル** 攻撃4	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	2800	100	4	75	250	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	42	42	43	43	43	
露	兵装	長距離ミサイル				

8. その他の地上部隊

補給車／歩兵／基地部隊



戦争では華々しい戦闘場面にのみ目が向けられがちだが、補給などの後方部門を忘れてはならない。優秀な戦車も弾丸が無ければ戦うことはできないし、スピードのでる装甲車も燃料が無ければ動くこともできない。世界各国ともに補給部隊を持ち補給車輌を装備している。大型ダンプ、トラック、水タンク車、燃料タンク車などがあり、これらが戦闘部隊の行動を支えているのである。

補給車 **補給トラック**	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	300	50	5	80	220	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	40	40	41	41	41	
米 露 イ 日 小 国 東 韓 欧 軍 大	兵装	補給物資				



足で歩くしかない歩兵を後方から戦場へ、戦場から戦場へ輸送する最も安価な手段。あまり特別な車輌ではなく、各国とも民間用のトラックそのままか、あるいは軍用規格に小改良した車輌を人員輸送用に転用している。不整地での機動力は劣るが、道路上なら十分満足できる移動力を持つ。攻撃力、防御力は皆無だが、敵と遭遇する可能性の無い後方で使うには問題はない。

兵員輸送車 **輸送トラック** 攻撃3	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	250	50	7	80	220	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	41	41	42	42	42	
米 露 イ 日 小 国 東 韓 欧 軍 大	兵装	機銃				



歩兵は戦闘部隊の基本である。世界で最初の軍隊は歩兵で編成されていたのである。戦場では長い間歩兵同士の決戦で勝負が決せられた。今でも軍隊は歩兵が無ければ成り立たない。戦車や自走砲はどんなに大きな攻撃力を持っていても、都市や敵領土を占領することはできないからだ。山岳地帯など、歩兵でしか侵入できない地域は、今でも残っている。

歩兵
一般兵
攻撃2
米 英 イ 日 小 露 東 韓 欧 軍 大

	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	100	50	4	100	100	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	40	42	43	43	43	
兵装	小銃					



重装備を持った戦闘能力の高い歩兵。歩兵の一種で通常装備に加え、迫撃砲や無反動砲など携帯できる軽量火砲を扱う。歩兵に対しては大きな攻撃力を発揮して有利に戦え、装甲車輌に対してもある程度の反撃ができる。実際の軍隊では、通常は歩兵部隊全体の中で迫撃砲部隊や、無反動砲部隊など専用の小部隊が設けられていて、必要に応じて普通の歩兵部隊の支援を行う形をとる。

歩兵
重歩兵
攻撃2
米 英 イ 日 小 露 東 韓 欧 軍 大

	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	150	50	4	100	100	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	40	40	44	44	44	
兵装	迫撃砲／無反動砲／小銃					



携帯式対空ミサイルや携帯式対戦車ミサイルを装備した歩兵部隊。戦車や航空機、ヘリなどへの反撃能力を持つ強力な歩兵部隊だ。実際の部隊では、隊員の一部がそれぞれミサイルを携行することになる。また部隊の中に対空小隊や対戦車小隊が設けられてそこに装備が集められたりする。現代のミサイルは非常に進歩しているので、戦車、航空機が手痛い反撃を受けることも多い。

歩兵
ミサイル兵
攻撃2
米 英 イ 日 小 露 東 韓 欧 軍 大

	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	200	50	4	100	100	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	42	43	41	41	41	
兵装	携対空ミサイル／対戦車ミサイル／小銃					



軍兵科の中に工兵と呼ばれる職種がある。その内容はふたつに分けることができる。戦闘工兵と建設工兵である。戦闘工兵の任務は攻撃時の障害物の撤去などの戦闘支援。これに対して建設土木工事を行うのが建設工兵だ。基地を開発設営する開発部隊はこの建設工兵にあたる。こうした部隊は規模は違うが各国ともに保有し、戦闘を支える後方支援任務で重要な役割を果たす。

基地部隊
基地部隊
米 英 イ 日 小 露 東 韓 欧 軍 大

	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	5000	400	4	70	400	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	50	50	50	50	50	
兵装						

9. 水上戦闘艦

フリゲイト艦／駆逐艦／巡洋艦／戦艦



クリバックは70年以来建造されているロシア海軍の駆逐艦。2型は75年より就役。対潜能力が重視されているが、ある程度の対艦、対空能力も持つ。2型は原型に比べて砲熕兵装が強化された。水上艦部隊の外郭護衛を受け持ち対潜制圧を行う他、水上警備任務につく。特に改良型の3型ではヘリコプターが搭載され、内務省国境警備隊の警備艦として運用されている。

フリゲイト艦

クリバックII

攻撃2

露海軍

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
2800	100	6	120	700	0

回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
	40	40	50	50	44

兵装：対空ミサイル／大型艦砲／対潜ミサイル／対空機関砲



82年に就役した海上自衛隊の汎用護衛艦で、八八艦隊構想に基づき対艦、対空、対潜にバランスのとれた性能を持つ。自衛艦として初のオール・ガス・タービン艦で、装備システムを統合運用する初のシステム艦でもある。期待の有力艦だったが、あまりにも切り詰めた設計のため、各種装備にゆとりがなく、将来の発展余裕もなかった。今後新型艦の就役で地方隊に回される予定。

フリゲイト艦

はつゆき

攻撃2

日

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
2700	100	6	100	700	0

回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
	41	41	50	50	44

兵装：対空ミサイル／対艦ミサイル／小型艦砲／対潜ミサイル／対空機関砲



79年から就役したイギリス海軍の対潜艦でリアンダー級に比べてソナー能力、対艦ミサイル防御、航洋性の強化が図られた。バッチ3は88年から就役した最終型。船体を延長、武装強化を図り、114ミリ砲とCIWSを搭載している。フォークランド紛争以前に設計されたミサイル防御過渡期の船で、改良したものの性能的には不十分な点が目立ち、バッチ1はすでに売却されている。

フリゲイト艦

22型フリゲイト バッチ3

攻撃2

英

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
3000	100	6	120	700	0

回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
	43	43	50	50	44

兵装：対空ミサイル／対艦ミサイル／大型艦砲／対潜魚雷／対空機関砲



77年に就役したアメリカ海軍のフリゲイト。ハイ・ロー・ミックスで大型のスプルーアンス級とコンビを組んで調達された。ノックス級が対潜重視だったのに対し、対空重視で、小型ながらエリアディフェンス用対空ミサイルを装備。対艦、対潜能力も相応のものを備える。空母の護衛や哨戒などに十分な能力を有するが、予算削減ですでに一部は予備部隊に編入されている。

フリゲイト艦
オリヴァー・ハザード・ペリー
攻撃2
[illegible]

	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	2900	100	6	110	700	0
回避性能		対航空回避	対ヘリ回避	対地上回避	対海上回避	対海中回避
		45	45	50	50	45
兵装	防空ミサイル／対艦ミサイル／小型艦砲／対潜魚雷／対空機関砲					



96年に就役した海上自衛隊の最新鋭護衛艦。はつゆき型、あさぎり型に続く、対艦、対空、対潜能力バランスがとれた汎用艦。大型化で船体に余裕ができ無理なく各種武装装備が可能になった。垂直発射方式の対空ミサイルや対潜ミサイル発射機が採用されたのが特徴で、限定的ながらステルス性も考慮されている。はつゆき型に代わり護衛隊のワークホースとして使用される。

フリゲイト艦
むらさめ
攻撃2
日

	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	3200	100	6	140	700	5
回避性能		対航空回避	対ヘリ回避	対地上回避	対海上回避	対海中回避
		52	52	52	52	46
兵装	防空ミサイル／対艦ミサイル／小型艦砲／対潜ミサイル／対空機関砲					



94年に竣工したフランス海軍の最新鋭フリゲイト艦。艦全体に大胆にステルス技術を取り入れたのが特徴で、全体に平面板の組み合わせで作られた。これまでの軍艦とは全く異なったイメージのシルエットを持つ。ボートや揚錨機などを、できるだけ艦内に収容。外面に電波吸収剤の塗布も行われている。小型ながらひととおりの対艦、対空、対潜兵装を備えたバランスのとれた汎用艦だ。

フリゲイト艦
ラファイエット
攻撃2
[illegible]

	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	3400	100	6	150	700	20
回避性能		対航空回避	対ヘリ回避	対地上回避	対海上回避	対海中回避
		58	58	54	54	45
兵装	防空ミサイル／対艦ミサイル／大型艦砲／対潜魚雷／対空機関砲					



90年に1番艦が完成したイギリス海軍の新鋭フリゲイト艦。当初は対潜任務中心の比較的小型の艦であったが、次第に装備を追加し、大型化、多目的化した。垂直発射式対空ミサイル発射機を採用。設計中にフォークランド紛争が勃発。その戦訓から、艦内の防火区画細分化、耐火性向上、応急能力向上、主要部弾片防御追加など抗堪性の強化が行われた。

フリゲイト艦
23型フリゲイト
攻撃2
英

	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	3200	100	6	120	700	0
回避性能		対航空回避	対ヘリ回避	対地上回避	対海上回避	対海中回避
		50	50	50	50	45
兵装	防空ミサイル／対艦ミサイル／大型艦砲／対潜魚雷／対空機関砲					



94年に竣工したイスラエル海軍の最新鋭フリゲイト。アメリカで建造された。フランスのラファイエット級と並び、ステルス性を極限まで追及しているのが特徴。積み木細工のようなアンバランスな外形はコンピューター解析で決定。小型艦のわりに重武装で多数のミサイルを装備し、十分な対空、対艦、対潜能力を有する。イスラエルでは沿岸防備用にミサイル艇に代えて用いる。

フリゲイト艦 **エイラート** 攻撃2	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	3500	100	6	140	700	20
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	56	56	52	52	46	
イ	兵装	防空ミサイル／対艦ミサイル／対艦ミサイル／小型艦砲／対潜魚雷／対空機関砲				



80年に就役したロシアの汎用駆逐艦。大型対潜艦と呼称されるように、対潜任務を主とする。充実した対潜兵器を備え、バウソナー、可変深度ソナーも装備。旧ソ連海軍が建設を目指していた空母機動部隊の護衛艦として使用される予定であったといわれている。対艦ミサイルを装備していないため、対艦攻撃能力に欠けるのが悩みで西側艦より、いま一歩汎用性に欠ける。

駆逐艦 **ウダロイ** 攻撃2	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	3400	150	6	110	800	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	45	45	50	50	48	
露	兵装	防空ミサイル／大型艦砲／対潜ミサイル／対空機関砲				



75年に就役したアメリカ海軍の汎用駆逐艦。将来の発展余裕を見て設計されたため、就役当初は装備内容に比べて過大な艦形として批判を受けた。しかし、様々な装備を追加した結果、現在ではバランスのとれた兵装をもつ有力な多用途駆逐艦となった。アメリカ初のガスタービン推進艦。アメリカらしい大型で豪華な駆逐艦で、主として空母部隊の対潜警戒にあたる。

駆逐艦 **スプルーアンス** 攻撃2	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	4000	150	6	150	800	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	47	47	50	50	50	
米	兵装	防空ミサイル／対艦ミサイル／大型艦砲／対潜ミサイル／対空機関砲				



79年竣工のフランス海軍の駆逐艦で、フランスでは対潜フリゲートに分類される。建造費を抑えるため小型で、武装も簡略化されたが、対潜、対空、対艦ともに十分な能力を持つ。最大の特徴は初めて本格的にガス・タービン機関を採用したことだが、以後再びディーゼルに戻ってしまった。平凡だが、艦隊の護衛、哨戒、警備任務に適した優れた護衛艦。

駆逐艦 **ジョルジョ・レイグ** 攻撃2	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	3800	150	6	160	800	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	45	45	50	50	48	
欧 大	兵装	防空ミサイル／対艦ミサイル／大型艦砲／対潜魚雷／対空機関砲				



86年に就役したミサイル護衛艦。あまつかぜ、あさかぜ型に続く第三世代のエリアディフェンス対空ミサイル搭載艦。防空処理能力が強化され、イージス艦を除けば、最も有力な防空ミサイル艦といわれる。しかしこの後イージス艦が建造されたため中途半端な存在となってしまう。八八艦隊護衛隊の中で、イージス艦と共に艦隊防空を担当するが、相応の対艦、対潜能力も有する。

駆逐艦
はたかぜ
攻撃2
日

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐久性	ステルス性
4600	150	6	150	800	0

回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
	46	46	50	50	46

兵装：防空ミサイル／対艦ミサイル／大型艦砲／対潜ミサイル／対空機関砲



88年に完成したフランスの新鋭ミサイル駆逐艦。旧式化したシュルクーフ級の代替艦で、空母部隊の艦隊防空任務を持つ。船体はジョルジュ・レイグ級の流用、ミサイル・システムはシュルクーフ級から取り外したものを再利用するという節約手段が取られた。システムには相応の近代化が盛り込まれたが、飛躍的な進歩を遂げたアメリカのイージスシステムと比べるとかなり見劣りする

駆逐艦
カサール
攻撃2
仏

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐久性	ステルス性
4500	150	6	160	800	0

回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
	48	48	50	50	46

兵装：防空ミサイル／対艦ミサイル／大型艦砲／対潜魚雷／対空機関砲



42型は75年から就役したイギリス海軍のミサイル駆逐艦。建造費を低減するためできるだけ小型な船形とされ、このため余裕のない設計で搭載武装も限定された。これを改良したものがバッチ3。船体を延長して不足する船内容積を確保。航洋性を向上させた。フォークランド紛争では2隻が沈没したが、紛争後対艦ミサイル防御のためCIWSが追加された。

駆逐艦
42型駆逐艦バッチ3
攻撃2
英

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐久性	ステルス性
4200	150	6	140	800	0

回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
	50	50	50	50	48

兵装：防空ミサイル／大型艦砲／対潜魚雷／対空機関砲



91年に完成したアメリカ海軍最新鋭のミサイル駆逐艦。タイコンデロガ級防空巡洋艦を補って、アメリカ空母部隊の対空警戒にあたるのが任務。初めからイージスシステムを搭載するよう設計され、アンテナ配置などが合理的になっている。ステルス性の向上にも留意されていて、船体や上構などの外板がレーダー電波をそらすよう斜めに傾けられている。

駆逐艦
アーレイバーク
攻撃2
米

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐久性	ステルス性
7200	150	6	160	800	10

回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避
	60	60	54	54	49

兵装：防空ミサイル／対艦ミサイル／大型艦砲／対潜ミサイル／対空機関砲



81年に完成したロシア海軍最新鋭のミサイル駆逐艦。ほぼ同規模のウダロイ級が対潜艦であるのに対し、艦隊の対空防御が主任務の艦といわれる。ロシア海軍は汎用艦とせず両者を並行整備。ただし肝心の対空装備については長射程ミサイルを装備しているが、アメリカのイージスシステムのような高級なものは装備しておらず、実際は限定的な能力しか持たない。

駆逐艦
ソブレメンヌイ
攻撃2
露海軍

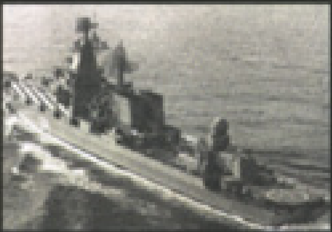
	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐久性	ステルス性
	5600	150	6	170	800	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	56	56	52	52	48	
兵装	防空ミサイル／対艦ミサイル／大型艦砲／対潜魚雷／対空機関砲					



海上自衛隊の誇る最新鋭イージス護衛艦。旧ソ連の対艦ミサイルの飽和攻撃に対処するために導入された。アメリカのアーレイバーク級をタイプシップに、日本で所要の設計変更を加えている。同時多数目標処理能力を持つイージスシステムは、海上自衛隊の防空に新時代をもたらした。八八艦隊の防空の要となる艦であり、主砲に新型のOTTOメララ速射砲を採用。

駆逐艦
こんごう
攻撃2
日

	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐久性	ステルス性
	7400	150	6	160	800	5
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	58	58	54	54	49	
兵装	防空ミサイル／対艦ミサイル／大型艦砲／対潜ミサイル／対空機関砲					



1982年に就役した大型のミサイル巡洋艦で、原子力巡洋艦アドミラル・ウシャコフ級を補完する目的で建造されたといわれる。艦橋の左右にずらりと並べられた対艦ミサイル発射筒が特徴である。全部で16発のミサイルの一斉発射で敵空母艦隊に飽和ミサイル攻撃をかけるのが目的。艦隊防空も可能な長射程対空ミサイルの垂直発射システムを搭載し対空能力も高い。

巡洋艦
スラヴァ
攻撃2
露

	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐久性	ステルス性
	6400	150	6	200	900	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	58	58	53	53	48	
兵装	防空ミサイル／対艦ミサイル／大型艦砲／対潜魚雷／対空機関砲					



1986年に就役した、アメリカ・タイコンデロガ級イージス巡洋艦の6番艦。タイコンデロガ級は世界最初のイージス艦で、空母機動部隊の防空の要。スプルーアンス級の船体を流用し、イージスシステムを搭載。巨大な倉庫のような上部構造物が特徴である。建造時期によってタイプが分かれ、バンカーヒル以降が垂直ミサイル発射システムを搭載した標準型である。

巡洋艦
バンカーヒル
攻撃2
米

	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐久性	ステルス性
	11000	200	6	200	1000	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	65	65	56	56	50	
兵装	防空ミサイル／対艦ミサイル／巡航ミサイル／大型艦砲／対潜ミサイル／対空機関砲					



ロシア海軍初の原子力推進水上戦闘艦で、空母を除けば、第二次世界大戦後に完成した世界最大の水上艦である。現代のミサイル戦艦ともいわれ、垂直発射システムを採用したことが特徴だ。対艦、対空、対潜攻撃武器を各種搭載した万能艦。船体外板を傾斜させ、ステルス性も考慮。強力な攻撃力、長大な航続力を生かし、空母部隊の補完、水上打撃部隊の中心ともなる。

巡洋艦 **アドミラル・ウシャコフ** 攻撃2 露軍	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐久性	ステルス性
	13000	200	6	600	1100	5
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	62	62	52	52	49	
兵器	艦空ミサイル／対艦ミサイル／巡航ミサイル／大型艦砲／対潜ミサイル／対空機関砲					



第二次世界大戦中に就役した戦艦で、日本の大和級に対抗することを想定し建造。戦艦の時代の終わりで戦後退役したが、朝鮮戦争、ベトナム戦争（ニュージャージーのみ）で再役し艦砲射撃に猛威を奮った。80年代にレーガン大統領の600隻海軍構想で復活し、湾岸戦争にも使われたが、その後維持費がかかりすぎるため退役した。旧式だが攻撃力、防御力とも世界最強の艦だ。

戦艦 **アイオワ** 攻撃2 米	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐久性	ステルス性
	25000	400	6	200	2000	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	36	36	55	55	42	
兵器	対艦ミサイル／巡航ミサイル／超大型艦砲／大型艦砲／対空機関砲					

10. その他の水上艦

VTOL空母／航空母艦／輸送艦／補給艦



1980年に就役した西側最初の軽空母。搭載能力が劣るため、完成当初は疑問視されたが、フォークランド紛争で大活躍し、西側各国の建造した軽空母の見本となった。飛行甲板前端にスキージャンプと呼ばれる勾配を持つことが特徴で、この使用によりハリアーの能力が大きく高まった。早期警戒機を持たないのが悩みで、フォークランド紛争時に急きょ、早期警戒ヘリが開発された。

VTOL空母 **インビンシブル** 攻撃3 英	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐久性	ステルス性
	3200	100	6	200	800	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	52	52	49	49	40	
兵器	艦空ミサイル／対空機関砲／補給物資					



ロシア海軍が建造した軽空母キエフ級の4番艦で、1987年に就役した。アドミラル・クズネツォフで使用するシステムの実験のため、元のキエフ級に比べレーダーシステム等多くの改正が施されているため別のクラスとして分類されることもある。カタパルトや着艦拘束装置を持たないため、搭載機はヘリコプターとV／STOL機フォージャーだけで、能力的には限界がある。

VTOL空母
アドミラル・ゴルシコフ
攻撃3
露

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
5800	100	6	200	900	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対艦上回避	対海上回避	対海中回避
	56	56	48	48	40
兵装	防空ミサイル／対艦ミサイル／大型機関砲／対潜魚雷／対空機関砲／補給物資				



1975年に就役した世界最強の超大型原子力空母。カタパルト、着艦拘束装置を装備し、各種固定翼航空機を搭載。その攻撃力は世界一強力で、小国なら優に一国を上回る。駆逐艦、巡洋艦などの護衛艦艇とともに空母機動部隊を編成、海上に浮かぶ航空基地として世界の紛争地域にすぐに展開することが可能。世界の警察官アメリカの軍事的プレゼンスの中心的役割を担っている。

航空母艦
ニミッツ
攻撃3
米

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
6000	150	6	800	1000	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対艦上回避	対海上回避	対海中回避
	50	50	48	48	40
兵装	防空ミサイル／対空機関砲／補給物資				



91年、搭載機のないまま就役したロシアが初めて建造した固定翼航空機搭載型空母。着艦拘束装置は持つものの、カタパルトは持たず発進はスキージャンプによるという中途半端な艦である。このことは旧ソ連の技術的遅れを表している。空母でありながら対艦ミサイルを搭載しているのも特徴。アメリカ的な浮かぶ航空基地というより、艦隊の防空と沿岸防衛の補完的役割を果たす。

航空母艦
アドミラル・クズネツォフ
攻撃3
[illegible]

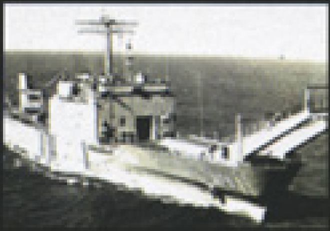
生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
7800	150	6	200	900	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対艦上回避	対海上回避	対海中回避
	56	56	48	48	40
兵装	防空ミサイル／対艦ミサイル／対潜魚雷／対空機関砲／補給物資				



1999年就役予定のフランス海軍が現在建造中の新型空母。老朽化したクレマンソー級を代替するために建造された。フランス海軍初の原子力推進水上艦でもある。カタパルト、着艦拘束装置を備え、固定翼機の効率的運用が可能。ステルス性も考慮され、全体に鋭角的なフォルムを持つ。本格空母には劣るが、軽空母に比べれば、通常の固定翼機が運用できるメリットは大きい。

航空母艦
シャルル・ド・ゴール
攻撃3
[illegible]

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
7200	150	6	800	1000	20
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対艦上回避	対海上回避	対海中回避
	60	60	50	50	42
兵装	防空ミサイル／対空機関砲／補給物資				



陸上部隊を輸送する艦船の総称だが、ここでは戦車を中心とした部隊を輸送し、船体を直接砂浜に乗り上げて陸揚げを行う能力を持つ、戦車揚陸艦をモデルとしている。固有の攻撃力はあまりなく速力も遅いが、重要な軍艦である。主なものでは、アメリカのニューポート級、ロシアのロプーチャ級、アリゲーター級、イギリスのサー・ガラハド級、サー・ランスロット級などがある。

輸送艦 **輸送艦** 攻撃3	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	1300	100	6	150	600	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	36	36	45	45	34	
兵装	対空機関砲					
米 英 イ 日 小 国 東 統 欧 軍 大						



上陸作戦用の艦艇で、ドックや飛行甲板を備え、大型のものは空母型船形をしている。大量の戦車や車輌、人員、物資を搭載し、ドックから舟艇、ホバークラフト、甲板からヘリコプター等で輸送、上陸させる。アメリカのワスプ級が最大で、小型で能力も低いがロシアのイワン・ロゴフ級、イギリスのフィアレス級、フランスのウラガン級なども含まれる。

輸送艦 **強襲揚陸艦** 攻撃3	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	2200	100	6	150	700	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	38	38	48	48	36	
兵装	対空ミサイル／小型艦砲／対空機関砲					
米 英 日 国 欧 軍 大						



海上での艦船行動に欠かせない支援艦船。艦隊とともに行動、あるいは必要に応じてランデブーして、武器弾薬や燃料、食糧など消耗品の補給を行う。その国の外洋行動の質によって整備されている補給艦の質も違い、数万tから数千t、最高速力26ノットからわずか12ノットと大きさも性能も千差万別。一般に低速で、攻撃力、防御力も持たない船といえる。

補給艦 **補給艦**	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	3000	100	6	200	600	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	34	34	44	44	32	
兵装	補給物資					
米 英 イ 日 小 国 東 統 欧 軍 大						

11. 潜水艦

攻撃潜水艦／ミサイル潜水艦



1976年に就役したアメリカ海軍の攻撃型原子力潜水艦。敵の弾道ミサイル潜水艦の攻撃、味方の弾道ミサイル潜水艦の護衛、空母部隊の護衛などが任務であるが、最近は巡航ミサイルを搭載して、地上攻撃も行う。就役以来30年、武装、静粛性、情報処理装置などの改良を重ねながら建造が続けられた。40番艦以降は性能改善が著しく改ロスアンジェルス級と呼ばれることもある。

攻撃潜水艦 **ロスアンジェルス** 攻撃2	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	4000	100	6	800	500	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対地上回避	対海上回避	対海中回避	
	48	48	60	60	58	
米	兵器	対艦ミサイル／魚雷				



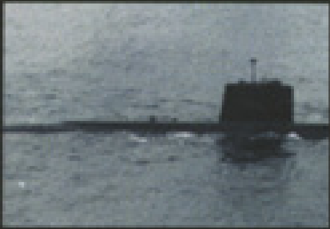
ロシアが1978年に就役させた攻撃型原子力潜水艦。軽量で強度の高いチタン合金を使用し、最大潜航深度700mを誇る。小型の船体に2基の高出力原子炉を搭載、世界最速でもある。反面騒音が大きく、アメリカ海軍は容易に捕捉できたといわれる。アメリカの空母部隊、戦略原潜の攻撃、自国戦略原潜の防衛が主任務である。突出した性能を持つが、総合的に見て評価が低い。

攻撃潜水艦 **アルファ** 攻撃2	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	3500	100	7	800	500	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対地上回避	対海上回避	対海中回避	
	42	42	55	55	53	
露	兵器	対艦ミサイル／魚雷				



海自の最新鋭攻撃型通常動力潜水艦。新鋼材を使用し、潜航深度が増大している。曳航式ソナーを採用、静粛性も高い。自衛隊涙滴型潜水艦第3世代で、全体に余裕のある設計となっている。ディーゼル艦としての限界はあるが、戦闘力は十分高い。海峡での敵通行阻止、上陸作戦を行う敵部隊の撃破、シーレーンに対する敵潜水艦攻撃の排除などを任務とする。

攻撃潜水艦 **はるしお** 攻撃2	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	3700	100	6	120	500	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対地上回避	対海上回避	対海中回避	
	46	46	58	58	56	
日	兵器	対艦ミサイル／魚雷				



フランス海軍初の攻撃型原子力潜水艦。世界中の原子力潜水艦で最も小さいサイズの艦で、各国の通常動力潜水艦とほとんど変わらないサイズにまとめられ、フランスの原子炉小型化の高い能力を示している。あまりに小さすぎたので、後継は大型化する見込みである。なお5番艦以降はアメティスト・バッチと呼ばれる改良型で、アメティスト級とも呼ばれる。

攻撃潜水艦 **リュビ** 攻撃2	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	3600	100	6	800	500	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	44	44	57	57	55	
数 大	兵装	対艦ミサイル／魚雷				



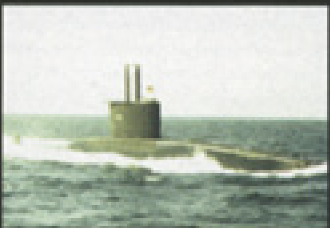
イギリス海軍最新鋭攻撃型原子力潜水艦。原子力潜水艦が通常動力型潜水艦より劣るといわれる静粛性の改善にとくに力を入れ、船体には特殊な遮音タイルが装着されている。2番艦からは推進機をポンプジェット方式にしてさらに静粛化を計った。イギリス攻撃原潜の任務としては、弾道ミサイル潜水艦の護衛、空母部隊の護衛や敵艦船の攻撃任務にあたる。

攻撃潜水艦 **トラファルガー** 攻撃2	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	3900	100	6	800	500	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	46	46	59	59	57	
英	兵装	対艦ミサイル／魚雷				



ロシアの最新鋭攻撃型通常動力潜水艦。ロシア海軍はハイ・ローミックス構想で、原子力潜水艦と通常動力潜水艦を並行建造している。本艦はロシアの通常動力型潜水艦として初めて涙滴型船体が採用されており、水中性能が向上している。静粛性を増すため船体表面には遮音タイルが張られ、経済推進用のトンネル推進システムを持つ等様々な特色を持つ。

攻撃潜水艦 **キロ** 攻撃2	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	3000	100	6	100	500	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	42	42	56	56	54	
東 輸 霜	兵装	魚雷				



ドイツHDW社が開発した輸出用の潜水艦で、多数の国に輸出が行われている。通常動力型で顧客の要望に応じて1000～2000tの各種バリエーションがある。ドイツは潜水艦の先進国で、通常動力潜水艦については現在世界第一級の性能を有しており、輸出潜水艦も世界水準のものである。209型の輸出先は世界12カ国におよび、今後もますます販売されるであろう。

攻撃潜水艦 **209型** 攻撃2	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	3200	100	6	130	500	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	44	44	58	58	56	
イ ネ	兵装	魚雷				



性能向上著しいロシア潜水艦に対抗するため、アメリカ海軍が総力をあげて作り上げた世界最新鋭かつ最強の攻撃型原子力潜水艦。フランク・アレー・ソナーの採用や大型魚雷発射管など各種新機軸が取り入れられていた。最大の特徴は搭載武装のバリエーションと搭載量の多さだ。建造費があまりにもかかりすぎたため、廉価な新型艦に切り替えられる予定。

攻撃潜水艦 **シーウルフ** 攻撃2	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	10000	150	6	800	500	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	60	60	68	68	66	
兵装	対艦ミサイル／魚雷／巡航ミサイル					
米						



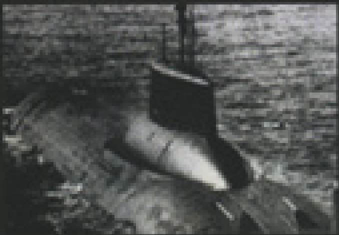
原型のアクラ級はロシアが1984年に就役させた最新鋭の攻撃型原子力潜水艦。アルファ級と同じく船体に軽量で強度の高いチタン合金を使用しているが、大規模な静粛化対策が取られて、これまでの最大の欠点が解消されている。2種の発射管を装備し、魚雷、対艦ミサイル、巡航ミサイルと武装の幅が広がった。アクラIIは現在建造中の改良型で、全体的な能力向上が図られている。

攻撃潜水艦 **アクラII** 攻撃2	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	9000	150	6	800	500	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	58	58	64	64	62	
兵装	対艦ミサイル／対潜ミサイル／魚雷／巡航ミサイル					
露 軍						



1981年に就役した原子力弾道ミサイル潜水艦。高精度のトライデントC4戦略核ミサイルを搭載し、絶大な攻撃力を誇る。核攻撃を受けた場合の核報復力の根幹。巨大なミサイルを24基も搭載しているため、従来の戦略原潜よりかなり大型化している。なお9番艦以降は性能向上型のトライデントD5ミサイルを搭載している。旧ソ連の脅威の消滅で、存在意義はかなり減少した。

ミサイル潜水艦 **オハイオ** 攻撃3	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	16000	200	6	800	600	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	53	53	51	51	45	
兵装	弾道ミサイル／魚雷					
米						



旧ソ連海軍が建造した世界最大の戦略ミサイル原子力潜水艦。1番艦のタイフーンは、1982年に就役した。アメリカのオハイオ級に対抗する巨大な攻撃力を持ち、東西の核戦争時に報復のための核ミサイル攻撃をすることが主要任務だ。異様に幅の広い巨大な船体、セイルの前方にミサイル発射区画を置く等特色の多い設計であるが、運用実績は良くなかったらしい。

ミサイル潜水艦 **タイフーン** 攻撃3	生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
	16400	200	6	800	600	0
回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対陸上回避	対海上回避	対海中回避	
	48	48	47	47	42	
兵装	対艦ミサイル／魚雷					
露						



1996年に就役したフランス海軍の最新鋭戦略ミサイル原子力潜水艦。これまで運用されてきたランフレクシブル級を代替するもので、はるかに大型で、搭載ミサイルも弾頭数、射程の延びた新型が採用された。推進装置にポンプジェット方式を採用、フランク・アレイ・ソナー、曳航ソナーを装備する。フランスは今後、核抑止力を戦略核原潜に集約していく意向である。

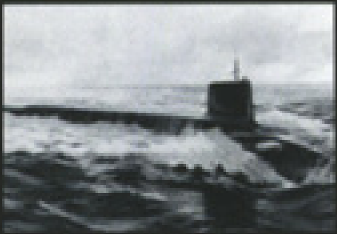
ミサイル潜水艦
ル・トリオンファン
攻撃3

[illegible]

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
15800	200	6	800	600	0

回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対艦上回避	対海上回避	対海中回避
	50	50	50	50	44

兵装	
	対艦ミサイル／魚雷



イギリス海軍の最新鋭戦略ミサイル原子力潜水艦で、レゾリューション級を代替する。アメリカのオハイオ級を参考にしたといわれ、イギリスの潜水艦史上最大の艦である。ミサイルはアメリカ供与の新型トライデントミサイルが採用されている。静粛化に力が入れられ、推進装置はポンプジェット方式を採用。船体には吸音タイルが張られ、船体やセイルの形状にも工夫が払われている。

ミサイル潜水艦
ヴァンガード
攻撃3

英

生産資金	生産力	行動力	燃料	耐弾性	ステルス性
16200	200	6	800	600	0

回避性能	対航空回避	対ヘリ回避	対艦上回避	対海上回避	対海中回避
	54	54	52	52	46

兵装	
	対艦ミサイル／魚雷

GLOBAL FORCE

新・戦闘国家

The world is falling deeper and deeper into a chaotic state. And war is just waiting to break out everywhere. Now it's time for Global Force to go into action.

SCPS 10082